宇和島市企画政策部企画課　御中

第3次宇和島市総合計画策定のための市民アンケート調査結果報告書

Ver1.0

令和8年9月25日

地域創生Coデザイン研究所

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

目次

地域創生
Coデザイン
研究所

➢ 本報告書の構成は以下の通り。

章	内容	速報値報告書との差分
はじめに	• 調査対象・実施概要や設問一覧、標本分布などの基礎情報を掲示する。	
第1章：属性設問	• 回答者の性別・年齢・居住地区・居住年数などの属性を掲示する。	スライド14追加
第2章：Well-Being設問（基礎集計【性年代別】）	• Well-Being設問（53問）の全体スコアおよび性別・年代別のスコアを掲示する。	
第3章：Well-Being設問（属性別集計【性年代別】）	• 性別×年代の全16セグメントについて、複数設問で共通して表れる特徴を分析する。	スライド34修正
第4章：Well-Being設問（基礎集計【地区別】）	• Well-Being設問（53問）の全体スコアおよび地区別のスコアを掲示する。	新規
第5章：Well-Being設問（属性別集計【地区別】）	• 地区ごとに、Well-Being設問の特徴的なスコアと地域特性を踏まえた考察をまとめる。	新規
第6章：独自設問	• 宇和島市独自の設問について、全体の回答結果を掲示する。	
第7章：クロス集計	• 属性設問・Well-Being設問・独自設問を用いてクロス集計を行う。	新規
第8章：自由記述の傾向分析	• 自由記述設問（5問）の記述からキーワード抽出・カテゴリ分類を行い、傾向分析を行う。	新規
第9章：Well-Being因子分析	• Well-Being因子ごとに分析する。 • デジタル庁のWell-Beingダッシュボード等から取得した主観偏差値と客観偏差値を用いる • Well-Being指標分析のフレームワークに沿った分析（一部弊社オリジナル）を実施し、示唆をまとめる。	新規
第10章：因子間相関	• 因子間の関係の強さを分析する。	新規
第11章：まちづくりの論点	• 第1章～第10章の結果を踏まえて、まちづくりにおける論点を整理する。	新規
おわりに	• 集計・分析結果を通して総括するとともに、今後に向けた提言をまとめる。	新規

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

調査対象・実施概要

調査対象・実施概要

項目	内容
調査名称	第3次宇和島市総合計画策定のための市民アンケート調査
目的	計画の策定にあたり、市民の暮らしの実感やまちへの想いを聞くため
期間	2026/7/23（発送日）～2026/8/20
対象者	18歳以上の市民3,000人（無作為抽出）
送付方法	アンケート案内文の郵送
回答方法	郵送回答またはインターネット回答 ※インターネット回答は、郵送されたアンケート案内文に印字された二次元コードからWebサイト上で回答可能
設問数	72問 ※地域幸福度（Well-Being）調査の規定の設問含む、分岐設問は1問としてカウント
回答形式	単一選択/複数選択/自由記述

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧①

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
A. 属性（フェイスシート）			
A1	あなたの性別をお答えください。	SA	男性＝1，女性＝2，その他＝3
A2	あなたの年齢をお答えください。	数値	数字記入
A3	あなたのお住まいの郵便番号をお答えください。	数値	数字記入
A4	あなたのお住まいの地区をお答えください。	SA	宇和島地区＝1，吉田地区＝2，三間地区＝3，津島地区＝4
A5	宇和島市での居住年数をお答えください。	SA	1年未満＝1，1年以上5年未満＝2，5年以上10年未満＝3，10年以上20年未満＝4，20年以上＝5，生まれてからずっと＝6
A6	あなたの世帯の構成（同居している方）についておうかがいします。あなたは、この中のどれに当たりますか。	SA	1人世帯＝1，夫婦だけの1世代世帯＝2，親と子の2世代世帯＝3，親と子と孫の3世代世帯＝4，その他の世帯＝5
A7	あなたには、同居しているお子さんがいらっしゃいますか。	SA	いない＝1，18歳未満の子供がいる＝2，18歳以上の子供がいる＝3，両方いる＝4

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧②

地域創生
Coデザイン
研究所

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
B. 幸福度・生活満足度			
B1	現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても幸せ=10 ～ とても不幸=0
B2	今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても幸せ=10 ～ とても不幸=0
B3	現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても満足=10 ～ とても不満足=0
B4	宇和島市に住んでいる人は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	11段階	とても幸せ=10 ～ とても不幸=0，分からない＝11
B5	自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧③

地域創生
Coデザイン
研究所

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
C. 生活環境（都市環境等16因子）			
C1	住んでいる地域は、医療機関が充実している	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C2	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C3	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C4	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C5	自宅には、心地のいい居場所がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C6	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	5段階	非常にあてはまる=1 ～ 全くあてはまらない=5（逆転スコアリング）
C7	住んでいる地域では、適度な費用で住居を確保できる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C8	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C9	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧④

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
C. 生活環境（都市環境等16因子）　※前ページ続き			
C10	住んでいる地域では、子育て支援・補助が手厚い	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C11	住んでいる地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C12	住んでいる地域では、教育環境（小中高校）が整っている	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C13	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C14	住んでいる地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C15	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C16	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C17	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C18	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧⑤

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
C. 生活環境（都市環境等16因子）　※前ページ続き			
C19	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C20	住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C21	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C22	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C23	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C24	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C25	住んでいる地域では、防災対策がしっかりしている	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C26	住んでいる地域は、防犯対策（交番・防犯灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
C27	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧⑥

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
D. 地域の人間関係（2因子）			
D1	住んでいる地域の人たちを信頼している	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D2	住んでいる地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D3	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D4	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D5	住んでいる地域に対して愛着を持っている	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D6	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D7	あなたは、見知らぬ他者であっても信頼する	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D8	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D9	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
D10	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧⑦

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
E. 自分らしい生き方（6因子）			
E1	自分のことを好ましく感じる	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E2	身体的に健康な状態である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E3	精神的に健康な状態である	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E4	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E5	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E6	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E7	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E8	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E9	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E10	住んでいる地域の文化・芸術に満足している	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1
E11	日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがある	5段階	非常にあてはまる=5 ～ 全くあてはまらない=1

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧⑧

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
F. 宇和島市独自設問			
F1	今お住まいの地区（宇和島・吉田・三間・津島）に、今後も住み続けたいと思いますか。	SA	住み続けたい＝1，どちらかといえば住み続けたい＝2，どちらともいえない＝3，どちらかといえば住みたくない＝4，住みたくない＝5
F1-2	宇和島市に、今後も住み続けたいと思いますか。	SA	住み続けたい＝1，どちらかといえば住み続けたい＝2，どちらともいえない＝3，どちらかといえば住みたくない＝4，住みたくない＝5
F2（分岐A）	【F1またはF1-2で「3」「4」または「5」と回答した方】今の地区や宇和島市から移りたい（移ってもよい）理由として当てはまるものをお選びください。（複数回答可）	MA	日常の買い物が不便だから＝1，道路事情や交通の便が悪いから＝2，地域の行事や近所づきあいが面倒だから＝3，子どもの保育・教育のことが心配だから＝4，適当な職場が少ないから＝5，保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから＝6，福祉分野のサービスや施設が不十分だから＝7，住環境の整備が遅れているから＝8，自然災害に不安を感じるから＝9，進学のため＝10，就職・転職のため＝11，結婚のため＝12，その他（具体的に：　　）＝13
F2（分岐B）	【F1・F1-2ともに「1」または「2」と回答した方】今の地区・宇和島市に住み続けたい理由として当てはまるものをお選びください。（複数回答可）	MA	日常の買い物に便利だから＝1，道路事情や交通の便が良いから＝2，地域の行事や近所づきあいが楽しいから＝3，子どもの保育・教育環境の面で安心だから＝4，適当な職場があるから＝5，保健・医療分野のサービスや施設が充実しているから＝6，福祉分野のサービスや施設が充実しているから＝7，住環境が整っているから＝8，自然災害への備えが充実しているから＝9，生まれ育った地域だから＝10，家族・親族が近くにいるから＝11，自然環境が良いから＝12，食べ物がおいしいから＝13，地域の文化・歴史に愛着があるから＝14，その他（具体的に：　　）＝15
F3	あなたは、宇和島市に愛着を感じていますか。	SA	感じている＝1，どちらかといえば感じている＝2，どちらともいえない＝3，どちらかといえば感じていない＝4，感じていない＝5
F4	あなたは、宇和島市のまちづくりに関わりたい・貢献したいと思いますか。	5段階	非常にそう思う=5 ～ 全くそう思わない=1
F5	あなたは、新しいことを学んだり、知識や技術を身につけたいという意欲がありますか。	5段階	非常にそう思う=5 ～ 全くそう思わない=1
F6	今後、人口減少が進む中で、行政サービスのあり方を見直す必要が出てくるかもしれません。その場合、あなたが将来的に見て受け入れやすいと思うものはどれですか。（あてはまるものをすべて）	MA	利用者が少ない公共施設を統合し、機能を集約する＝1，市の窓口の受付時間や対応方法を見直す＝2，利用者負担（公共施設の使用料等）を見直す＝3，行政サービスの一部を民間に委託する＝4，どれも受け入れにくい＝5

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

設問一覧⑨

設問No.	設問文	回答形式	回答選択肢
G. 自由記述			
G1	宇和島市の好きなところ・誇りに思うところを自由にお書きください。	FA	自由記述
G2	日常生活の中で困っていること・不便に感じていることを自由にお書きください。	FA	自由記述
G3	10年後の宇和島市がどうなっていてほしいか、あなたの想いをお聞かせください。	FA	自由記述
G4	ふだんの暮らしの中で「幸せだな」と感じる瞬間やエピソードがあれば教えてください。	FA	自由記述
G5	宇和島市で「もったいない」「もっと活かせるのに」と感じるモノがあればお書きください。	FA	自由記述

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

標本分布

- アンケートの回答数は940件であり、回収率は31.3%であった。
- 標本分布は以下の通り。

回収率

送付数：3,000通

回答数：940件
（内訳）
郵送：601件
Web：339件
回収率：31.3%

標本数

	男性	女性	その他	無回答	合計
10代	10	19	1	0	30
20代	30	63	0	1	94
30代	42	47	0	0	89
40代	53	65	0	0	118
50代	53	90	2	0	145
60代	78	100	0	1	179
70代	100	119	0	2	221
80代以上	29	27	1	1	58
無回答	2	3	0	1	6
合計	397	533	4	6	940

標本割合

	男性	女性	その他	無回答	合計
10代	1.1%	2.0%	0.1%	0.0%	3.2%
20代	3.2%	6.7%	0.0%	0.1%	10.0%
30代	4.5%	5.0%	0.0%	0.0%	9.5%
40代	5.6%	6.9%	0.0%	0.0%	12.6%
50代	5.6%	9.6%	0.2%	0.0%	15.4%
60代	8.3%	10.6%	0.0%	0.1%	19.0%
70代	10.6%	12.7%	0.0%	0.2%	23.5%
80代以上	3.1%	2.9%	0.1%	0.1%	6.2%
無回答	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%	0.6%
合計	42.2%	56.7%	0.4%	0.6%	100.0%

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

標本分布（標本割合－参考）

- 年齢区分の取り方に若干の差異はあるものの、地域・年齢別人口と照らし合わせた際にも、市の実態に一定合致した標本分布となっていると考えられる

年齢区分		男性				女性			
市民アンケート	地域･年齢別人口	市民アンケート		地域･年齢別人口		市民アンケート		地域･年齢別人口	
10代以下(18-19歳)	10代以下(15-19歳)	10	1.1%	1,312	2.0%	19	2.0%	1,169	1.8%
20代	20代	30	3.2%	2,228	3.5%	63	6.7%	2,045	3.2%
30代	30代	42	4.5%	2,376	3.7%	47	5.0%	2,151	3.3%
40代	40代	53	5.6%	3,578	5.6%	65	6.9%	3,342	5.2%
50代	50代	53	5.6%	4,688	7.3%	90	9.6%	4,541	7.1%
60代	60代	78	8.3%	4,466	6.9%	100	10.6%	4,894	7.6%
70代	70代	100	10.6%	5,767	9.0%	119	12.7%	6,841	10.6%
80代以上(80-85歳)	80代以上(80-84歳)	29	3.1%	1,509	2.3%	27	2.9%	2,391	3.7%

※1 地域･年齢別人口は宇和島市オープンデータカタログより調査年月日2026/9/1のものを使用し作成
※2 地域･年齢別人口の構成割合(%)は当該年齢区分の男女別人口数を総人口(64,315)で除して作成しているため、本表における足し上げ値は100.0%とならない

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

第1章：属性設問

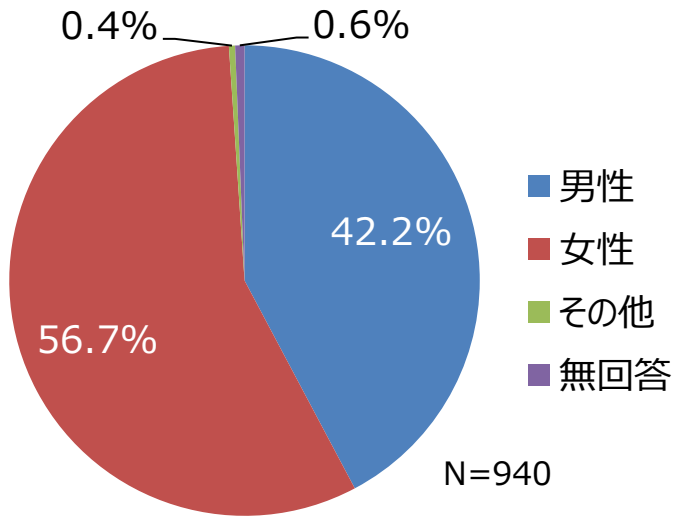
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

1.1 A1 性別

➢ 回答者の性別は、女性が56.7%、男性が42.2%であり、女性の割合が半数を超えている。

A１．あなたの性別をお答えください。

選択肢	件数	割合
男性	397	42.2%
女性	533	56.7%
その他	4	0.4%
無回答	6	0.6%



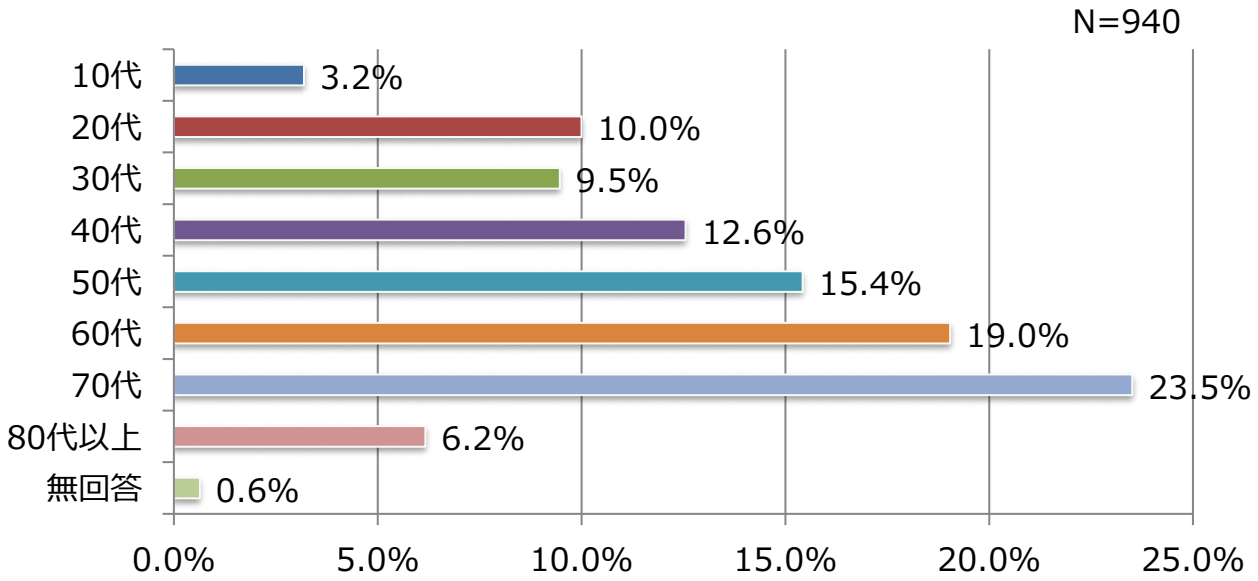
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

1.2 A2 年齢

- 回答者の年齢は、70代の回答者の割合が23.5%と最も高く、次いで60代（19.0%）、50代（15.4%）となっている。

A２．あなたの年齢をお答えください。

選択肢	件数	割合
10代	30	3.2%
20代	94	10.0%
30代	89	9.5%
40代	118	12.6%
50代	145	15.4%
60代	179	19.0%
70代	221	23.5%
80代以上	58	6.2%
無回答	6	0.6%



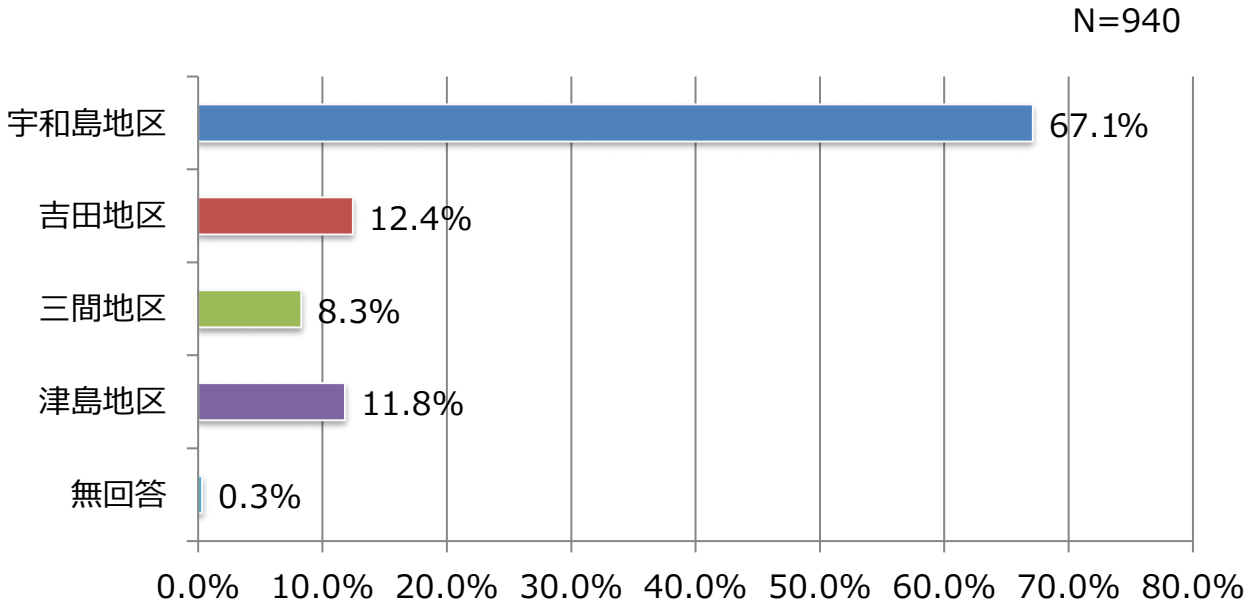
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

1.3 A4 居住地区

- 回答者の居住地区は、宇和島地区の割合が67.1%と最も高く、次いで吉田地区（12.4%）、津島地区（11.8%）となっている。

A４．あなたのお住まいの地区をお答えください。

選択肢	件数	割合
宇和島地区	631	67.1%
吉田地区	117	12.4%
三間地区	78	8.3%
津島地区	111	11.8%
無回答	3	0.3%



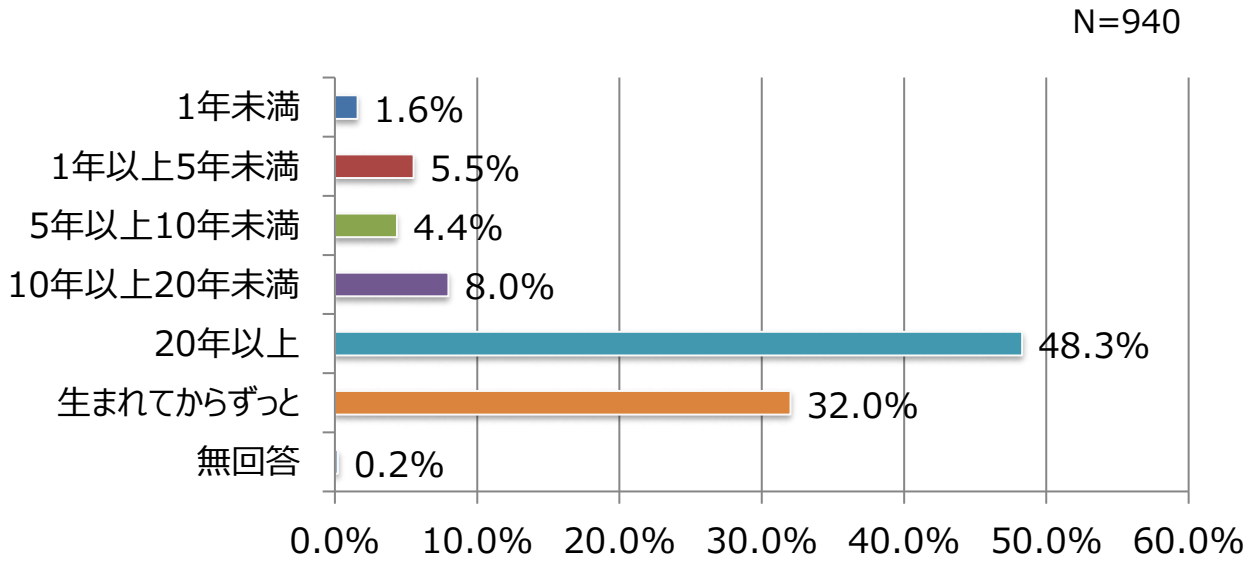
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

1.4 A5 居住年数

- 回答者の居住年数は、「20年以上」が48.3%と最も高く、次いで「生まれてからずっと」（32.0%）、「10年以上20年未満」（8.0%）となっている。
- 「生まれてからずっと」を含め、10年以上宇和島市に住んでいる人の割合は88.3%である。

A５．宇和島市での居住年数をお答えください。

選択肢	件数	割合
1年未満	15	1.6%
1年以上5年未満	52	5.5%
5年以上10年未満	41	4.4%
10年以上20年未満	75	8.0%
20年以上	454	48.3%
生まれてからずっと	301	32.0%
無回答	2	0.2%



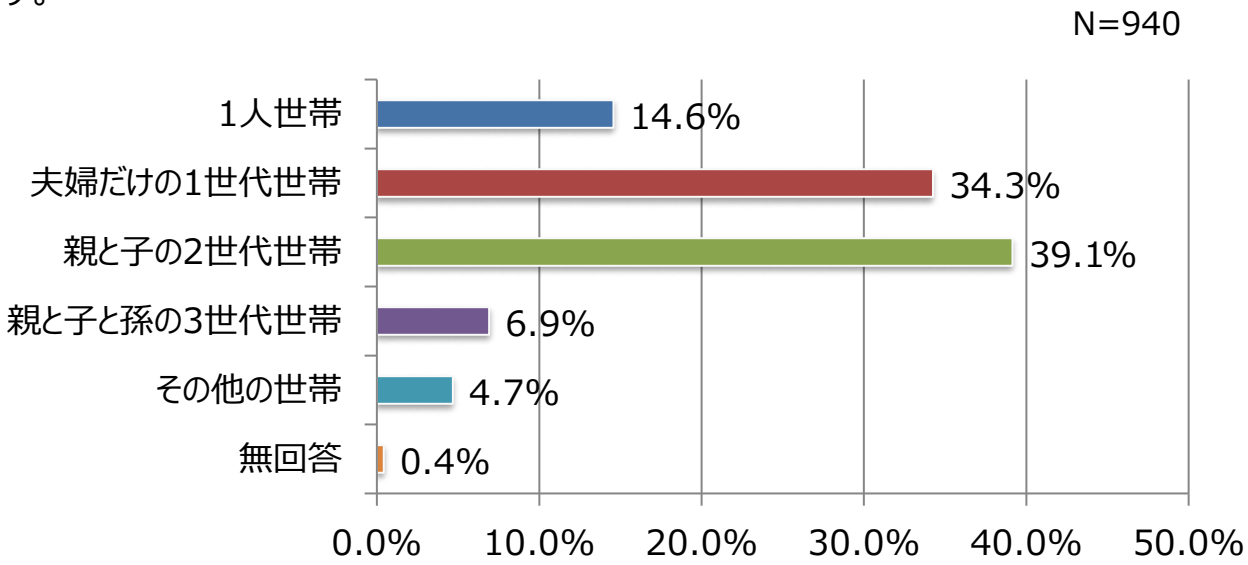
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

1.5 A6 世帯構成

- 回答者の世帯構成は、「親と子の2世代世帯」の割合が39.1%と最も高く、次いで「夫婦だけの1世代世帯」（34.3%）、「1人世帯」（14.6%）となっている。

A６．あなたの世帯の構成（同居している方）についておうかがいします。
あなたは、この中のどれに当たりますか。

選択肢	件数	割合
1人世帯	137	14.6%
夫婦だけの1世代世帯	322	34.3%
親と子の2世代世帯	368	39.1%
親と子と孫の3世代世帯	65	6.9%
その他の世帯	44	4.7%
無回答	4	0.4%



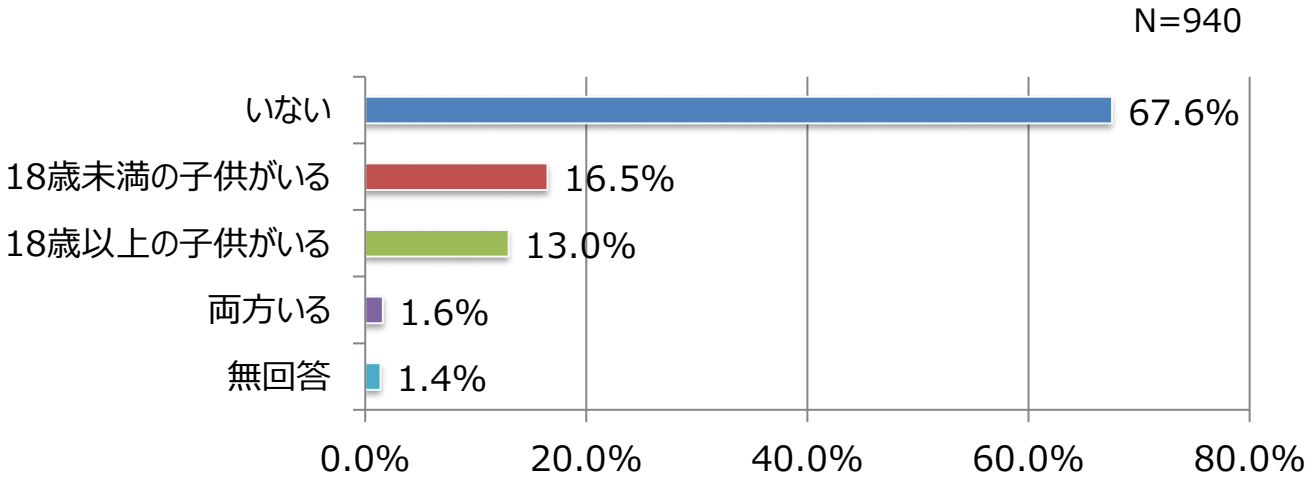
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

1.6 A7 同居している子ども

- 回答者と同居している子どもについては、「いない」の割合が67.6%と最も高く、約7割を占めている。次いで「18歳未満の子供がいる」（16.5%）、「18歳以上の子供がいる」（13.0%）となっている。

A７．あなたには、同居しているお子さんがいらっしゃいますか。

選択肢	件数	割合
いない	635	67.6%
18歳未満の子供がいる	155	16.5%
18歳以上の子供がいる	122	13.0%
両方いる	15	1.6%
無回答	13	1.4%



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

第2章：Well-Being設問（基礎集計【性年代別】）

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

2.1 設問別スコア：総合指標（幸福度・満足度）

- 現在の幸福度（B1）は6.68点である一方、地域での生活満足度（B3）は5.72点、地域幸福感（B4）は5.43点にとどまり、個人としての幸福感に比べて地域に対する評価が1.0～1.3pt低い。
- 性別による差はほとんどなく（女性が全設問でわずかに上回る程度）、年代別では10代が高く、40代で低い傾向にある。B1（幸福度）では10代（7.23点）と40代（6.32点）で0.91ptの開きがある。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.68	6.44	6.85	7.50	7.23	6.85	6.78	6.32	6.51	6.89	6.71	6.52	2件
B2	幸福度・満足度		今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.28	6.10	6.41	7.00	6.83	6.73	6.78	6.23	6.16	6.33	6.08	5.74	4件
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.72	5.70	5.73	6.67	5.57	5.67	5.27	5.26	5.46	5.94	6.20	5.93	2件
B4	幸福度・満足度		宇和島市に住んでいる人は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.43	5.40	5.43	データなし	5.86	5.81	5.01	4.95	5.17	5.59	5.69	5.74	3件
B5	幸福度・満足度		自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	3.04	3.01	3.06	3.00	3.47	3.32	3.02	2.95	2.97	2.97	3.06	3.02	11件

0～10点尺度

1～5段階尺度

※B4（地域幸福感）において、「わからない」を選んだ回答は127件（13.5%）

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

2.2.1 設問別スコア：生活環境①

- 自宅の心地よさ（C5～C6）は3.74～4.00と生活環境の中でも高い一方、飲食を楽しめる場所の充実（C4）は2.39と低く、「住まいの快適さ」は満たされても「日常の選択肢の乏しさ」を感じている様子が見て取れる。
- 医療機関の充実（C1）は、80代以上・70代（3.12～3.16）では一定の評価を得ている一方、30代・40代（2.45～2.55）では低く、子育て・現役世代ほど評価が厳しい。

※以降すべて1～5段階尺度

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)							無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	2.86	2.92	2.81	3.25	3.00	2.97	2.45	2.55	2.76	2.83	3.16	3.12	2件
C2	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.93	2.93	2.93	3.25	2.97	3.05	2.79	2.75	2.81	2.97	3.06	2.93	12件
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	2.97	3.03	2.92	3.50	2.70	3.03	3.07	2.95	2.87	2.94	3.14	2.69	5件
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.39	2.43	2.36	2.50	2.67	2.72	2.58	2.38	2.29	2.23	2.40	2.09	3件
C5	生活環境	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある	3.74	3.64	3.81	4.50	3.80	3.85	3.92	3.81	3.60	3.76	3.70	3.54	3件
C6	生活環境	住宅環境	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	4.00	3.92	4.05	4.33	4.30	4.16	3.96	4.02	3.94	3.95	3.95	4.02	7件
C7	生活環境	住宅環境	住んでいる地域では、適度な費用で住居を確保できる	2.77	2.85	2.70	3.67	3.03	2.87	2.58	2.67	2.86	2.79	2.76	2.72	25件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

2.2.2 設問別スコア：生活環境②

- 遊び・娯楽（C9）は1.67、移動・交通（C8）は2.00と全設問中でも低い水準にあり、前ページ同様に「日常の選択肢の乏しさ」を感じている様子が見て取れる。
- 教育環境（C12～C13、2.86～2.98）は全体平均（2.78）と同水準で、突出した強みとも弱みともなっていない。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)							無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	2.00	2.05	1.96	2.33	2.03	1.94	1.96	1.86	1.85	1.98	2.24	1.91	3件
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.67	1.67	1.67	2.50	2.17	1.67	1.56	1.60	1.58	1.59	1.88	1.45	5件
C10	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	2.51	2.49	2.51	3.33	2.67	2.76	2.54	2.42	2.47	2.44	2.52	2.41	37件
C11	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こどもたちがいきいきと暮らせる	2.73	2.76	2.69	3.75	3.10	2.88	2.87	2.64	2.68	2.57	2.79	2.67	25件
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境(小中高校)が整っている	2.86	2.89	2.81	4.00	3.23	3.00	2.81	2.81	2.77	2.73	2.94	2.94	15件
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	2.98	3.01	2.94	4.50	3.03	3.10	3.28	2.98	2.98	2.74	3.02	2.91	12件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

2.2.3 設問別スコア：生活環境③

- C18～C19（公共空間）は3.18～3.27と相対的に高く、身近な生活空間の快適性は支持されている。
- 一方、C20（都市景観）が2.42、C16～C17（デジタル生活）が2.46～2.61と低位で、地域の都市景観や行政・生活のデジタル化に課題感がある。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)							無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
C14	生活環境	地域行政	住んでいる地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	2.64	2.65	2.62	3.75	2.73	2.79	2.46	2.48	2.65	2.66	2.68	2.75	8件
C15	生活環境	地域行政	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	2.52	2.60	2.46	3.75	2.77	2.63	2.43	2.42	2.53	2.51	2.57	2.48	8件
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.61	2.59	2.62	3.50	2.83	2.78	2.60	2.56	2.70	2.53	2.59	2.38	29件
C17	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.46	2.45	2.46	3.33	3.00	2.66	2.51	2.47	2.57	2.38	2.34	2.12	29件
C18	生活環境	公共空間	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	3.27	3.28	3.24	3.75	3.63	3.32	3.25	3.21	3.23	3.17	3.34	3.21	8件
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.18	3.14	3.20	4.25	3.73	3.27	2.97	2.99	3.18	3.07	3.30	3.35	5件
C20	生活環境	都市景観	住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	2.42	2.49	2.37	3.50	2.70	2.59	2.40	2.37	2.49	2.28	2.41	2.46	17件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

2.2.4 設問別スコア：生活環境④

- 自然の恵み（C22～C23、3.53～3.75）は生活環境の中でも上位にあり、自然景観（C21 3.04）と合わせて明確な強みとなっている。
- 一方、C26（事故・犯罪）が2.56、C24（環境共生）が2.64とやや低く、体感治安や豊かな自然環境との共生に改善余地がある。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	3.04	3.02	3.04	3.75	3.70	3.30	3.29	2.97	3.05	2.89	2.96	2.80	9件
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.75	3.70	3.79	4.25	4.23	3.99	3.96	3.80	3.85	3.63	3.59	3.49	4件
C23	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.53	3.50	3.55	3.75	4.13	3.34	3.42	3.47	3.59	3.48	3.66	3.40	3件
C24	生活環境	環境共生	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	2.64	2.65	2.63	3.00	2.83	2.77	2.47	2.50	2.71	2.63	2.69	2.57	10件
C25	生活環境	自然災害	住んでいる地域では、防災対策がしっかりしている	2.80	2.85	2.75	3.75	3.30	2.95	2.71	2.64	2.76	2.78	2.84	2.73	12件
C26	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域は、防犯対策(交番・防犯灯・防犯カメラ・住民の見守りなど)が整っており、治安がよい	2.56	2.62	2.50	3.25	3.17	2.71	2.47	2.51	2.49	2.53	2.59	2.44	11件
C27	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	2.73	2.75	2.69	3.75	3.33	2.94	2.72	2.53	2.76	2.67	2.73	2.56	6件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

2.3.1 設問別スコア：地域の人間関係①

- 互助意識（D4、3.41）や地域への愛着（D5、3.34）は高い一方、相談相手の存在（D3）は2.77と低く、「地域全体への信頼・愛着」は強くても、いざというときの身近な支え合いには課題が残る。
- 地域とのつながり関連はいずれの設問も10代が最も高く、D3では30代が2.55で最低であり、10代（3.43）とは0.88ptの開きがある。働き盛り世代の地域とのつながりにくさがスコアから見受けられる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)							無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.20	3.23	3.75	3.63	2.96	3.10	3.04	3.26	3.19	3.40	3.40	2件
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動など)への市民参加が盛んである	2.85	2.88	2.82	3.75	3.20	2.77	2.89	2.80	2.83	2.80	2.93	2.84	3件
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.77	2.67	2.83	3.50	3.43	2.81	2.55	2.61	2.78	2.61	2.95	2.84	3件
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.45	3.37	3.50	3.80	3.35	3.52	3.31	3.33	3.39	3.49	3.33	15件
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている(好きだと思っている)	3.34	3.39	3.29	4.25	4.10	3.16	3.11	3.25	3.26	3.27	3.53	3.43	12件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

2.3.2 設問別スコア：地域の人間関係②

- 多様性と寛容性は前ページで触れた「地域全体への信頼・愛着」と対照的に全般に低い。見知らぬ他者への信頼(D7)が2.04と最も低く、全設問中でも下位の水準である。既存の結びつきの強さが、外部に対する開かれにくさと表裏になっている可能性がある。
- 女性活躍(D9)と若者活躍(D10)は若年層ほどスコアが高く、中高年層への変革の拡がりが要点となる可能性がある。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)							無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
D6	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.57	2.62	2.53	3.25	2.90	2.55	2.53	2.41	2.53	2.51	2.72	2.61	17件
D7	地域の人間関係	多様性と寛容性	あなたは、見知らぬ他者（知らない人）であっても信頼する	2.04	2.11	1.98	1.75	2.07	1.95	1.88	1.83	2.05	2.00	2.20	2.38	16件
D8	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	2.30	2.37	2.24	1.75	2.37	2.22	2.39	2.14	2.25	2.29	2.35	2.54	16件
D9	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.43	2.47	2.38	3.50	2.97	2.53	2.44	2.41	2.38	2.26	2.47	2.50	20件
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.15	2.23	2.08	3.25	2.90	2.30	2.15	2.10	2.05	1.99	2.23	2.07	22件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

2.4.1 設問別スコア：自分らしい生き方①

- E5（良い環境・文化を残したい）が3.74と全設問中でも高水準にあり、E2～E3（健康状態）も3.22～3.34と比較的高い。
- 一方、E4（文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい）は2.36と突出して低く、「良いものを残したい」意識と「今それが誇れるか」という実態の間に乖離がある。高年代ほどスコアが低い点も注目に値する。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)								無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる(好きだと感じる)	3.16	3.17	3.14	3.75	3.73	3.22	3.13	3.14	2.98	3.20	3.14	3.22	17件
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.22	3.12	3.28	3.50	4.03	3.68	3.44	3.47	3.14	3.11	2.93	2.77	10件
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.34	3.26	3.39	3.50	3.80	3.51	3.44	3.31	3.19	3.30	3.36	3.16	11件
E4	自分らしい生き方	文化･芸術	住んでいる地域は、文化･芸術･芸能が盛んで誇らしい	2.36	2.29	2.39	3.25	3.43	2.69	2.44	2.33	2.36	2.19	2.24	2.11	17件
E5	自分らしい生き方	文化･芸術	将来生まれてくる世代(こども)のために、良い環境や文化を残したい	3.74	3.71	3.76	4.25	3.93	3.81	4.04	3.91	3.67	3.69	3.62	3.49	18件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

2.4.2 設問別スコア：自分らしい生き方②

- E11（ゆとり、3.36）を除いていずれもスコアが低く、特にE7～E8（雇用・所得、1.88～2.00）、E9（事業創造、2.01）は全設問中でも低い水準にある。E6（教育機会、2.40）と合わせ、市内で学び・働き・挑戦するという「自己実現の選択肢」の不足が大きな課題である。
- E7～E8（雇用・所得）については、働き盛りの30代でスコアが低くなる点にも着目が必要である。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別)			属性別(年代)							無回答
					男性	女性	その他	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
E6	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	2.40	2.40	2.39	3.00	2.87	2.53	2.49	2.38	2.30	2.35	2.39	2.33	24件
E7	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	1.88	1.89	1.86	2.50	2.21	2.04	1.76	1.78	1.78	1.77	2.00	1.93	26件
E8	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	2.00	2.02	1.98	2.50	2.60	2.26	1.88	1.92	1.96	1.94	2.02	1.85	24件
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.01	2.03	2.00	2.25	2.67	2.23	2.00	2.04	1.92	1.89	2.02	1.80	27件
E10	自分らしい生き方	文化・芸術	私は、暮らしている地域の文化・芸術に満足している	2.45	2.42	2.45	3.25	3.37	2.68	2.49	2.42	2.42	2.25	2.45	2.22	22件
E11	自分らしい生き方	ゆとり	日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがある	3.36	3.27	3.42	4.25	4.00	3.38	3.28	3.08	3.10	3.39	3.56	3.56	16件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

第3章：Well-Being設問（属性別集計【性年代別】）

本章では性別（男性・女性）×年代（10代～80代以上）で16種類の属性（以下、セグメントと呼ぶ）で分析を実施。
性別×年代でセグメント化した際、とりわけ10代は標本数が少なくなるため、傾向の読み取りには留意が必要である。
そのため、本章の属性分析では標本数の少ない10代を除き、複数設問で共通して表れる構造的なパターンに着目して分析する。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

3.1 男性20代のまちへの高い期待

地域創生 Coデザイン 研究所

- 男性20代は全53設問中39設問で14セグメント※中最高となり、幸福度・満足度、生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方の4カテゴリすべてで最も高い。 ※男性10代・女性10代を除いたセグメント数
- 注目すべきは、市全体で最下位群にある因子ほど男性20代のスコアが相対的に高い点である。若者の活躍（D10）、教育機会（E6）、雇用（E7）、事業創造（E9）はいずれも最高値を占める。市の伸びしろに相当する領域をポジティブに捉えている層であり、この期待を就労・起業・地域参画等の実際の機会へ接続できるかが要点となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性10代	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70代	男性80代以上	女性10代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70代	女性80代以上
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.68	6.30	7.17	6.50	6.17	6.15	6.56	6.58	6.10	7.74	6.70	7.02	6.45	6.70	7.15	6.83	6.96
B2	幸福度・満足度		今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.28	6.30	7.20	6.29	6.11	5.81	6.23	5.99	5.28	7.11	6.56	7.21	6.33	6.36	6.38	6.14	6.19
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.72	5.20	6.40	4.90	5.57	5.43	5.82	6.05	5.66	5.79	5.32	5.60	5.02	5.43	6.01	6.29	6.26
B4	幸福度・満足度		宇和島市に住んでいる人は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.43	5.33	6.56	4.65	4.86	5.13	5.81	5.54	5.46	6.05	5.41	5.33	5.02	5.19	5.40	5.78	6.00
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.15	2.90	2.59	2.14	2.09	2.06	2.14	2.36	2.07	2.84	2.16	2.15	2.11	2.02	1.87	2.11	2.04
E6	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	2.40	2.90	2.90	2.36	2.47	2.28	2.28	2.36	2.33	2.79	2.33	2.62	2.31	2.30	2.42	2.41	2.31
E7	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	1.88	2.33	2.28	1.74	1.75	1.75	1.68	2.09	1.96	2.11	1.92	1.79	1.80	1.79	1.85	1.92	1.92
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.01	2.70	2.52	1.98	2.06	1.85	1.84	2.09	1.93	2.63	2.10	2.02	2.03	1.97	1.93	1.96	1.68

3.2 女性20～40代の「生活実感」と「地域との関係」の乖離

- 女性20代は、幸福度・満足度、生活環境、自分らしい生き方の3カテゴリではセグメント平均を上回る一方、地域の人間関係のみ14セグメント中で最も低い。地域の人への信頼（D1）、市民参加（D2）、支え合い（D4）、地域への愛着（D5）、地域の人からの寛容（D8）の5設問で最低を記録している。女性40代も多様性の受容（D6）で最低となり、地域の人間関係10設問のうち6設問の最低値を女性20～40代が占める。
- 注目すべきは、暮らしそのものへの評価は決して低くないにもかかわらず、地域との関係だけが選択的に低い点である。「地域とのつながりそのものを求めていない層」と「地域とつながる接点・機会の乏しさを感じている層」に二分されると考えられ、後者に対しては地域とつながってもらう働きかけが必要となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性10代	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70代	男性80代以上	女性10代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70代	女性80代以上
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.10	3.30	3.05	3.04	3.19	3.19	3.32	3.24	3.89	2.79	3.15	3.05	3.29	3.17	3.47	3.52
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動など)への市民参加が盛んである	2.85	2.90	3.17	2.88	2.81	2.77	2.79	2.98	2.76	3.32	2.57	2.89	2.78	2.86	2.79	2.88	2.89
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.50	3.72	3.67	3.43	3.40	3.30	3.47	3.30	3.95	3.16	3.38	3.20	3.28	3.45	3.51	3.35
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている(好きだと思っている)	3.34	3.80	3.69	3.17	3.47	3.31	3.23	3.53	3.21	4.21	2.90	3.06	3.08	3.21	3.29	3.53	3.65
D6	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.57	2.90	2.90	2.60	2.47	2.48	2.57	2.74	2.50	2.84	2.37	2.47	2.35	2.54	2.46	2.69	2.69
D8	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	2.30	2.50	2.55	2.36	2.19	2.23	2.42	2.41	2.61	2.37	2.03	2.43	2.11	2.27	2.19	2.30	2.54

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

3.3 現役世代男性（30代・50代）の二段階の「谷」

- 男性30代は7設問、男性50代は6設問で14セグメント中最低となる。ただし落ち込む領域は異なり、30代は地域での生活満足度(B3)、地域幸福感(B4)、身近な人の様子(B5)、相談相手の身近さ(D3)と、地域に係る設問に最低が集中する。一方、50代は自己効力感(E1)、健康状態(E3)、ゆとり(E11)と、自分自身の状態を問う設問で最低となる。
- 男性30代は「地域との関係」が、男性50代は「自身の心身の余力」が課題という構図が読み取れる。現役世代男性に対しては、地域活動への参加機会を増やす施策のみならず、生活のゆとりや時間的余裕への働きかけも必要となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性 10代	男性 20代	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	男性 70代	男性 80代以上	女性 10代	女性 20代	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代	女性 70代	女性 80代以上
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.72	5.20	6.40	4.90	5.57	5.43	5.82	6.05	5.66	5.79	5.32	5.60	5.02	5.43	6.01	6.29	6.26
B4	幸福度・満足度		宇和島市に住んでいる人は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.43	5.33	6.56	4.65	4.86	5.13	5.81	5.54	5.46	6.05	5.41	5.33	5.02	5.19	5.40	5.78	6.00
B5	幸福度・満足度		自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	3.04	3.40	3.53	2.76	2.98	2.91	3.01	3.03	2.90	3.53	3.23	3.26	2.92	3.02	2.93	3.06	3.04
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.77	2.90	3.07	2.43	2.58	2.70	2.55	2.75	2.69	3.63	2.68	2.66	2.63	2.83	2.64	3.12	2.96
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる（好きだと感じる）	3.16	3.40	3.59	3.21	3.09	2.89	3.14	3.22	3.25	3.84	3.03	3.06	3.18	3.02	3.24	3.08	3.20
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.34	3.30	3.83	3.40	3.21	3.04	3.14	3.31	3.11	4.00	3.35	3.47	3.38	3.28	3.42	3.40	3.22
E11	自分らしい生き方	ゆとり	日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがある	3.36	4.20	3.59	3.21	2.89	2.88	3.21	3.50	3.50	3.84	3.27	3.34	3.25	3.19	3.53	3.61	3.67

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

3.4 高齢期に男女で逆方向に開く幸福度・満足度

- 70代に比べ、80代以上は生活環境と自分らしい生き方への評価が男女ともに低下する。38設問のうち男性は33設問、女性は25設問で低下し、外出や健康状態に関わる項目に低下が見られる。
- 一方、幸福度と人間関係では方向が分かれる。男性は幸福度・満足度（B1～B5）の全設問で低下するのに対し、女性は幸福度が上昇ないし維持されるほか、地域への愛着（D5）や見知らぬ他者への信頼（D7）が同性の20代以降で最高値を示す。男女ともに同じ不便を抱えながらも女性では幸福度・満足度の低下に至っておらず、つながりや寛容性が緩衝材として働いている可能性がある。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性 10代	男性 20代	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	男性 70代	男性 80代以上	女性 10代	女性 20代	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代	女性 70代	女性 80代以上
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.68	6.30	7.17	6.50	6.17	6.15	6.56	6.58	6.10	7.74	6.70	7.02	6.45	6.70	7.15	6.83	6.96
B2	幸福度・満足度		今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.28	6.30	7.20	6.29	6.11	5.81	6.23	5.99	5.28	7.11	6.56	7.21	6.33	6.36	6.38	6.14	6.19
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.72	5.20	6.40	4.90	5.57	5.43	5.82	6.05	5.66	5.79	5.32	5.60	5.02	5.43	6.01	6.29	6.26
B4	幸福度・満足度		宇和島市に住んでいる人は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.43	5.33	6.56	4.65	4.86	5.13	5.81	5.54	5.46	6.05	5.41	5.33	5.02	5.19	5.40	5.78	6.00
B5	幸福度・満足度		自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	3.04	3.40	3.53	2.76	2.98	2.91	3.01	3.03	2.90	3.53	3.23	3.26	2.92	3.02	2.93	3.06	3.04
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている（好きだと思っている）	3.34	3.80	3.69	3.17	3.47	3.31	3.23	3.53	3.21	4.21	2.90	3.06	3.08	3.21	3.29	3.53	3.65
D7	地域の人間関係	多様性と寛容性	あなたは、見知らぬ他者（知らない人）であっても信頼する	2.04	2.10	2.28	1.90	1.77	2.06	2.17	2.25	2.25	2.11	1.78	1.85	1.88	2.05	1.87	2.14	2.50

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

第4章：Well-Being設問（基礎集計【地区別】）

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

4.1 設問別スコア：総合指標

地域創生Coデザイン研究所

- 総合指標は三間地区が高く（4/5設問）、津島地区が低い（5/5設問）傾向が見られた。
- ただ、性年代別の集計結果に照らした際、総合指標は地区間の数値差が相対的に小さく、居住地区よりも年代に起因する部分が大きいことが見て取れる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.68	6.68	6.83	6.95	6.32	2件
B2	幸福度・満足度		今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.28	6.31	6.19	6.60	5.95	4件
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.72	5.77	5.82	5.87	5.35	2件
B4	幸福度・満足度		宇和島市に住んでいる人は、大体において、どれぐらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.43	5.44	5.54	5.52	5.16	3件
B5	幸福度・満足度		自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	3.04	3.05	3.03	3.06	2.99	11件

0～10点尺度

1～5段階尺度

※B4（地域幸福感）において、「わからない」を選んだ回答は127件（13.5%）

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

4.2.1 設問別スコア：生活環境①

- C1(医療機関)は宇和島地区(3.03)が最も高く、三間地区(2.18)が0.85pt下回る。C3(買物)・C4(飲食)も同じく宇和島地区が最高(3.22・2.64)、三間地区が最低(2.24・1.68)で、地区差が最も大きい領域となっている。
- 一方、C5・C6(住宅環境)は三間地区(3.85・4.24)が最も高く、性年代別で見られた「住まいの快適さは満たされても日常の選択肢が乏しい」という構造が、三間地区で最も先鋭に現れている。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	地区別 吉田地区	地区別 三間地区	地区別 津島地区	無回答
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	2.86	3.03	2.67	2.18	2.62	2件
C2	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.93	3.00	2.92	2.65	2.75	12件
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	2.97	3.22	2.42	2.24	2.68	5件
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.39	2.64	1.81	1.68	2.05	3件
C5	生活環境	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある	3.74	3.78	3.61	3.85	3.59	3件
C6	生活環境	住宅環境	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	4.00	3.93	4.01	4.24	4.15	7件
C7	生活環境	住宅環境	住んでいる地域では、適度な費用で住居を確保できる	2.77	2.76	2.87	2.78	2.72	25件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

4.2.2 設問別スコア：生活環境②

- C8（公共交通機関）・C9（娯楽施設）はいずれも三間地区（1.46・1.32）が最も低く、いずれも宇和島地区（2.15・1.75）との差が0.4～0.7ptある。
- 一方、C12・C13（初等・中等教育）は津島地区（2.25・2.54）が最も低く、宇和島地区（3.00・3.13）を約0.6～0.75pt下回る。移動と娯楽は三間地区、教育環境は津島地区と、低位となる地区が分野ごとに分かれている。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	2.00	2.15	1.78	1.46	1.76	3件
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.67	1.75	1.57	1.32	1.63	5件
C10	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	2.51	2.51	2.68	2.41	2.36	37件
C11	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こどもたちがいきいきと暮らせる	2.73	2.73	2.73	2.91	2.62	25件
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境(小中高校)が整っている	2.86	3.00	2.82	2.62	2.25	15件
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	2.98	3.13	2.60	2.92	2.54	12件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

4.2.3 設問別スコア：生活環境③

- C14・C15（地域行政）とC16・C17（デジタル生活）は地区差がほとんど見られない。
- 三間地区においてC18・C19（公共空間）が最も高い一方、C20（都市景観）は最も低い点が特徴的である。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
C14	生活環境	地域行政	住んでいる地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	2.64	2.66	2.64	2.68	2.50	8件
C15	生活環境	地域行政	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	2.52	2.56	2.45	2.39	2.48	8件
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.61	2.64	2.51	2.55	2.54	29件
C17	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.46	2.51	2.31	2.31	2.39	29件
C18	生活環境	公共空間	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	3.27	3.24	3.24	3.42	3.32	8件
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.18	3.20	3.00	3.34	3.18	5件
C20	生活環境	都市景観	住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	2.42	2.52	2.29	2.09	2.28	17件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

4.2.4 設問別スコア：生活環境④

- C22・C23（自然の恵み）のスコアは三間地区（4.13・3.81）・津島地区（4.05・3.75）が高く、宇和島地区（3.64・3.44）が最も低い。反対にC26・C27（事故・犯罪）のスコアは宇和島地区（2.63・2.78）が最も高く、三間地区・津島地区（2.39～2.67）が低い。自然の豊かさと防犯・交通安全の評価は地区間で逆転する。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	3.04	3.03	2.97	3.13	3.10	9件
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.75	3.64	3.80	4.13	4.05	4件
C23	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.53	3.44	3.67	3.81	3.75	3件
C24	生活環境	環境共生	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	2.64	2.68	2.50	2.63	2.60	10件
C25	生活環境	自然災害	住んでいる地域では、防災対策がしっかりしている	2.80	2.82	2.74	2.92	2.62	12件
C26	生活環境	事故･犯罪	住んでいる地域は、防犯対策(交番･防犯灯･防犯カメラ･住民の見守りなど)が整っており、治安がよい	2.56	2.63	2.50	2.39	2.39	11件
C27	生活環境	事故･犯罪	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	2.73	2.78	2.61	2.67	2.55	6件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

4.3.1 設問別スコア：地域の人間関係①

➢ D1～D5（地域とのつながり）は5設問すべてで三間地区が最も高く、宇和島地区が最も低い。地区別に見た際、市中心部を含む市街地性の高い宇和島地区で支え合いの実感が弱い傾向が見られる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.16	3.29	3.44	3.35	2件
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動など）への市民参加が盛んである	2.85	2.80	2.97	3.01	2.93	3件
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.77	2.67	2.96	3.01	2.96	3件
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.36	3.54	3.58	3.45	15件
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている（好きだと思っている）	3.34	3.30	3.44	3.55	3.32	12件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

4.3.2 設問別スコア：地域の人間関係②

➢ D6～D10（多様性と寛容性）は地区差がほとんど見られず、総じて低い傾向にある。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
D6	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.57	2.55	2.65	2.58	2.62	17件
D7	地域の人間関係	多様性と寛容性	あなたは、見知らぬ他者（知らない人）であっても信頼する	2.04	1.97	2.11	2.23	2.21	16件
D8	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	2.30	2.24	2.43	2.46	2.35	16件
D9	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.43	2.41	2.46	2.53	2.41	20件
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.15	2.15	2.26	2.14	2.08	22件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

4.4.1 設問別スコア：自分らしい生き方①

- E1～E3（自己効力感、健康状態）はいずれも三間地区が最も高く、津島地区が最も低い。
- E4・E5（文化・芸術）は地区差がほとんど見られず、性年代別で言及した「良いものを残したい」意識と「今それが誇れるか」という実態の乖離は市全体にかかるものと捉えられる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる(好きだと感じる)	3.16	3.17	3.13	3.22	3.08	17件
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.22	3.24	3.20	3.27	3.07	10件
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.34	3.35	3.27	3.55	3.22	11件
E4	自分らしい生き方	文化・芸術	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.36	2.35	2.45	2.38	2.28	17件
E5	自分らしい生き方	文化・芸術	将来生まれてくる世代(こども)のために、良い環境や文化を残したい	3.74	3.76	3.72	3.74	3.67	18件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

4.4.2 設問別スコア：自分らしい生き方②

- E6～E9（教育機会、雇用・所得、事業創造）は総じて低いものの、いずれも宇和島地区が最も高い。
- E11（ゆとり）は顕著な地区差が見られず、全地区で一定の評価が得られている。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
E6	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	2.40	2.44	2.36	2.43	2.22	24件
E7	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	1.88	1.93	1.85	1.70	1.73	26件
E8	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	2.00	2.06	1.96	1.82	1.82	24件
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.01	2.06	1.93	1.90	1.86	27件
E10	自分らしい生き方	文化・芸術	私は、暮らしている地域の文化・芸術に満足している	2.45	2.46	2.52	2.42	2.29	22件
E11	自分らしい生き方	ゆとり	日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがある	3.36	3.37	3.40	3.27	3.36	16件

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

第5章：Well-Being設問（属性別集計【地区別】）

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

5.1 地区ごとのWell-Being（宇和島地区）

- 生活環境カテゴリを中心に生活利便性に関する評価の高さが明確に表れており、20/53設問で最も高い評価を得ている。一方、自然環境や地域とのつながりに関する評価は他地区に比べやや低く、市中心部を含む市街地性の高い宇和島地区の特徴が表れている。
- 地域とのつながりカテゴリでは、D3（困ったときに相談できる人）の数値の低さがやや大きく出ており、自身が地域の他者が困っている際に手助けするかを問うD4よりも地区差が大きい。この乖離が伸びしろであると考えることもできる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	2.86	3.03	2.67	2.18	2.62	2件
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	2.97	3.22	2.42	2.24	2.68	5件
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.39	2.64	1.81	1.68	2.05	3件
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境（小中高校）が整っている	2.86	3.00	2.82	2.62	2.25	15件
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	2.98	3.13	2.60	2.92	2.54	12件
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.77	2.67	2.96	3.01	2.96	3件
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.36	3.54	3.58	3.45	15件

5.2 地区ごとのWell-Being（吉田地区）

- C10（こども・子育て支援）、E4・E10（文化・芸術への誇り、満足）、E11（ゆとり）など、8/53設問で最も高い評価を得ている。他地区と比較した際、最高値8設問・最低値4設問といずれも少なく、突出した弱みがない点が特徴的な地区ともいえる。
- なお、最低値を示していたものはC16（行政サービスのデジタル化）、C19（心地よく歩ける場所）、C21（自慢できる自然景観）、C24（環境への取組み）であるが、これらも他地区と比較した際に突出して低い値とはなっていない。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
C10	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	2.51	2.51	2.68	2.41	2.36	37件
E4	自分らしい生き方	文化・芸術	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.36	2.35	2.45	2.38	2.28	17件
E10	自分らしい生き方	文化・芸術	私は、暮らしている地域の文化・芸術に満足している	2.45	2.46	2.52	2.42	2.29	22件
E11	自分らしい生き方	ゆとり	日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがある	3.36	3.37	3.40	3.27	3.36	16件
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.61	2.64	2.51	2.55	2.54	29件
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.18	3.20	3.00	3.34	3.18	5件
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	3.04	3.03	2.97	3.13	3.10	9件
C24	生活環境	環境共生	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	2.64	2.68	2.50	2.63	2.60	10件

5.3 地区ごとのWell-Being（三間地区）

- 地域とのつながりや自然環境に関する評価の高さが明確に表れており、25/53設問で最も高い評価を得ている。自己効力感・健康状態も全地区中最高であるほか、総合指標も4/5設問で最高値を示している。一方、生活利便性に関する評価では全地区中最低値を示すものが複数あり、宇和島地区と正反対の強み・弱みの組み合わせになっている。
- 三間地区の高い幸福度・満足度が地域とのつながりや自然環境・住宅環境に支えられていることに鑑み、生活利便性向上の取組みを図る際も、これらの基盤を損なわない形で進めることが肝要となる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
C23	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.53	3.44	3.67	3.81	3.75	3件
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.16	3.29	3.44	3.35	2件
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動など）への市民参加が盛んである	2.85	2.80	2.97	3.01	2.93	3件
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる（好きだと感じる）	3.16	3.17	3.13	3.22	3.08	17件
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.22	3.24	3.20	3.27	3.07	10件
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.34	3.35	3.27	3.55	3.22	11件
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	2.00	2.15	1.78	1.46	1.76	3件
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.67	1.75	1.57	1.32	1.63	5件

5.4 地区ごとのWell-Being（津島地区）

- 幅広い設問で他地区を少しずつ下回る評価が積み重なり、最も高い評価を得た設問は0/53設問、最も低い評価を得た設問が25/53設問という結果であった。総合指標も5設問すべてで最低値を示している。
- 単一のカテゴリや因子群が極端に低いわけではなく、生活利便性に関する評価では他地区を上回っているものも存在する。ただ、宇和島地区のように突出した強みとはなっていないことで、他の弱さを補って幸福度・満足度を底支えする構図にはなっていないことが見て取れる。

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別				無回答
					宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	2.86	3.03	2.67	2.18	2.62	2件
C2	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.93	3.00	2.92	2.65	2.75	12件
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	2.97	3.22	2.42	2.24	2.68	5件
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.39	2.64	1.81	1.68	2.05	3件
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	2.00	2.15	1.78	1.46	1.76	3件
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.67	1.75	1.57	1.32	1.63	5件
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.61	2.64	2.51	2.55	2.54	29件
C17	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.46	2.51	2.31	2.31	2.39	29件

第6章：独自設問

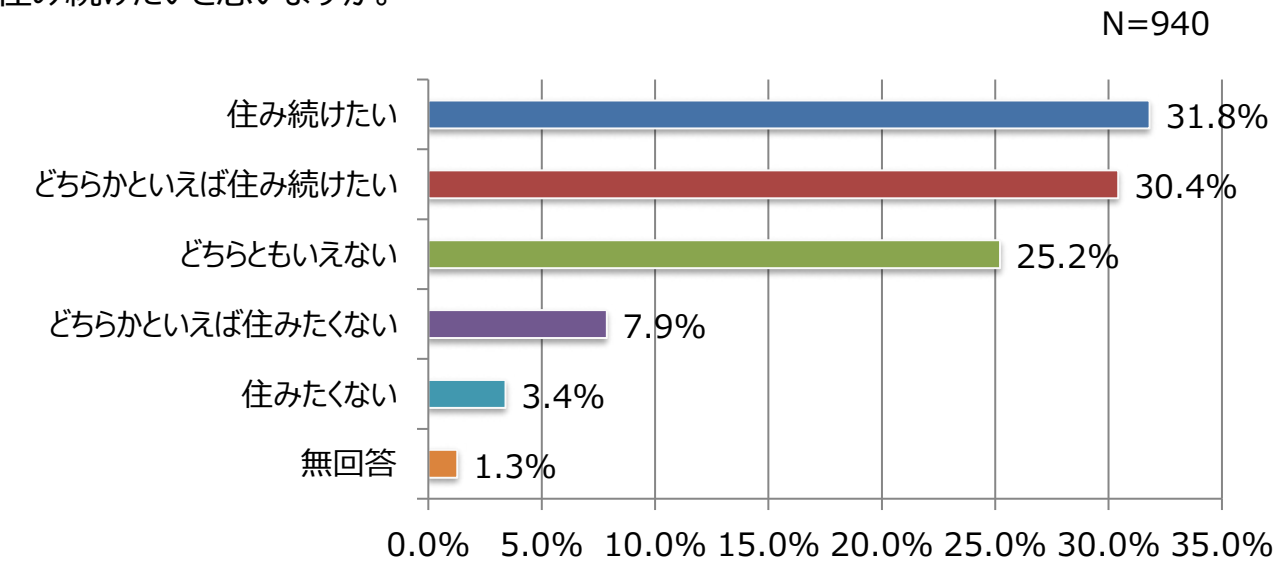
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

6.1 F1 地区への定住意向

- 「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた地区への定住意向のある回答者は62.2%であり、「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」を合わせた11.3%を大きく上回っている。

F１．今お住まいの地区（宇和島・吉田・三間・津島）に、今後も住み続けたいと思いますか。

選択肢	件数	割合
住み続けたい	299	31.8%
どちらかといえば住み続けたい	286	30.4%
どちらともいえない	237	25.2%
どちらかといえば住みたくない	74	7.9%
住みたくない	32	3.4%
無回答	12	1.3%



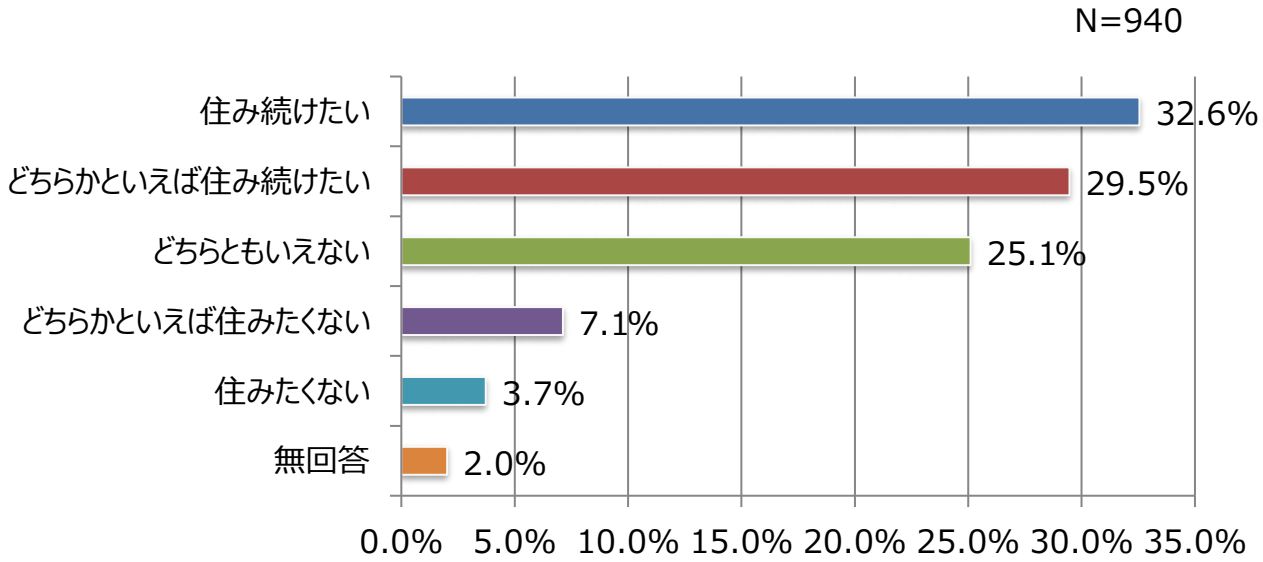
Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

6.2 F1-2 市への定住意向

- 市への定住意向のある回答者は62.1%であり、地区単位で尋ねたF1（62.2%）とほぼ同水準である。
  こちらも「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」を合わせた10.8%を大きく上回っている。

F１－２．宇和島市に、今後も住み続けたいと思いますか。

選択肢	件数	割合
住み続けたい	306	32.6%
どちらかといえば住み続けたい	277	29.5%
どちらともいえない	236	25.1%
どちらかといえば住みたくない	67	7.1%
住みたくない	35	3.7%
無回答	19	2.0%



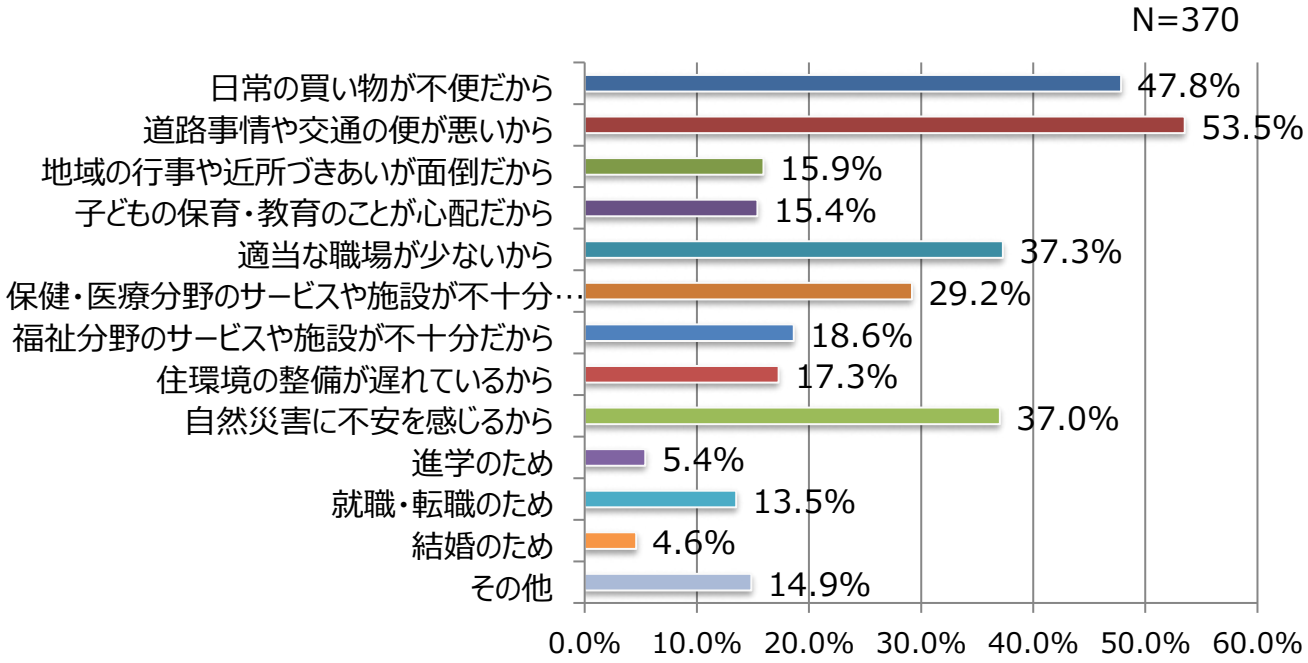
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

6.3 F2-a 移りたい／移ってもよい理由（分岐設問）

- 今の地区や宇和島市から移りたい（移ってもよい）理由としては、「道路事情や交通の便が悪いから」の割合が53.5%と最も高く、次いで「日常の買い物が不便だから」（47.8%）、「適当な職場が少ないから」（37.3%）、「自然災害に不安を感じるから」（37.0%）となっている。 上位2項目はいずれも生活の利便性に関する理由であり、半数前後の回答者が挙げている。

F２－ａ.【F１またはF１－２で③④または⑤と回答した方】
今の地区や宇和島市から移りたい（移ってもよい）理由として当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	件数	割合
日常の買い物が不便だから	177	47.8%
道路事情や交通の便が悪いから	198	53.5%
地域の行事や近所づきあいが面倒だから	59	15.9%
子どもの保育・教育のことが心配だから	57	15.4%
適当な職場が少ないから	138	37.3%
保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから	108	29.2%
福祉分野のサービスや施設が不十分だから	69	18.6%
住環境の整備が遅れているから	64	17.3%
自然災害に不安を感じるから	137	37.0%
進学のため	20	5.4%
就職・転職のため	50	13.5%
結婚のため	17	4.6%
その他	55	14.9%



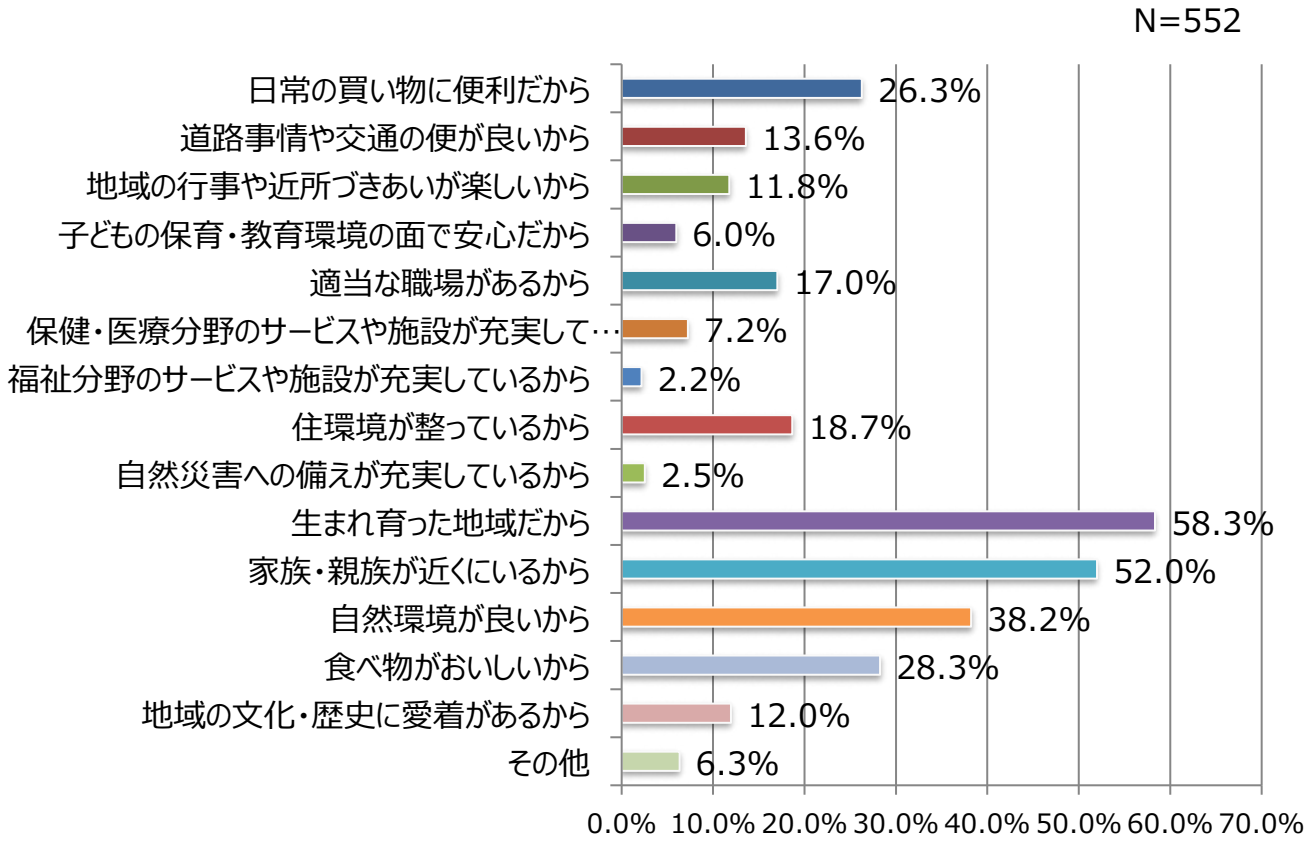
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

6.4 F2-b 住み続けたい理由（分岐設問）

- 今の地区・宇和島市に住み続けたい理由としては、「生まれ育った地域だから」の割合が58.3%と最も高く、次いで「家族・親族が近くにいるから」（52.0%）、「自然環境が良いから」（38.2%）となっている。定住の理由は出自・家族に集中している。

F２－ｂ.【F１・F１－２ともに①または②と回答した方】
今の地区・宇和島市に住み続けたい理由として当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	件数	割合
日常の買い物に便利だから	145	26.3%
道路事情や交通の便が良いから	75	13.6%
地域の行事や近所づきあいが楽しいから	65	11.8%
子どもの保育・教育環境の面で安心だから	33	6.0%
適当な職場があるから	94	17.0%
保健・医療分野のサービスや施設が充実しているから	40	7.2%
福祉分野のサービスや施設が充実しているから	12	2.2%
住環境が整っているから	103	18.7%
自然災害への備えが充実しているから	14	2.5%
生まれ育った地域だから	322	58.3%
家族・親族が近くにいるから	287	52.0%
自然環境が良いから	211	38.2%
食べ物がおいしいから	156	28.3%
地域の文化・歴史に愛着があるから	66	12.0%
その他	35	6.3%



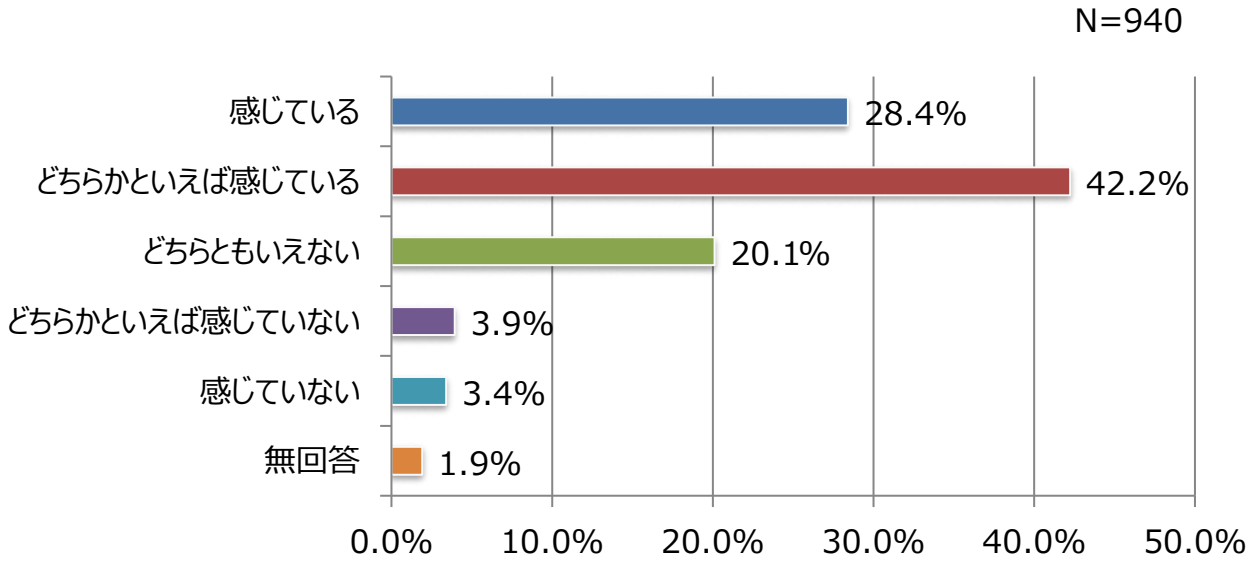
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

6.5 F3 宇和島市への愛着

- 「どちらかといえば感じている」と「感じている」を合わせて70.6%の回答者が宇和島市に愛着を感じており、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」を合わせた7.3%を大きく上回っている。

F３．あなたは、宇和島市に愛着を感じていますか。

選択肢	件数	割合
感じている	267	28.4%
どちらかといえば感じている	397	42.2%
どちらともいえない	189	20.1%
どちらかといえば感じていない	37	3.9%
感じていない	32	3.4%
無回答	18	1.9%



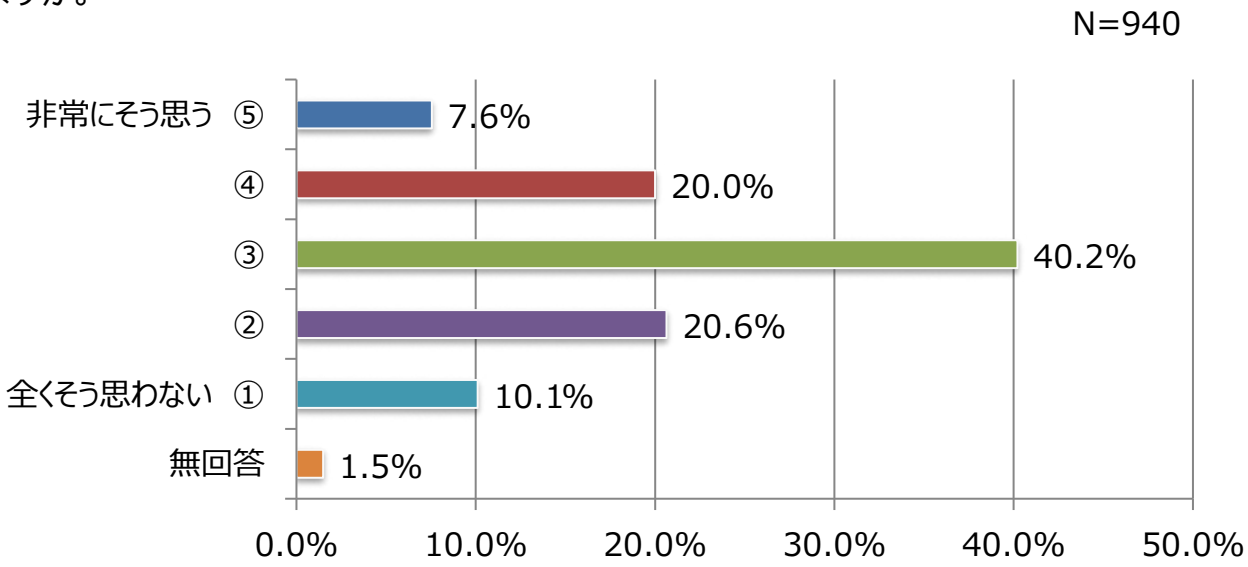
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

6.6 F4 まちづくりへの関与・貢献意欲

- 中間の③が40.2%と最も高く、次いで②（20.6%）、④（20.0%）となっている。愛着を感じる回答者が70.6%に上る一方で、まちづくりへの参画意欲には必ずしも結び付いていない。

F４．あなたは、宇和島市のまちづくりに関わりたい・貢献したいと思いますか。

選択肢	件数	割合
非常にそう思う ⑤	71	7.6%
④	188	20.0%
③	378	40.2%
②	194	20.6%
全くそう思わない ①	95	10.1%
無回答	14	1.5%



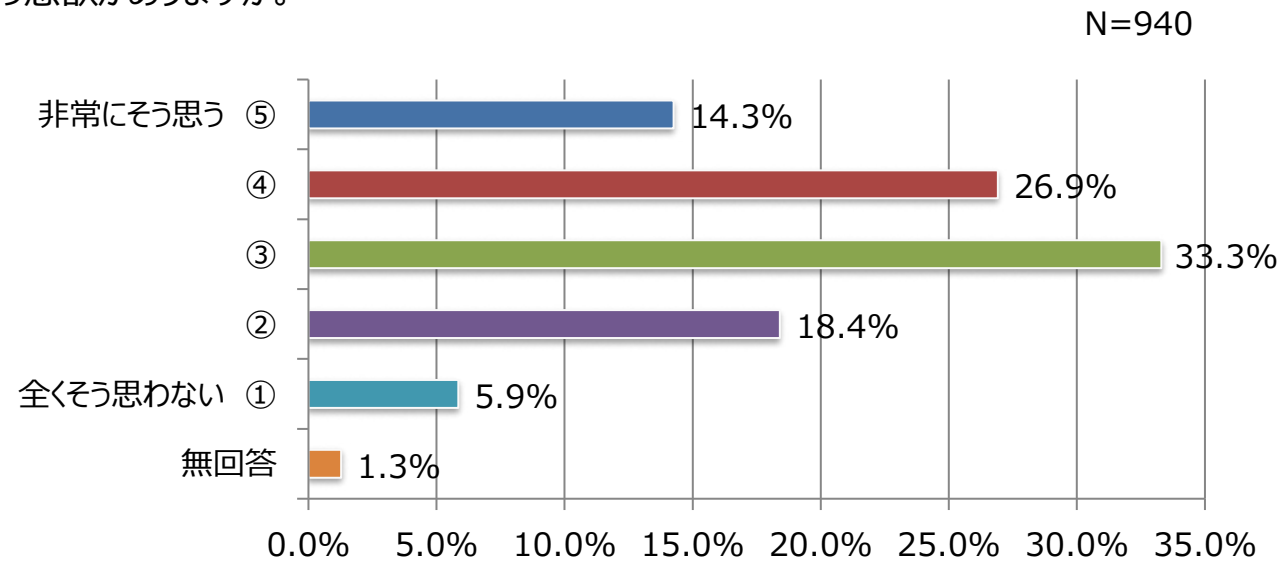
Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

6.7 F5 新しい学びや知識・技術への意欲

- 中間の③が33.3%と最も高く、次いで④（26.9%）、②（18.4%）となっている。意欲の高い⑤と④を合わせた41.2%が、意欲の低い①と②を合わせた24.3%を16.9pt上回っており、新しい学びや知識・技術への意欲は比較的高い水準にある。

F５．あなたは、新しいことを学んだり、知識や技術を身につけたいという意欲がありますか。

選択肢	件数	割合
非常にそう思う ⑤	134	14.3%
④	253	26.9%
③	313	33.3%
②	173	18.4%
全くそう思わない ①	55	5.9%
無回答	12	1.3%



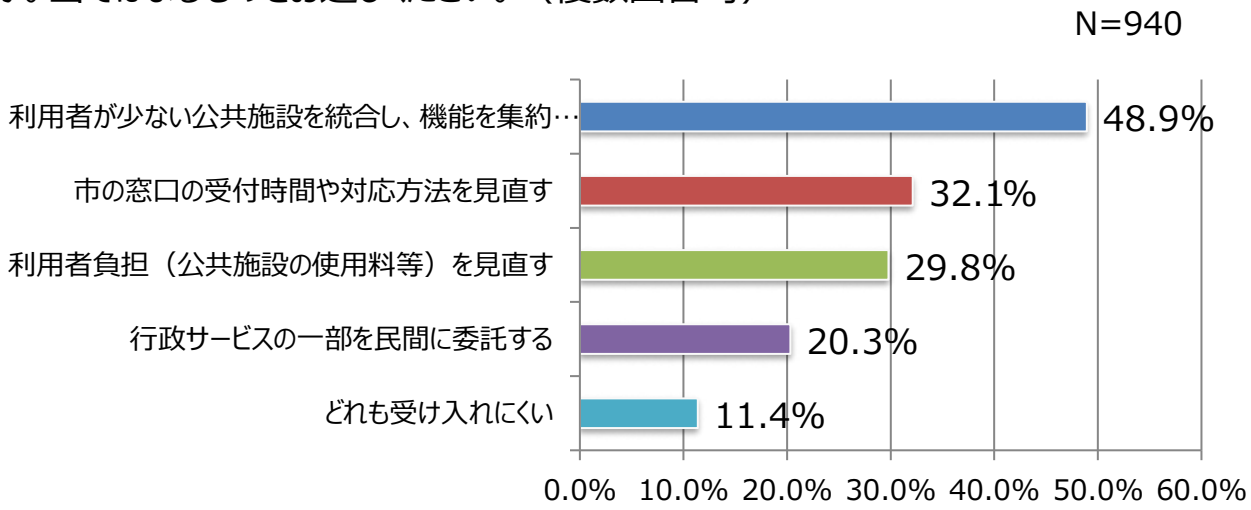
Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

6.8 F6 受け入れやすい行政サービスの見直し

- 「利用者が少ない公共施設を統合し、機能を集約する」を約半数の回答者が選択している。「どれも受け入れにくい」は11.4%にとどまり、大多数が何らかの見直しを受け入れる意向を示している。

F６．今後、人口減少が進む中で、行政サービスのあり方を見直す必要が出てくるかもしれません。
その場合、あなたが将来的に見て受け入れやすいと思うものはどれですか。当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	件数	割合
利用者が少ない公共施設を統合し、機能を集約する	460	48.9%
市の窓口の受付時間や対応方法を見直す	302	32.1%
利用者負担（公共施設の使用料等）を見直す	280	29.8%
行政サービスの一部を民間に委託する	191	20.3%
どれも受け入れにくい	107	11.4%



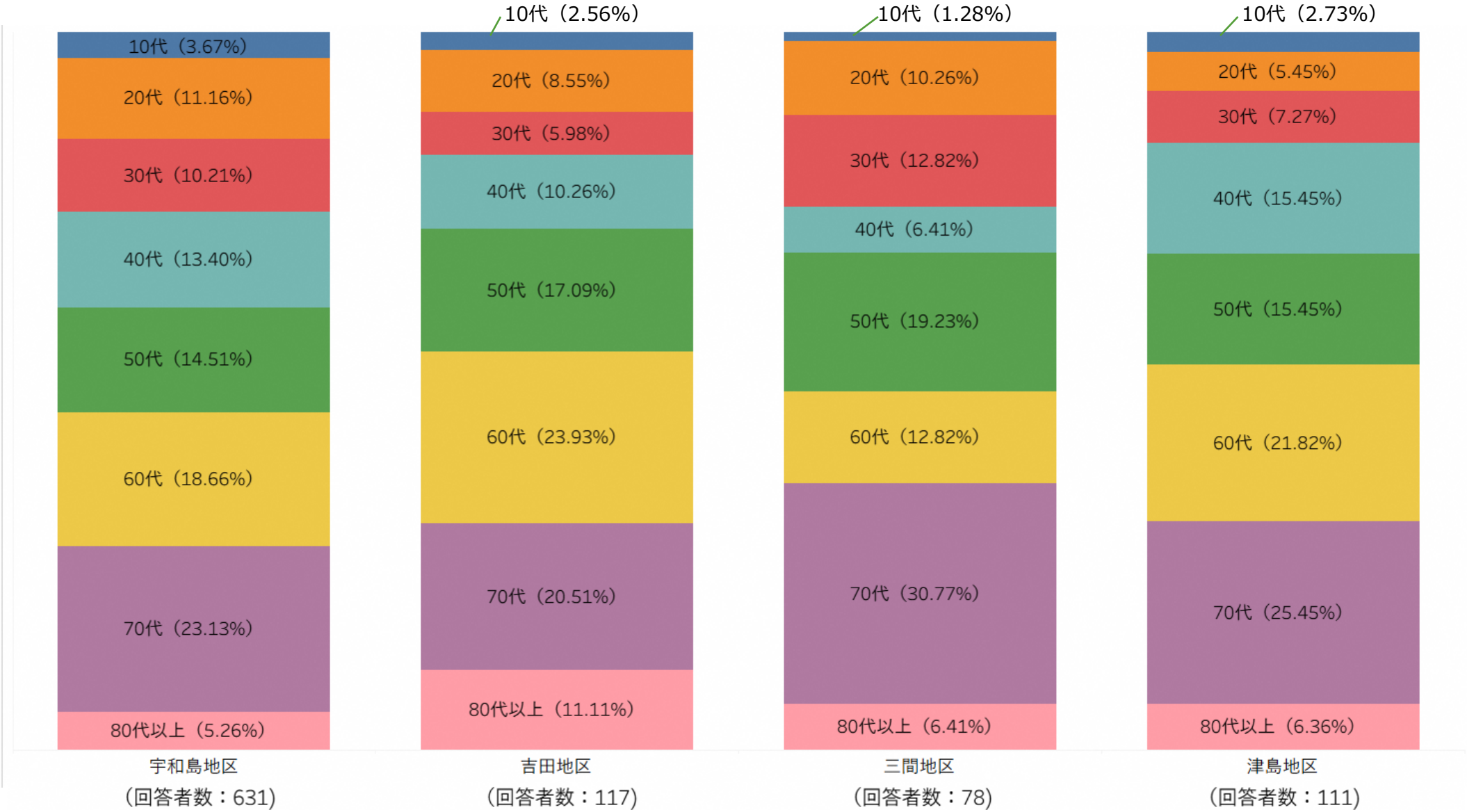
Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

第7章：クロス集計

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

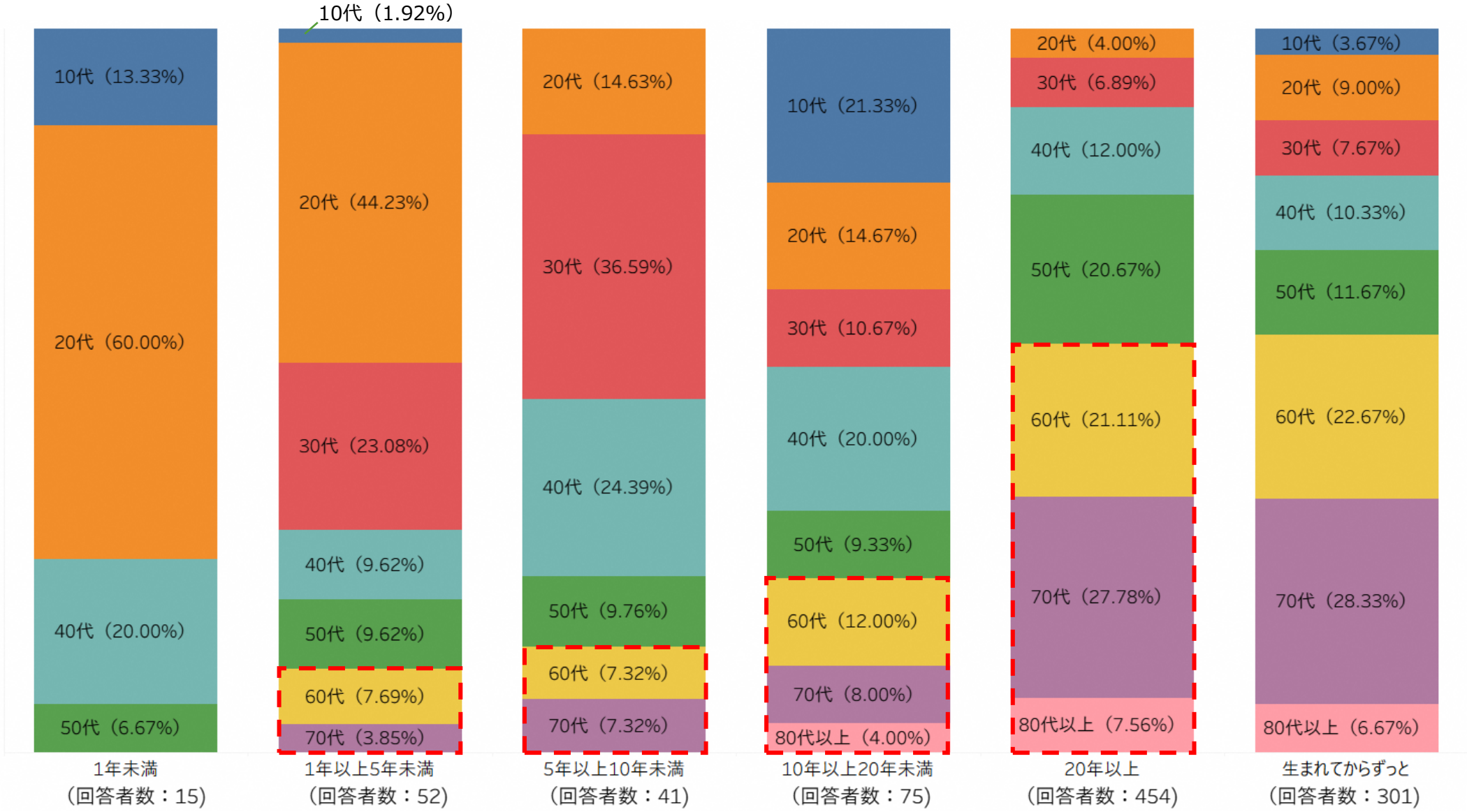
前提1 地区×年齢

➢ 地区ごとの回答者の年齢構成は以下の通りである。回答者の居住地区割合は地域別人口に概ね沿っている。



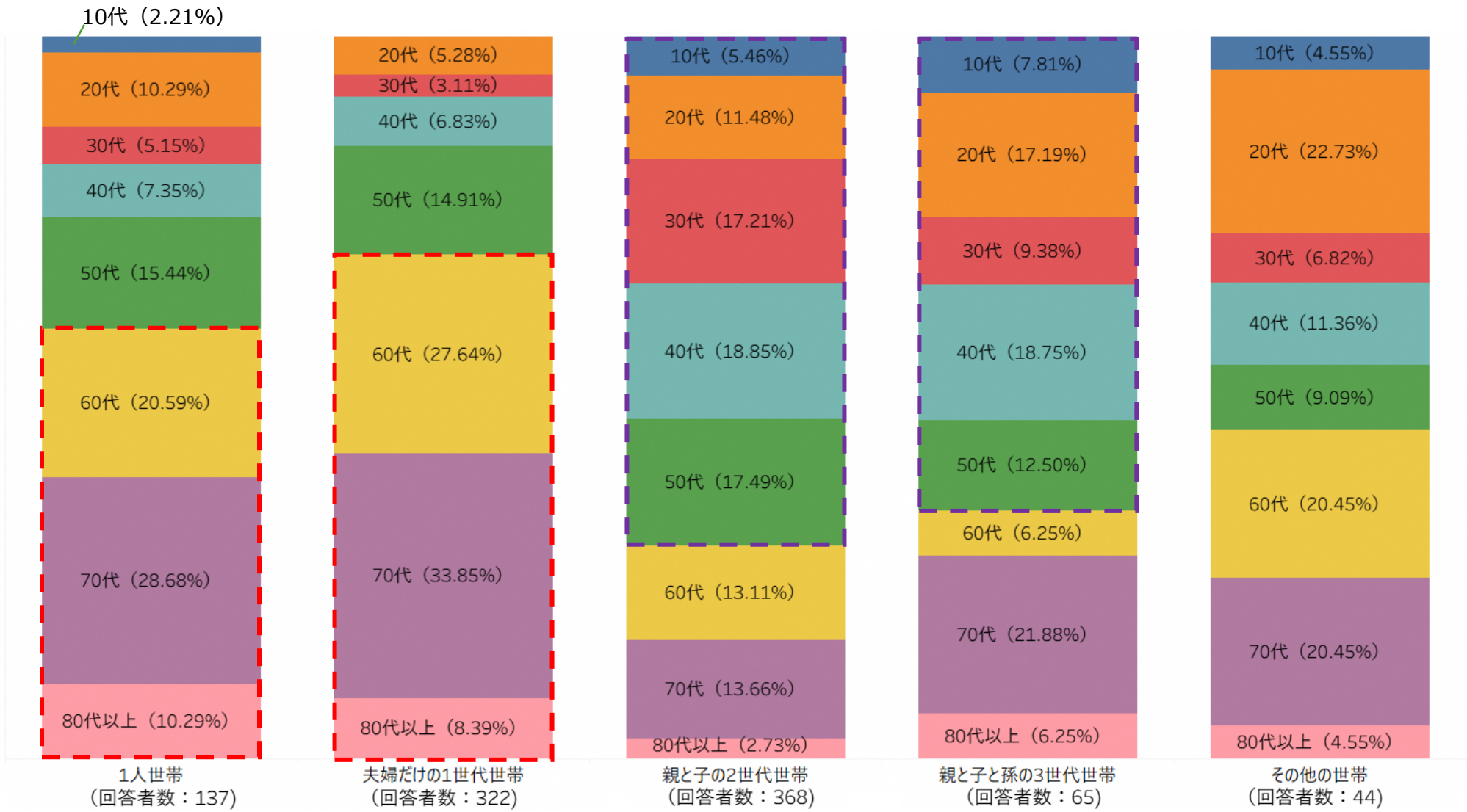
前提2 居住年数×年齢

➢ 居住年数が浅い回答者ほど若年層の割合が高く、長期居住の回答者ほど高齢層の割合が高い。



前提3 世帯構成×年齢

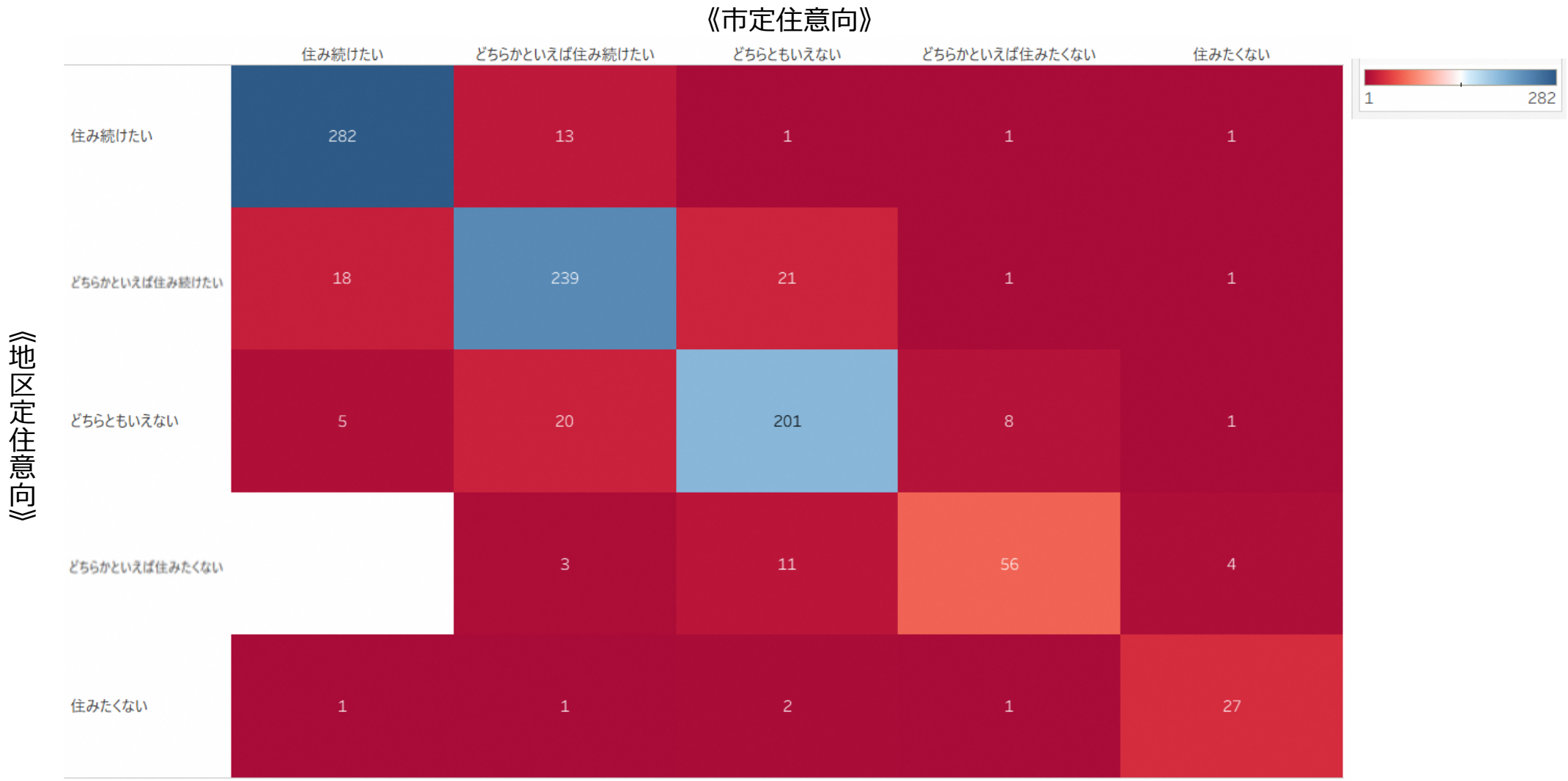
- 1人世帯および1世代世帯の回答者は60代以上の割合が高く、2世代世帯・3世代世帯の回答者は50代以下の割合が高い。



前提4 地区定住意向×市定住意向

地域創生
Coデザイン
研究所

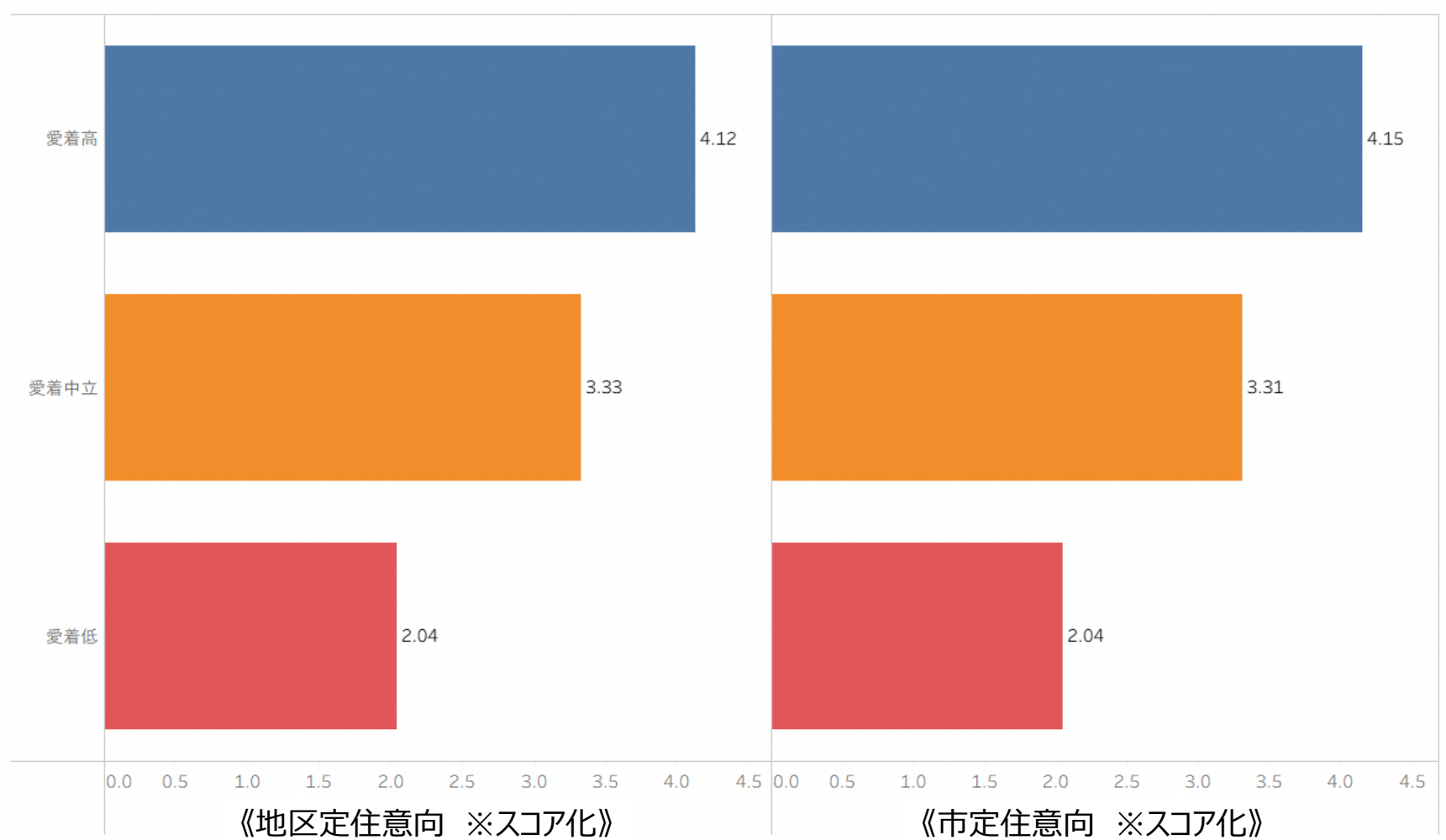
- 地区定住意向と市定住意向は概ね傾向が一致する。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

前提5 宇和島市への愛着×定住意向

➢ 宇和島市への愛着を高く示す層ほど、市・地区ともに定住意向が高い傾向が見られる。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.1.1 年齢×地区定住意向

- 20代では「住み続けたい」または「どちらかといえば住み続けたい」の回答割合が5割を下回り、他の年齢層と比較して定住意向がやや低い傾向が見られる。
- 70代以上は「住み続けたい」の回答割合が高く、定住意向が高い傾向が見られる。

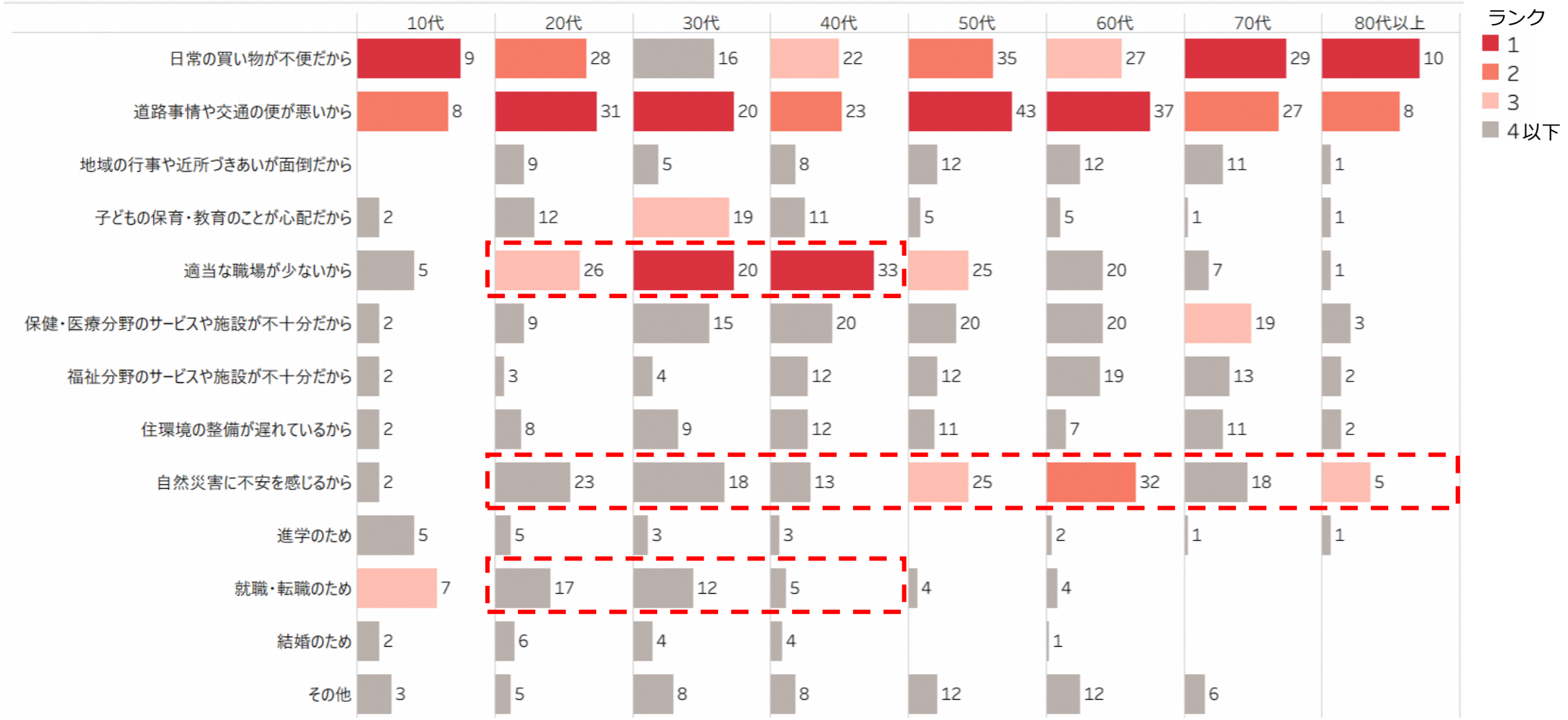
	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	総計
10代	20.00% 6	36.67% 11	23.33% 7	13.33% 4	6.67% 2	100.00% 30
20代	21.51% 20	27.96% 26	26.88% 25	18.28% 17	5.38% 5	100.00% 93
30代	34.83% 31	24.72% 22	26.97% 24	7.87% 7	5.62% 5	100.00% 89
40代	28.81% 34	27.97% 33	25.42% 30	14.41% 17	3.39% 4	100.00% 118
50代	24.14% 35	32.41% 47	33.10% 48	6.90% 10	3.45% 5	100.00% 145
60代	28.09% 50	33.15% 59	26.97% 48	7.30% 13	4.49% 8	100.00% 178
70代	43.93% 94	32.71% 70	19.63% 42	2.34% 5	1.40% 3	100.00% 214
80代以上	50.00% 28	32.14% 18	16.07% 9	1.79% 1		100.00% 56

1.40% 50.00%

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.1.2 年齢×転出・転居検討理由

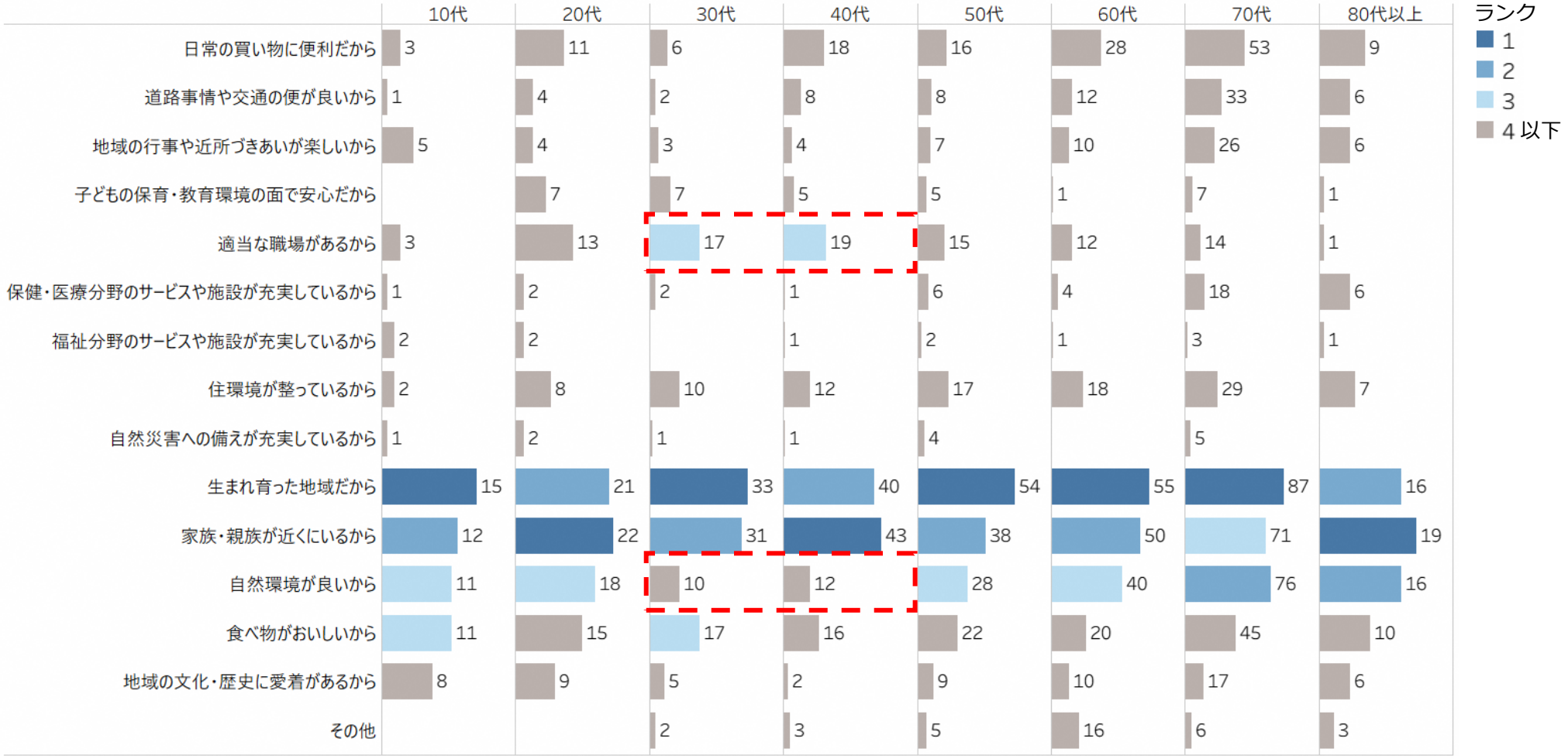
- 全年代で生活利便性に関する選択肢が転出・転居検討理由の上位にあがるが、30・40代をピークに「適当な職場が少ないから」が最上位となる（「就職・転職のため」を合わせるとより20～40代における顕著な傾向として見られる）。
- 「自然災害に不安を感じるから」が理由として一定の割合を占める点も注目に値する。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.1.3 年齢×定住理由

- 前ページと照らし合わせた際、30・40代の定住理由には「適当な職場があるから」が上位の理由としてあがっている点が特徴的といえる。 30・40代にとって魅力的と映る職場（の視野）が限られていることが考えられる。
- 他年代と異なり、30・40代の定住理由における「自然環境が良いから」の割合が低い点も注目に値する。

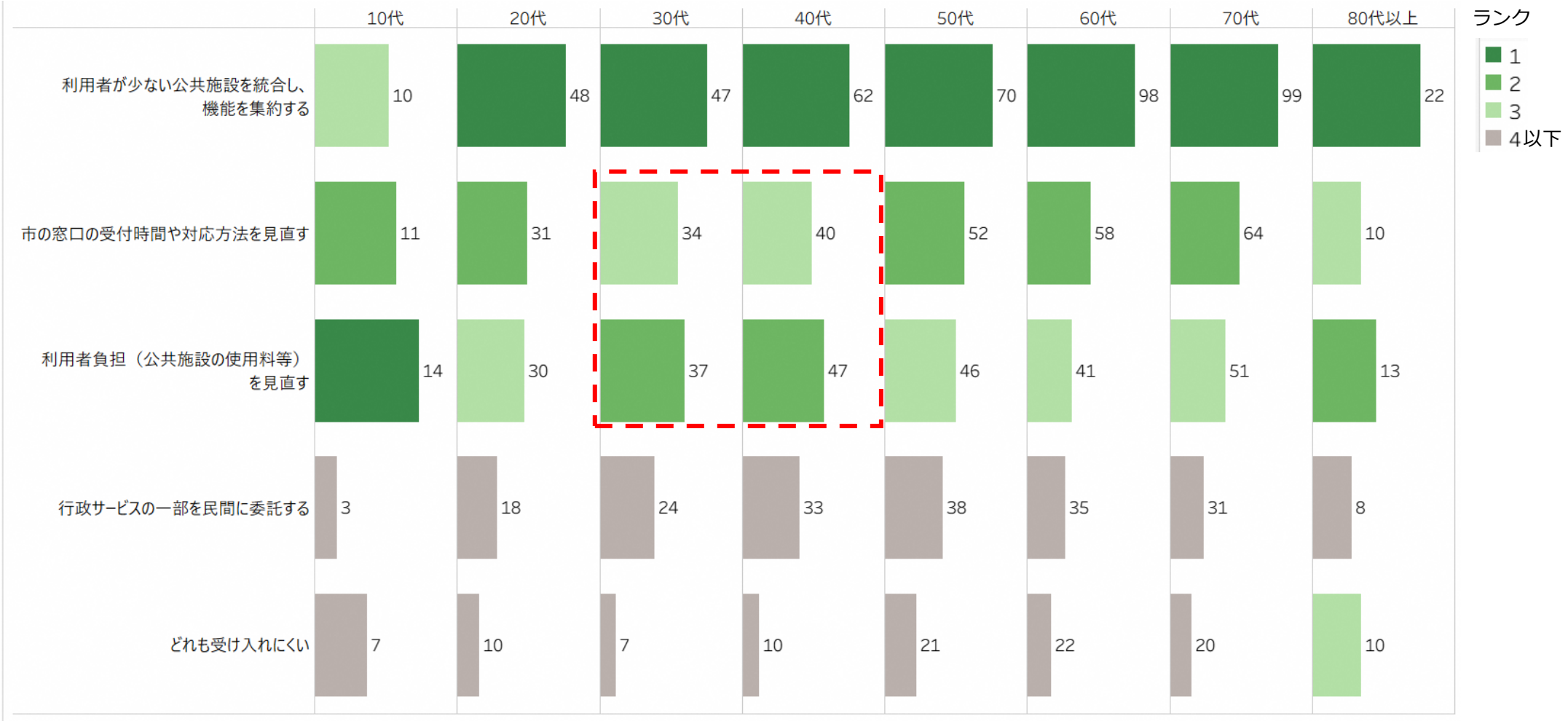


Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

7.1.4 年齢×受け入れやすい行政サービスの見直し

地域創生 Coデザイン 研究所

- 多くの年代で2位が「市の窓口の受付時間や対応方法を見直す」、3位が「利用者負担を見直す」である中、30・40代では順位の逆転が見られる。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.2.1 地区×地区定住意向

- 吉田地区は他地区と比較して「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」を合わせた割合が低い（積極的な転出意向が見られない）点が特徴的である。
- 三間地区は他地区と比較して「住み続けたい」と回答した割合が高く、積極的な定住意向が見られる。

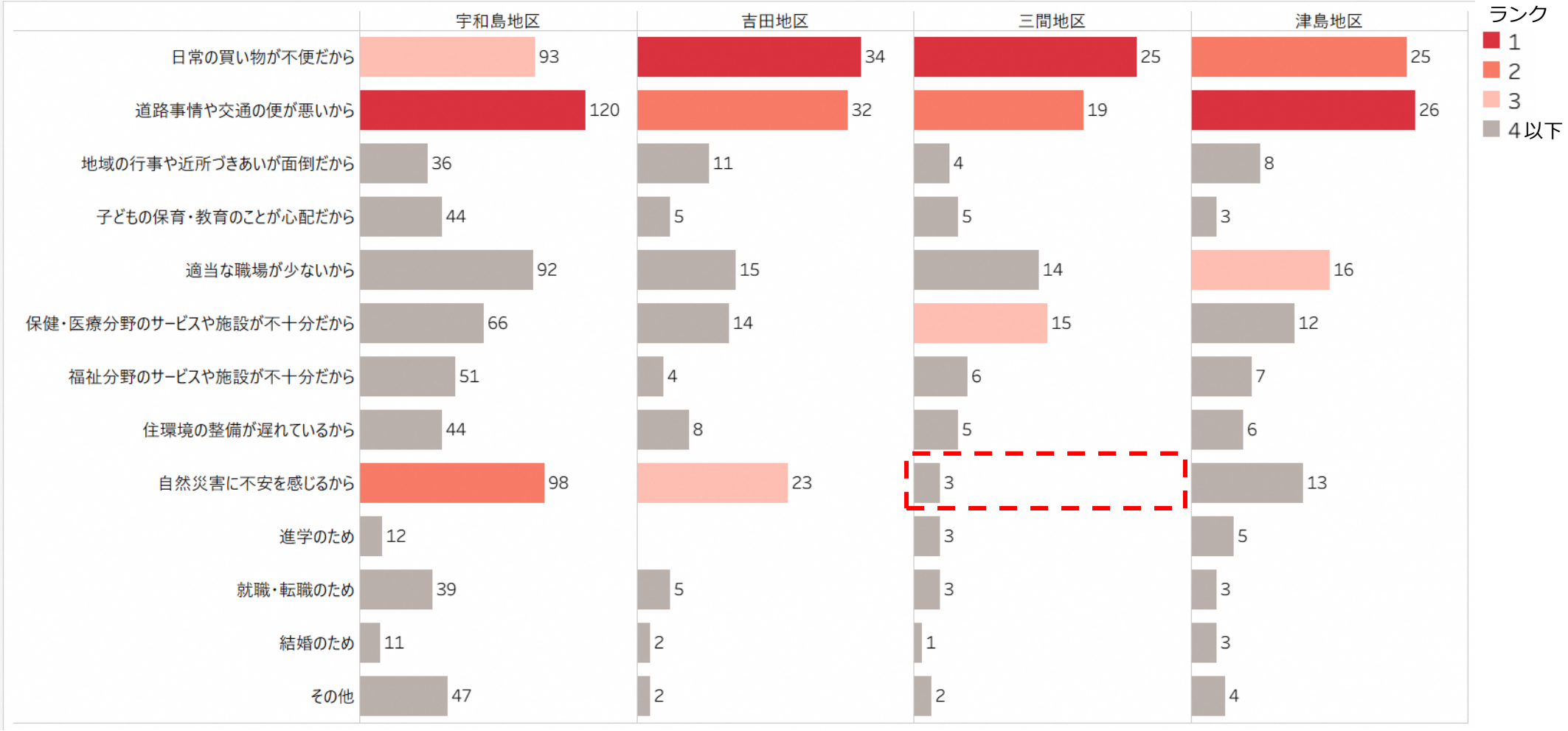
	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	総計
宇和島地区	31.25% 195	31.89% 199	25.00% 156	8.01% 50	3.85% 24	100.00% 624
吉田地区	28.07% 32	33.33% 38	29.82% 34	6.14% 7	2.63% 3	100.00% 114
三間地区	42.31% 33	28.21% 22	19.23% 15	8.97% 7	1.28% 1	100.00% 78
津島地区	35.45% 39	24.55% 27	27.27% 30	9.09% 10	3.64% 4	100.00% 110

1.28% 42.31%

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.2.2 地区×転出・転居検討理由

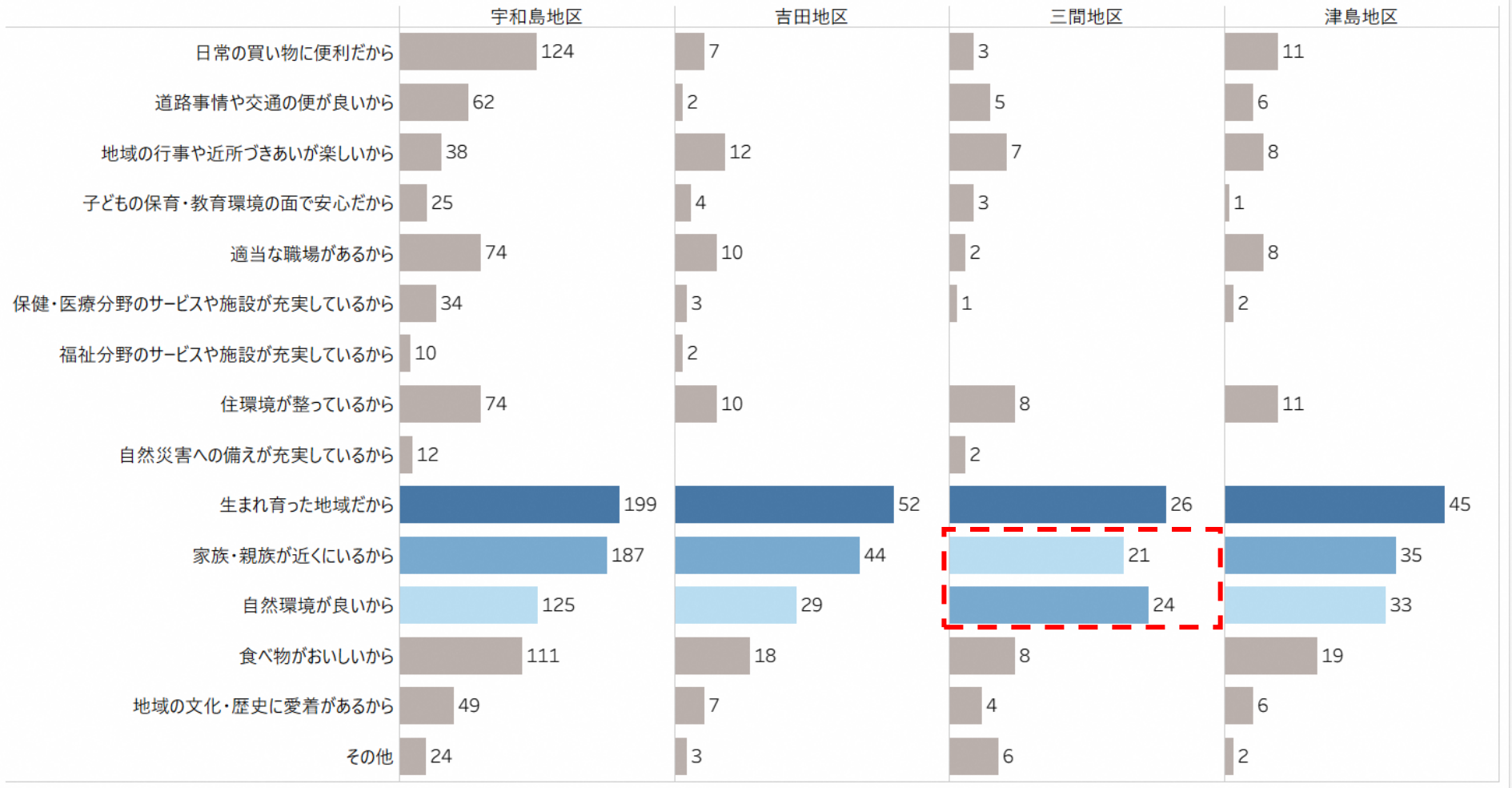
- 地区によって大きな差異が出ている点としては、三間地区の転出・転居検討理由に占める「自然災害に不安を感じるから」の割合が低いことが挙げられる。他地区と比較して津波・高潮のリスクが相対的に低いことが背景にあるのではないかと考えられる。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.2.3 地区×定住理由

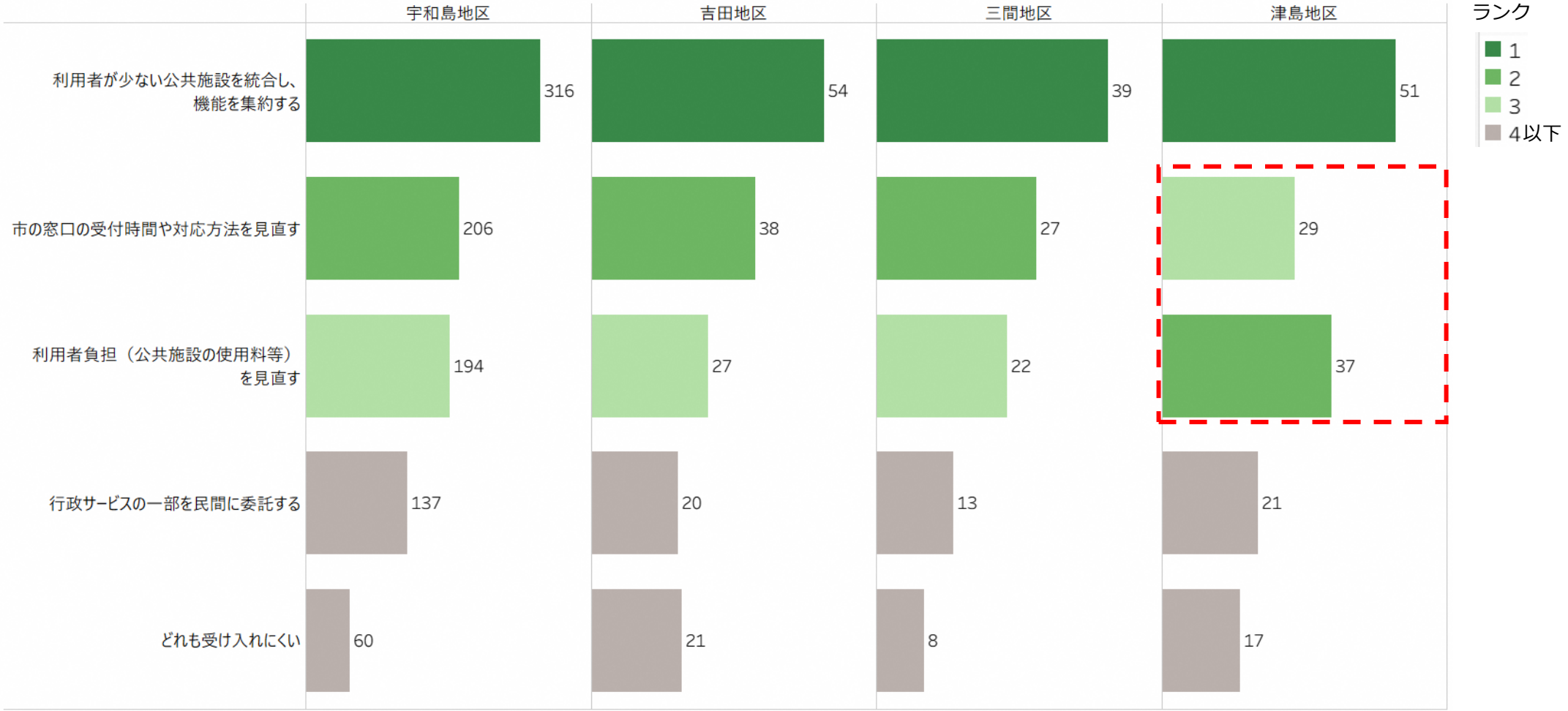
- 宇和島地区においては地区特性同様、「日常の買い物に便利だから」をはじめとする生活利便性関連の選択肢の値が強く出ている。
- 三間地区は唯一「自然環境が良いから」が「家族・親族が近くにいるから」より上位に位置する点が特徴的である。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.2.4 地区×受け入れやすい行政サービスの見直し

- 他地区において2位が「市の窓口の受付時間や対応方法を見直す」、3位が「利用者負担を見直す」である中、津島地区では順位の逆転が見られる。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.3 居住年数×地区定住意向

- 居住年数が1年以上5年未満の回答者層において「どちらかといえば住みたくない」が19.23%で最高値を示すが、5年以上10年未満の回答者層になると一歩踏み込んで「住みたくない」が9.76%で最高値になる。居住1年以上5年未満のタイミングが定住施策の焦点となることが考えられる。

	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	総計
1年未満	33.33% 5	20.00% 3	33.33% 5	6.67% 1	6.67% 1	100.00% 15
1年以上5年未満	17.31% 9	26.92% 14	30.77% 16	19.23% 10	5.77% 3	100.00% 52
5年以上10年未満	19.51% 8	29.27% 12	29.27% 12	12.20% 5	9.76% 4	100.00% 41
10年以上20年未満	24.00% 18	26.67% 20	25.33% 19	14.67% 11	9.33% 7	100.00% 75
20年以上	32.96% 147	31.84% 142	25.56% 114	6.95% 31	2.69% 12	100.00% 446
生まれてからずっと	37.58% 112	31.54% 94	23.83% 71	5.37% 16	1.68% 5	100.00% 298

1.68% 37.58%

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.4 世帯構成×地区定住意向

- 年齢別に見ると定住意向は70代を境に一段高となる（60代61.2%→70代76.6%、80代以上82.1%※7.1.1スライド参照）が、70代以上が42.2%※前提3スライド参照を占める1世代世帯の定住意向よりも、70代以上が16.4%※同左にとどまる2世代世帯の定住意向がやや高い。親子世代の同居が定住意向を強めることが示唆される。

	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	総計
1人世帯	31.85% 43	27.41% 37	26.67% 36	8.15% 11	5.93% 8	100.00% 135
夫婦だけの1世代世帯	31.01% 98	32.59% 103	28.48% 90	5.70% 18	2.22% 7	100.00% 316
親と子の2世代世帯	34.25% 125	31.78% 116	21.37% 78	10.14% 37	2.47% 9	100.00% 365
親と子と孫の3世代世帯	32.31% 21	32.31% 21	23.08% 15	6.15% 4	6.15% 4	100.00% 65
その他の世帯	25.00% 11	20.45% 9	36.36% 16	9.09% 4	9.09% 4	100.00% 44

2.22% 36.36%

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.5 子供の有無×定住意向

地域創生Coデザイン研究所

- 子供がいる層でも、18歳以上の子供がいる層の定住意向が81.0%に達する一方、18歳未満の子供がいる層は55.5%と全層で最も低い。親子世代の同居が定住意向を高めるという傾向※7.4スライド参照は子育て期には当てはまらず、定住施策を検討するうえで子育て世帯は一つの着目点となり得る。

	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	総計
いない	29.39% 184	31.79% 199	27.80% 174	7.83% 49	3.19% 20	100.00% 626
18歳未満の子供がいる	33.55% 52	21.94% 34	26.45% 41	11.61% 18	6.45% 10	100.00% 155
18歳以上の子供がいる	45.45% 55	35.54% 43	14.05% 17	4.13% 5	0.83% 1	100.00% 121
両方いる	26.67% 4	40.00% 6	13.33% 2	13.33% 2	6.67% 1	100.00% 15

0.83% 45.45%

Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

居住年数×Well-Being指標

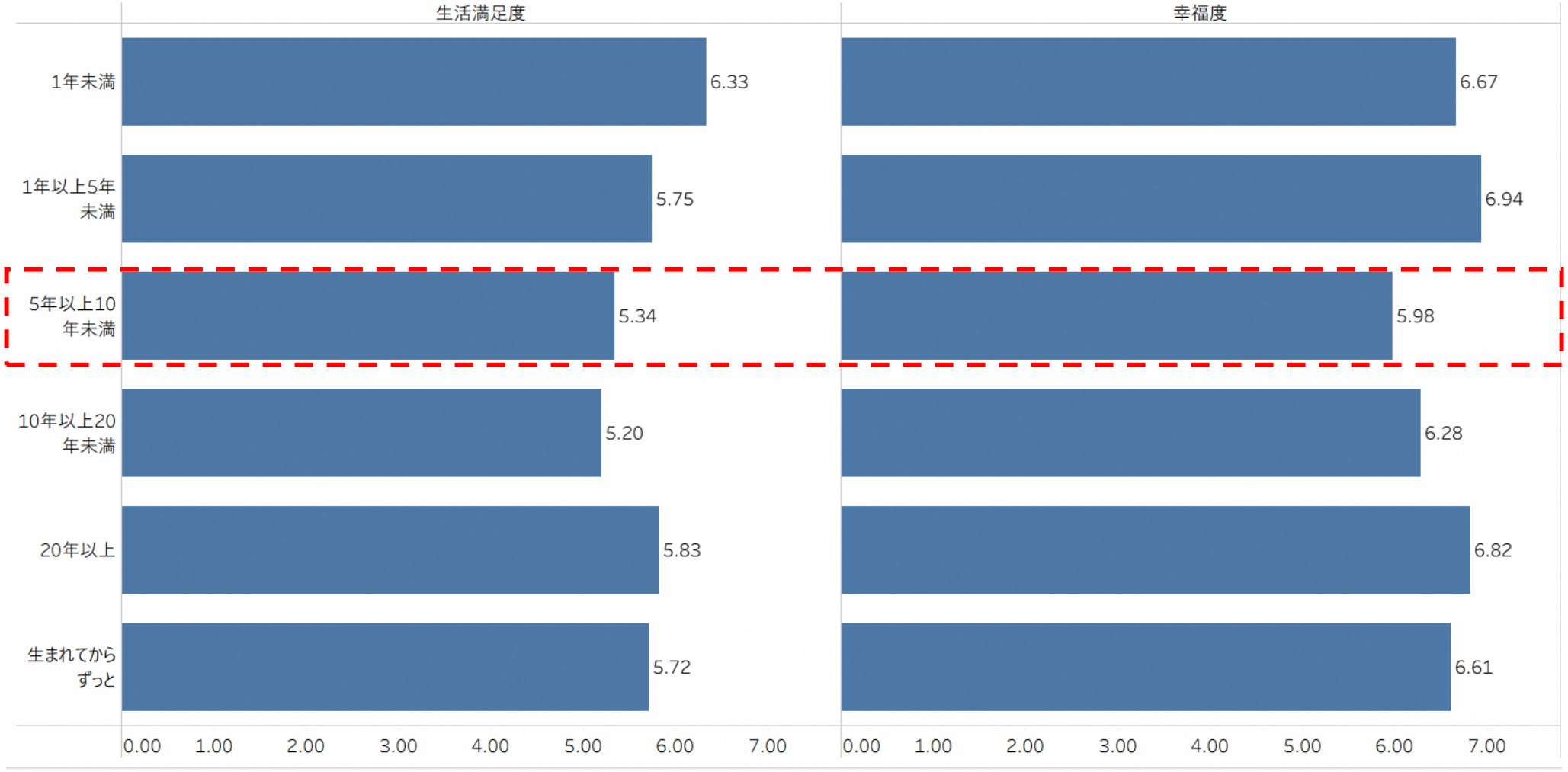
因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
居住年数	設問No.A5
年齢	設問No.A2
生活満足度	設問No.B3
幸福度	設問No.B1
生活環境（16因子）	設問No.C1~C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1~D10
自分らしい生き方（7因子）	設問No.E11~E11

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.6.1 居住年数×Well-Being指標（生活満足度・幸福度）

- 居住年数が5年以上10年未満の層では、幸福度のスコアが最も低く、生活満足度スコアについても他の居住年数層と比較して低い傾向が見られる。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.6.2 居住年数×Well-Being指標（各因子）

- 居住年数が5年以上10年未満の層は、他の居住年数層と比べてスコアが総じて低い傾向が見られる。
- 5年以上10年未満の層を除いた場合、「買物・飲食」や「遊び・娯楽」など複数の因子において居住年数が短い層ほどスコアが高く、長期居住者ほど低い傾向が見られる。

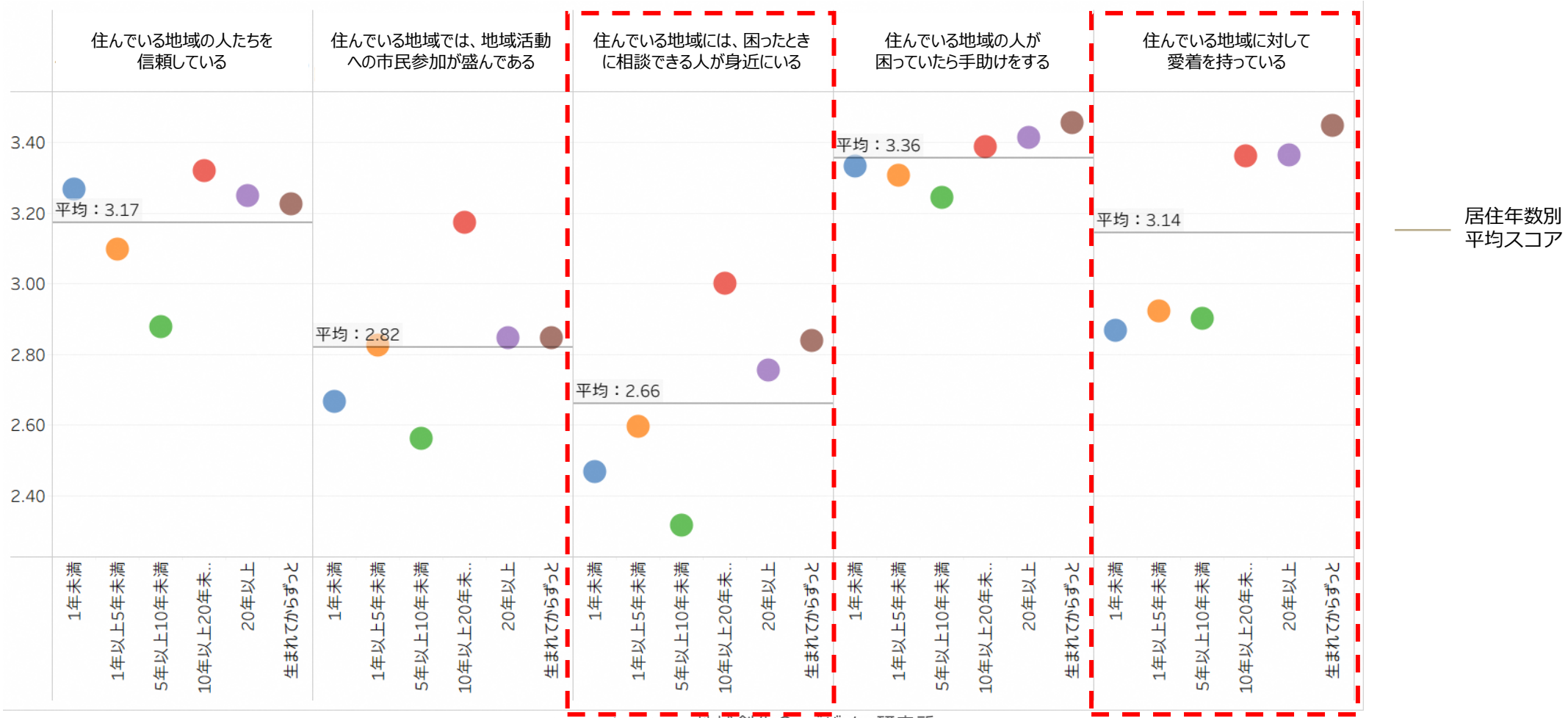
因子名	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	生まれてからずっと
医療・福祉	3.20	3.03	2.35	2.96	2.95	2.84
買物・飲食	3.40	3.09	2.45	2.77	2.69	2.58
住宅環境	3.60	3.63	3.42	3.48	3.50	3.51
移動・交通	2.20	2.17	1.93	2.15	1.98	1.97
遊び・娯楽	2.07	1.85	1.46	1.80	1.67	1.64
子育て	3.17	2.72	2.73	2.67	2.63	2.52
初等・中等教育	2.97	2.99	2.77	3.15	2.93	2.84
地域行政	2.83	2.84	2.44	2.69	2.59	2.52
デジタル生活	3.23	2.76	2.53	2.64	2.51	2.48
公共空間	3.63	3.18	2.88	3.31	3.27	3.17
都市景観	2.80	2.65	2.41	2.47	2.43	2.36
自然景観	3.20	3.44	2.90	3.09	3.01	3.02
自然の恵み	3.67	3.60	3.50	3.81	3.58	3.73
環境共生	2.60	2.69	2.60	2.72	2.65	2.61
自然災害	3.00	3.04	2.63	3.04	2.77	2.75
事故・犯罪	3.03	2.90	2.45	2.87	2.64	2.56
地域とのつながり	2.92	2.95	2.78	3.25	3.12	3.16
多様性と寛容性	2.40	2.31	2.24	2.48	2.26	2.31
自己効力感	3.40	3.35	3.15	3.28	3.13	3.13
健康状態	3.80	3.52	3.38	3.26	3.29	3.18
文化・芸術	3.24	3.01	2.86	3.00	2.85	2.78
教育機会の豊かさ	2.80	2.71	2.49	2.43	2.38	2.34
雇用・所得	2.67	2.22	1.84	2.03	1.93	1.86
事業創造	2.80	2.42	1.93	2.07	1.98	1.93
ゆとり	3.87	3.27	3.15	3.27	3.40	3.34



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

7.6.3 居住年数×Well-Being指標（地域とのつながり）

- 「地域とのつながり」に関する設問では、「困ったときに相談できる人が身近にいる」のスコアが他の設問と比較して全体的に低いが、5年～10年未満の層で特に低い傾向が見られる。
- 「地域の人が困っていたら手助けをする」以外の設問では居住年数によるスコアの差が見られる。特に「地域に対して愛着を持っている」では10年未満と10年以上の層との間でスコアに大きな差がある。



Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

地域創生
Coデザイン
研究所

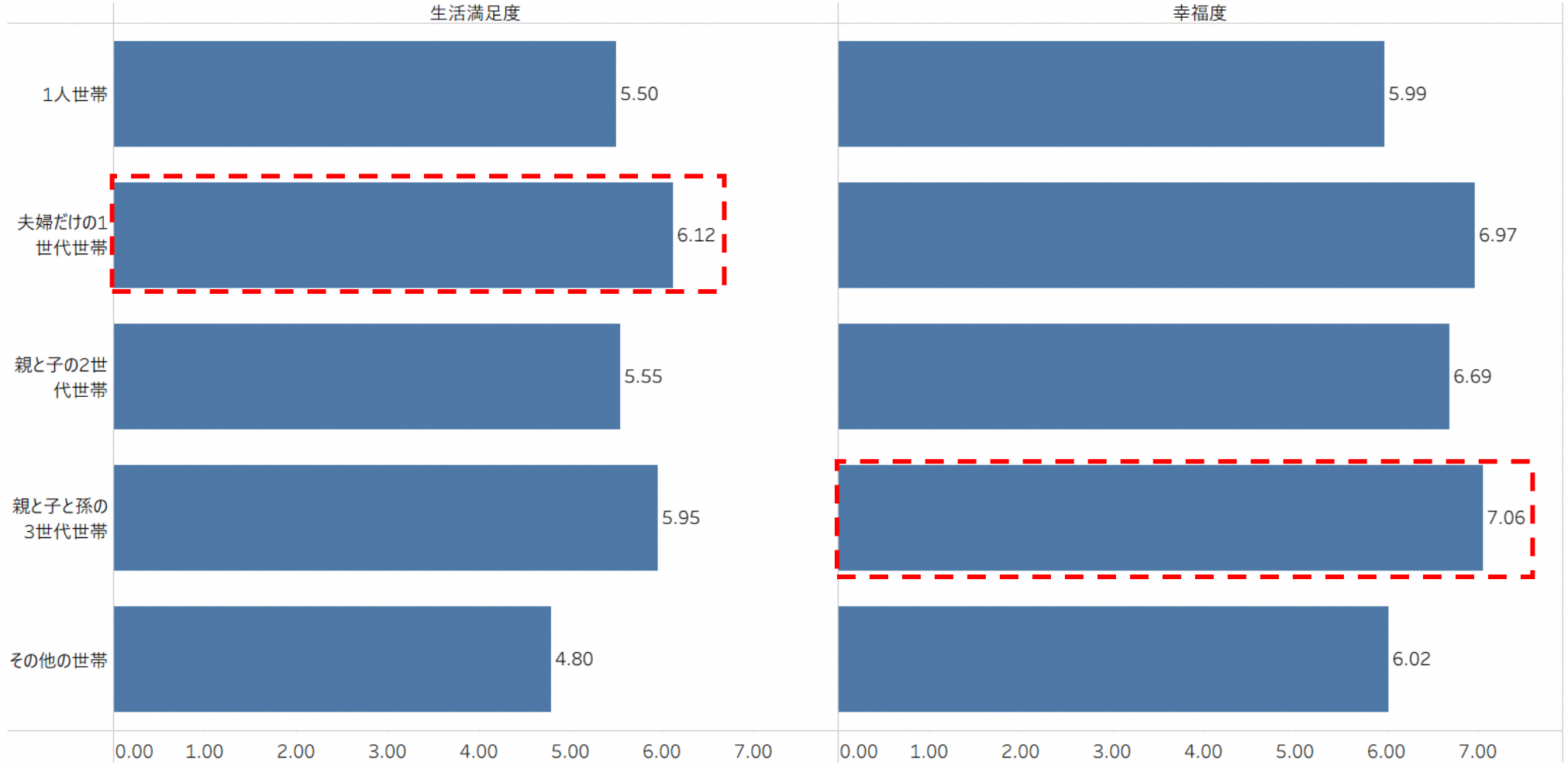
世帯構成×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
世帯構成	設問No.A6
年齢	設問No.A2
生活満足度	設問No.B3
幸福度	設問No.B1
生活環境（16因子）	設問No.C1~C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1~D10
自分らしい生き方（7因子）	設問No.E1~E11

7.7.1 世帯構成×Well-Being指標（生活満足度・幸福度）

- 世帯構成別で見た際、生活満足度と幸福度の高低が概ね類似する傾向が見られる。
- 生活満足度は夫婦だけの1世代世帯のスコアが高く、幸福度は親と子と孫の3世代世帯のスコアが高い。



7.7.2 世帯構成×Well-Being指標（各因子）

- 幸福度が最も高かった3世代世帯においては、「地域とのつながり」と「健康状態」のスコアの高さが目立つ。
- 一方、生活満足度が高かった1世代世帯においては、スコアの高さが目立つ因子は特段見受けられなかった。

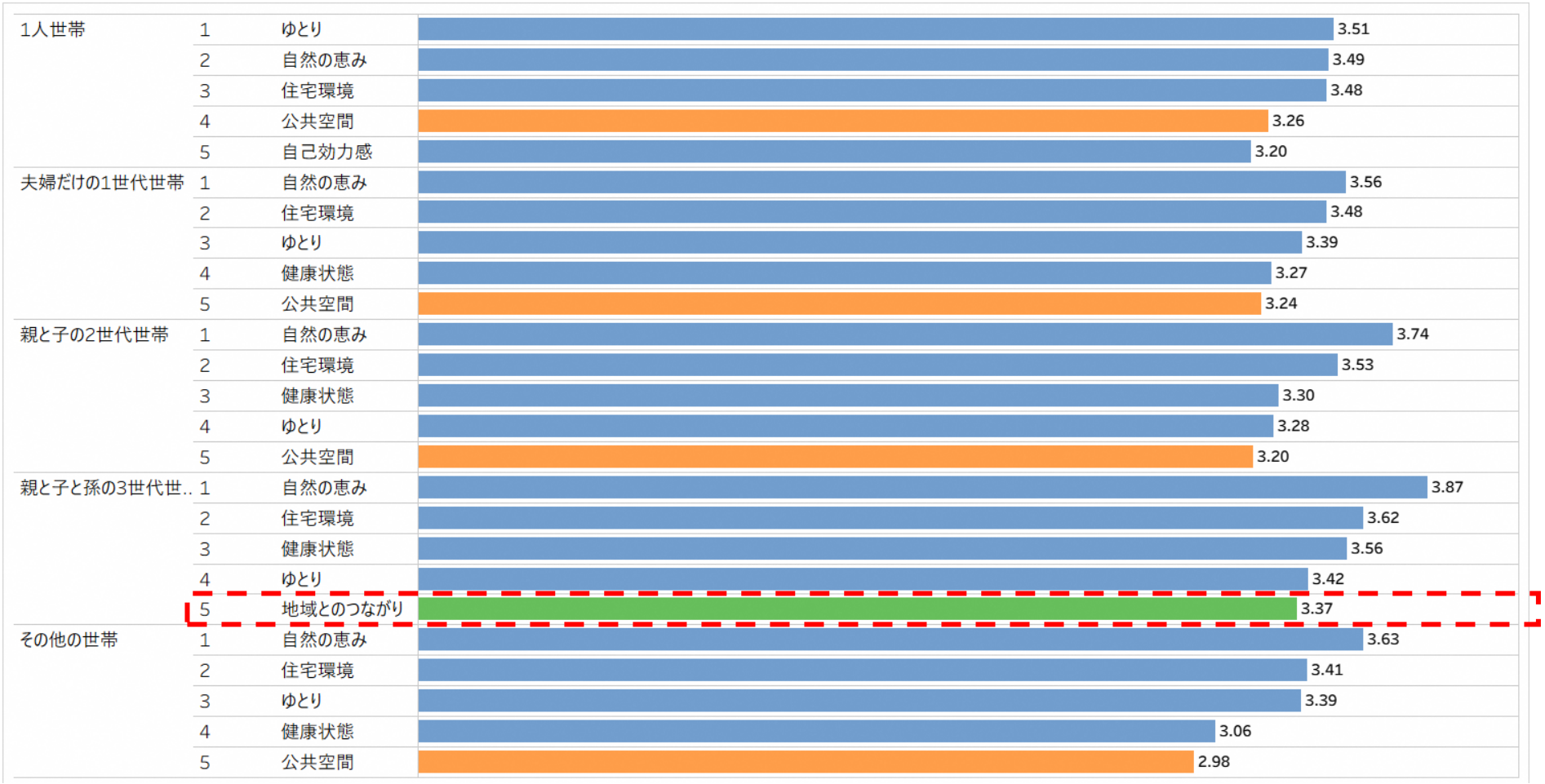
因子名	1人世帯	夫婦だけの1世代世帯	親と子の2世代世帯	親と子と孫の3世代世帯	その他の世帯
医療・福祉	3.03	2.93	2.80	3.00	2.80
買物・飲食	2.88	2.68	2.64	2.64	2.51
住宅環境	3.48	3.48	3.53	3.62	3.41
移動・交通	2.25	1.98	1.99	1.80	1.82
遊び・娯楽	1.75	1.67	1.64	1.80	1.57
子育て	2.68	2.60	2.60	2.87	2.33
初等・中等教育	3.08	2.91	2.90	2.90	2.69
地域行政	2.65	2.61	2.54	2.60	2.56
デジタル生活	2.62	2.43	2.61	2.56	2.38
公共空間	3.26	3.24	3.20	3.36	2.98
都市景観	2.61	2.37	2.44	2.47	2.23
自然景観	2.99	2.92	3.18	3.12	2.89
自然の恵み	3.49	3.56	3.74	3.87	3.63
環境共生	2.77	2.64	2.62	2.78	2.34
自然災害	3.02	2.77	2.79	2.64	2.64
事故・犯罪	2.81	2.60	2.65	2.60	2.52
地域とのつながり	3.01	3.10	3.16	3.37	2.90
多様性と寛容性	2.31	2.29	2.29	2.50	2.17
自己効力感	3.20	3.16	3.14	3.30	2.95
健康状態	3.17	3.27	3.30	3.56	3.06
文化・芸術	2.82	2.79	2.94	3.00	2.57
教育機会の豊かさ	2.42	2.42	2.38	2.52	2.34
雇用・所得	2.04	1.94	1.88	2.02	2.03
事業創造	2.08	1.97	2.01	2.06	2.00
ゆとり	3.51	3.39	3.28	3.42	3.39



7.7.3 世帯構成×Well-Being指標（上位5因子）

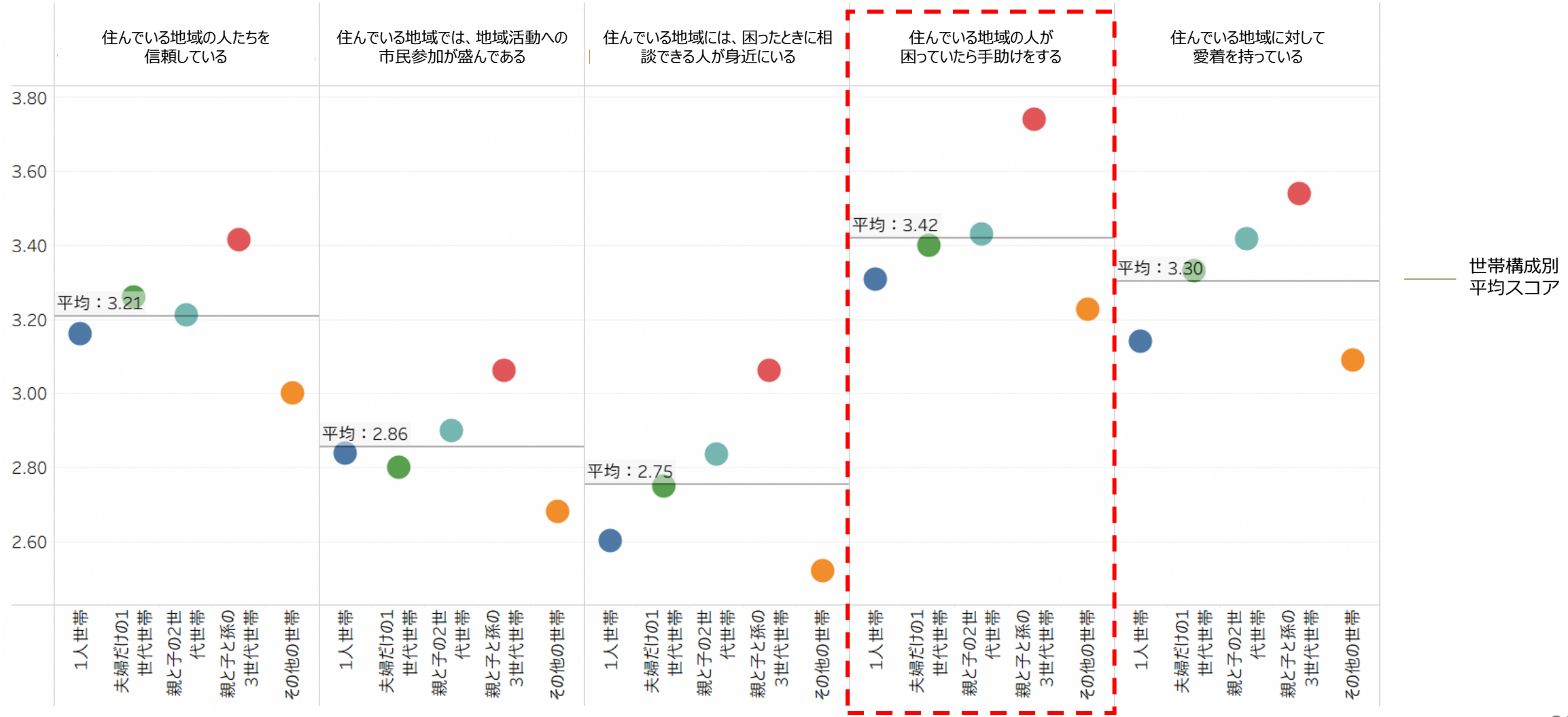
- 世帯構成別で見た際、「自然の恵み」「住宅環境」「ゆとり」は全ての世帯構成でスコア上位5因子に含まれる。
- 一方で、「地域とのつながり」が上位5因子に含まれていたのは親と子と孫の3世代世帯のみとなっている。

世帯構成別 平均スコアTop5



7.7.4 世帯構成×Well-Being指標（地域とのつながり）

➢ 「地域とのつながり」に関する設問において、親と子と孫の3世代世帯のスコアが全体的に高く、特に「地域の人が困っていたら手助けをする」の設問で高い傾向が見られる。



地域創生
Coデザイン
研究所

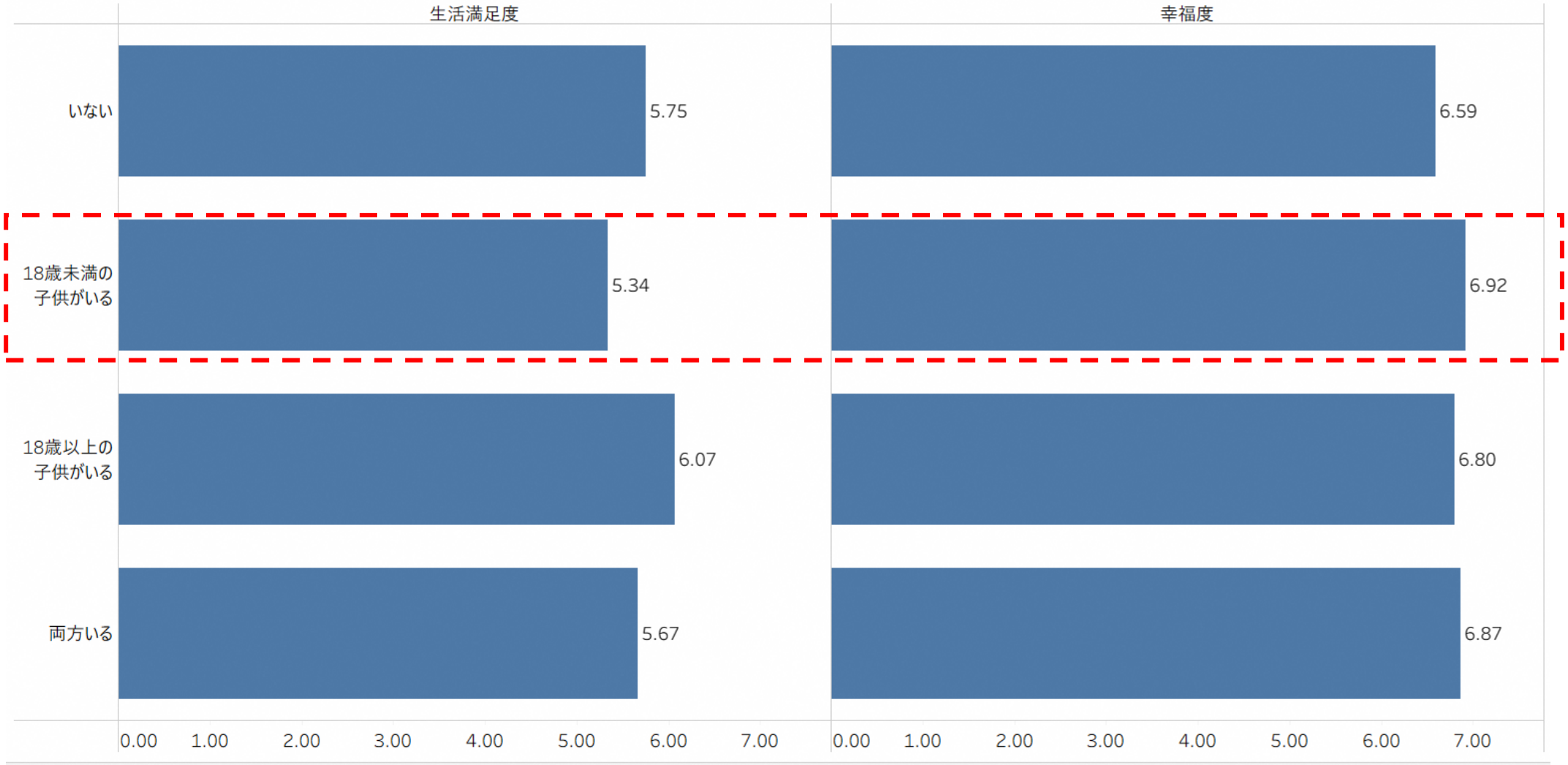
子供の有無×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
子供の有無	設問No.A7
年齢	設問No.A2
生活満足度	設問No.B3
幸福度	設問No.B1
生活環境（16因子）	設問No.C1~C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1~D10
自分らしい生き方（7因子）	設問No.E1~E11

7.8.1 子供の有無×Well-Being指標（生活満足度・幸福度）

- 18歳未満の子供がいる層において、幸福度のスコアは最も高い反面、生活満足度のスコアは最も低い。



7.8.2 子供の有無×Well-Being指標（各因子）

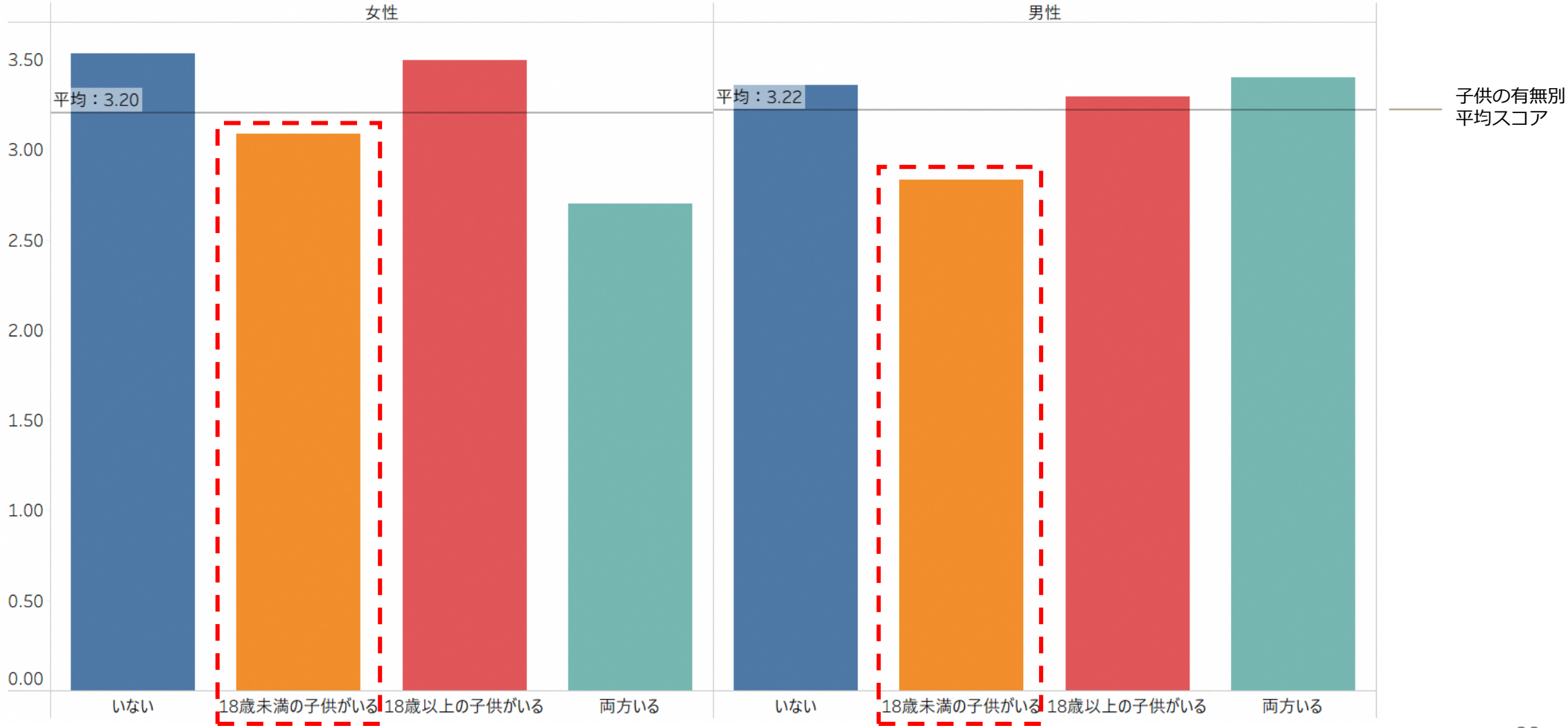
- 18歳未満の子供のみがいる層のスコアが最低値を示す因子は複数あるが、他の層との特徴的なスコアの差異としては（18歳未満と18歳以上の子が）両方いる層とともに「ゆとり」のスコアが際立って低い点が挙げられる。

因子名	いない	18歳未満の子供がいる	18歳以上の子供がいる	両方いる
医療・福祉	2.95	2.71	2.96	2.50
買物・飲食	2.71	2.67	2.62	2.46
住宅環境	3.51	3.53	3.48	3.36
移動・交通	2.05	1.79	2.03	2.27
遊び・娯楽	1.70	1.55	1.69	1.86
子育て	2.62	2.65	2.58	2.43
初等・中等教育	2.94	2.97	2.78	2.77
地域行政	2.63	2.44	2.53	2.57
デジタル生活	2.53	2.60	2.50	2.43
公共空間	3.25	3.08	3.26	3.13
都市景観	2.48	2.21	2.45	2.53
自然景観	3.06	2.97	3.12	2.87
自然の恵み	3.65	3.67	3.68	3.40
環境共生	2.66	2.58	2.61	2.93
自然災害	2.84	2.72	2.70	2.80
事故・犯罪	2.69	2.53	2.63	2.33
地域とのつながり	3.12	3.03	3.26	3.24
多様性と寛容性	2.32	2.22	2.32	2.44
自己効力感	3.17	3.19	3.07	3.07
健康状態	3.26	3.55	3.07	3.10
文化・芸術	2.85	2.93	2.81	2.84
教育機会の豊かさ	2.41	2.38	2.41	2.47
雇用・所得	1.97	1.79	1.94	1.87
事業創造	2.03	1.97	1.99	1.80
ゆとり	3.46	2.99	3.41	2.93

1.00 5.00

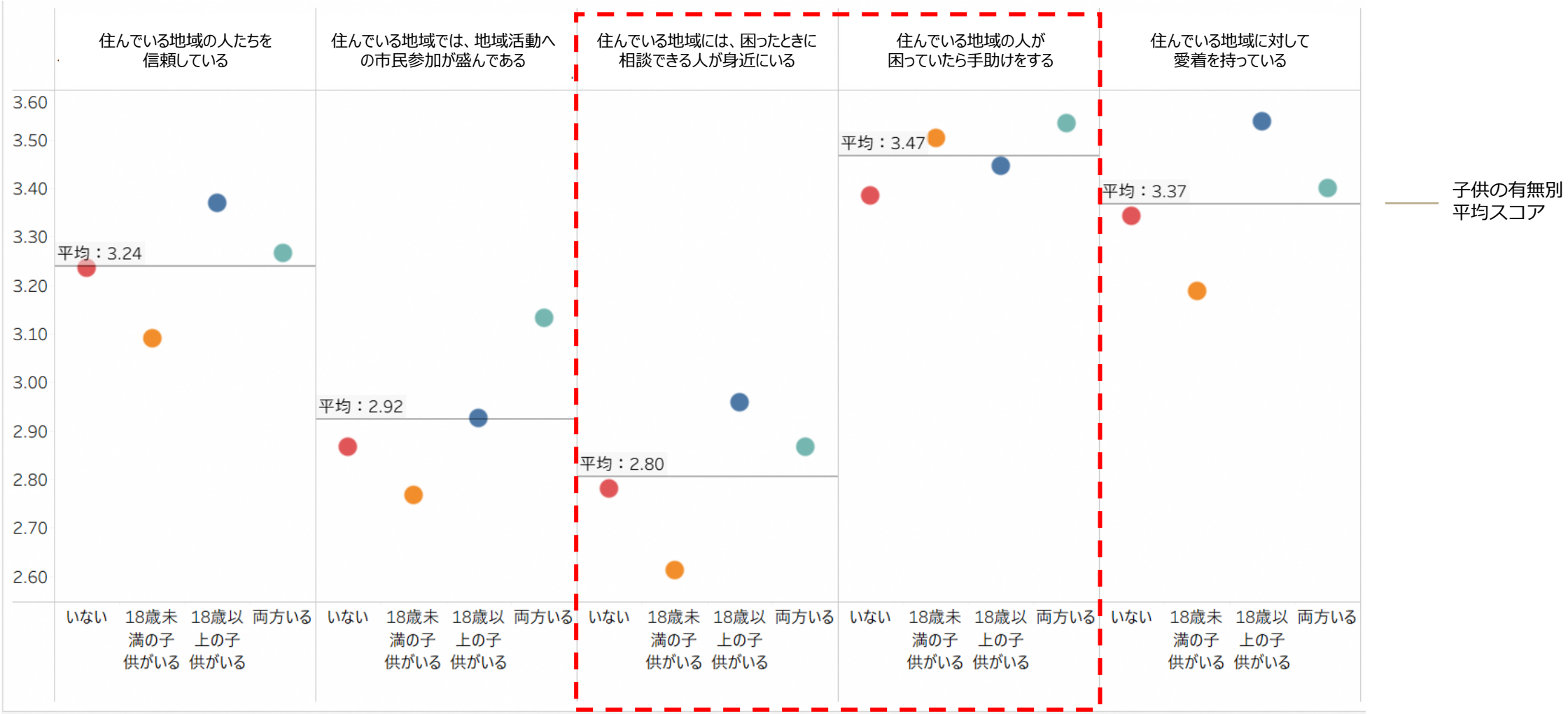
7.8.3 子供の有無×Well-Being指標（ゆとり）

- 「ゆとり」に関する設問において、18歳未満の子供のみがいる層では男女ともに全体平均を下回る。なお、（18歳未満と18歳以上の子が）両方いる層では女性のみが全体平均を下回っている。



7.8.4 子供の有無×Well-Being指標（地域とのつながり）

- 「地域とのつながり」に関する設問において、18歳未満の子供がいる層のスコアが全体的に低い傾向が見られるが、「地域の人が困っていたら手助けをする」の設問のみは比較的スコアが高い。
- 一方、「困ったときに相談できる人が身近にいる」のスコアは低く、支え合いを実感できる構図とはなっていない。



地域創生
Coデザイン
研究所

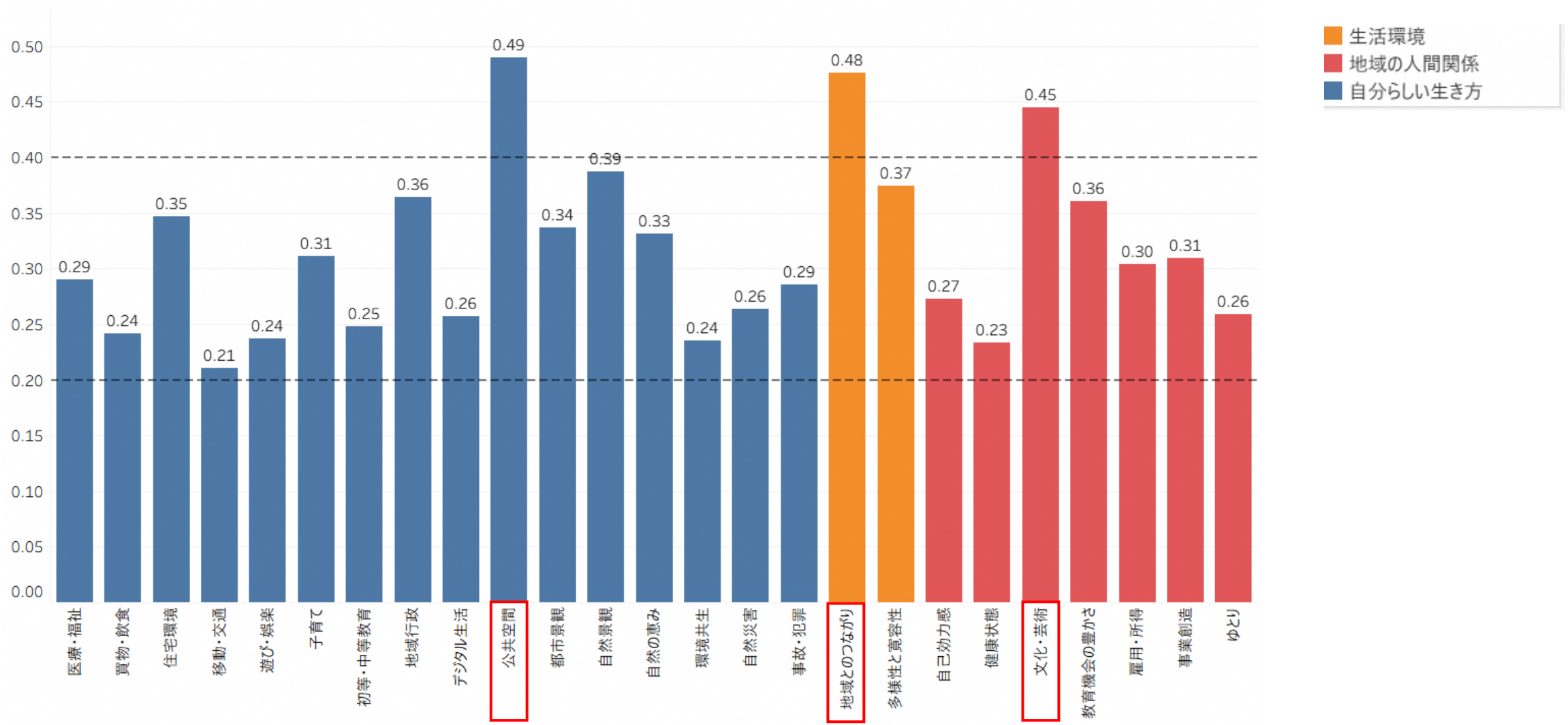
独自設問×Well-Being指標

因子（分野）と設問の定義

以下スライドで使用する因子（分野）	対応設問
生活環境（16因子）	設問No.C1~C27
地域の人間関係（2因子）	設問No.D1~D10
自分らしい生き方（7因子）	設問No.E1~E11
地区定住意向	設問No.F1
宇和島市への愛着	設問No.F3

7.9.1 宇和島市への愛着×Well-Being指標

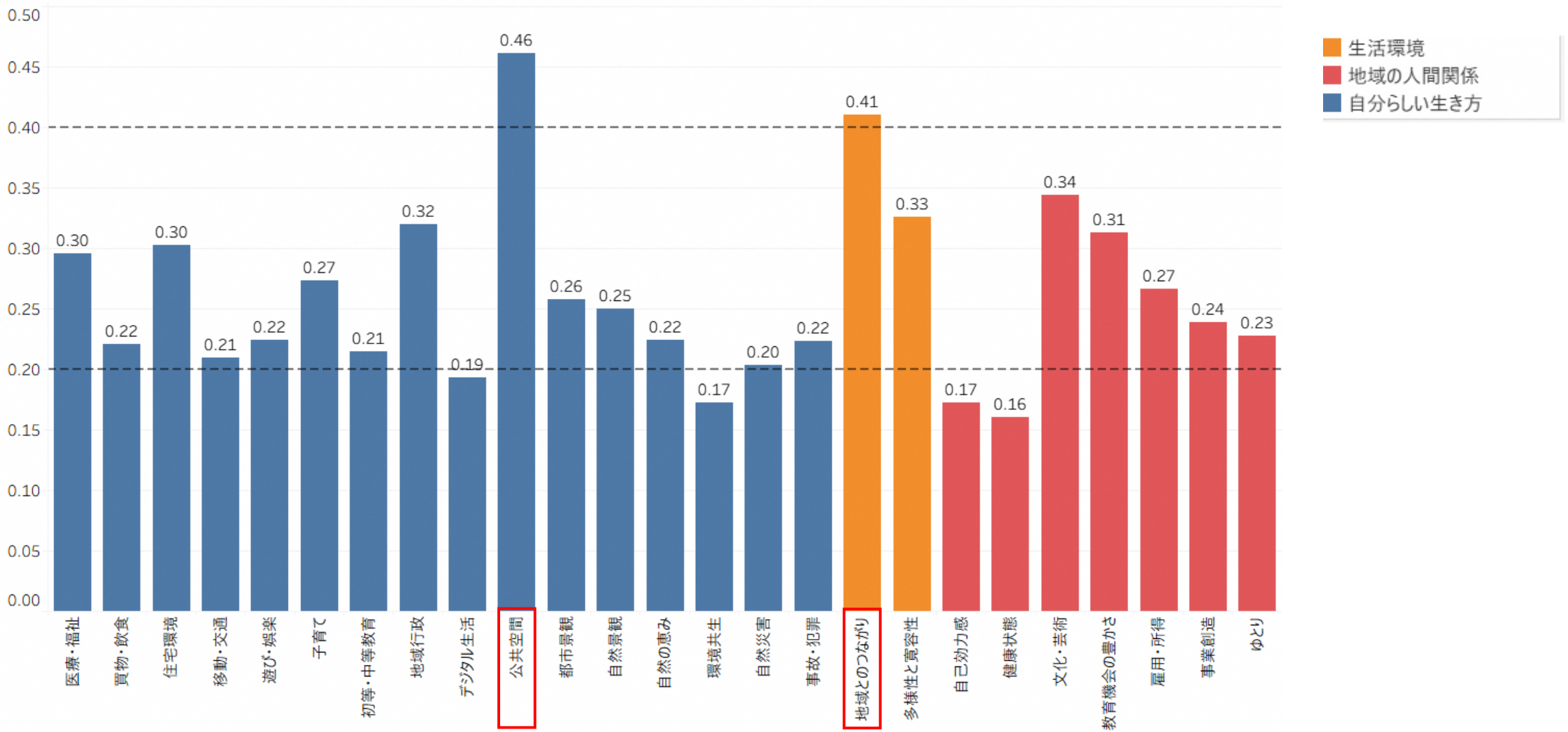
- 宇和島市への愛着は、「公共空間」「地域とのつながり」「文化・芸術」と比較的強い関連が見られる。



※相関係数の目安：0.1未満＝ほぼ関連なし、0.1～0.4＝弱い関連、0.4～0.7＝中程度の関連、0.7以上＝強い関連

7.9.2 地区定住意向×Well-Being指標

- 地区定住意向は、「公共空間」および「地域とのつながり」と比較的強い関連が見られる。



※相関係数の目安：0.1未満＝ほぼ関連なし、0.1～0.4＝弱い関連、0.4～0.7＝中程度の関連、0.7以上＝強い関連

第8章：自由記述の傾向分析

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

前提 自由記述の可視化方法

- G1～G5の各設問について、自由記述からキーワードを抽出。
- 「G1：好きなところ・誇りに思うところ」「G4：『幸せだな』と感じる瞬間やエピソード」「G5：『もったいない』『もっと活かせるのに』と感じるモノ」については、記述内容をカテゴリごとに分類。
- 「G2：困っていること・不便に感じていること」「G3：10年後の宇和島市がどうなっていてほしいか」については、記述内容をWell-Being指標の因子ごとに分類。
- 抽出・分類を経て可視化しているため、あくまで傾向把握を目的とする点に留意されたい。

記述内容からキーワードを抽出しカテゴリごとに分類

設問	SAMPLEID	回答（原文）	抽出キーワード	カテゴリ	抽出数
G1	3	食べる物が良い	おいしい食べ物	食・特産品	1
G1	4	自然が豊かであること 人がおだやかであること	自然が豊か／穏やか	人柄・人情／自然・景観	2
G1	5	宇和島城がすきです	宇和島城	歴史・文化・祭り	1
G1	7	海山河があり自然もあり	自然が豊か／海／山	自然・景観	3
G1	9	宇和島城 人がやさしい 静かさ	宇和島城／人が優しい	人柄・人情／歴史・文化・祭り	2
G1	10	美味しいご飯(鯛めし、じゃこ天など)	鯛めし／じゃこ天／おいしい食べ物	食・特産品	3
G1	11	宇和島城	宇和島城	歴史・文化・祭り	1
G1	13	身近に自然が残っている	自然が豊か	自然・景観	1
G1	16	病院、買い物が、行きやすい!	医療機関／買い物の便	暮らしやすさ・利便性	2
G1	18	魚がおいしい	魚がおいしい	食・特産品	1
G1	22	地場産業 水産養殖あるいは山を利用した農業	山／水産業・養殖／農業／一次産業・地場産業	産業／自然・景観	4
G1	27	全体的におだやかな雰囲気がある。	穏やか	人柄・人情	1
G1	28	宇和島市の人が好き のんびりしているところ	のんびり・ゆったり	人柄・人情	1
G1	30	自然豊なところ、例えば、宇和島城、遊子段畑といった各所が多くあるところ	自然が豊か／段畑／宇和島城	歴史・文化・祭り／自然・景観	3
G1	31	自然が良い	自然が豊か	自然・景観	1
G1	32	豊かな自然、人情	自然が豊か／人情	人柄・人情／自然・景観	2
G1	35	人間がすなおでいい人が多いように思う。	人が優しい／人情	人柄・人情	2
G1	36	自然が豊か魚が美味しい	自然が豊か／魚がおいしい	自然・景観／食・特産品	2
G1	38	「牛鬼まつり」「真珠」が自まんです。	真珠／お祭り／牛鬼まつり	歴史・文化・祭り／食・特産品	3
G1	40	○今のとこ災害が少ない。	災害が少ない	安全・安心	1
G1	41	・人が優しいと感じるところ・農業・漁業が盛えているところ	人が優しい／農業／漁業	人柄・人情／産業	3
G1	46	伊達家の歴史遺産が多い もっと活用!	伊達家・伊達博物館／歴史	歴史・文化・祭り	2
G1	47	特に無し			0

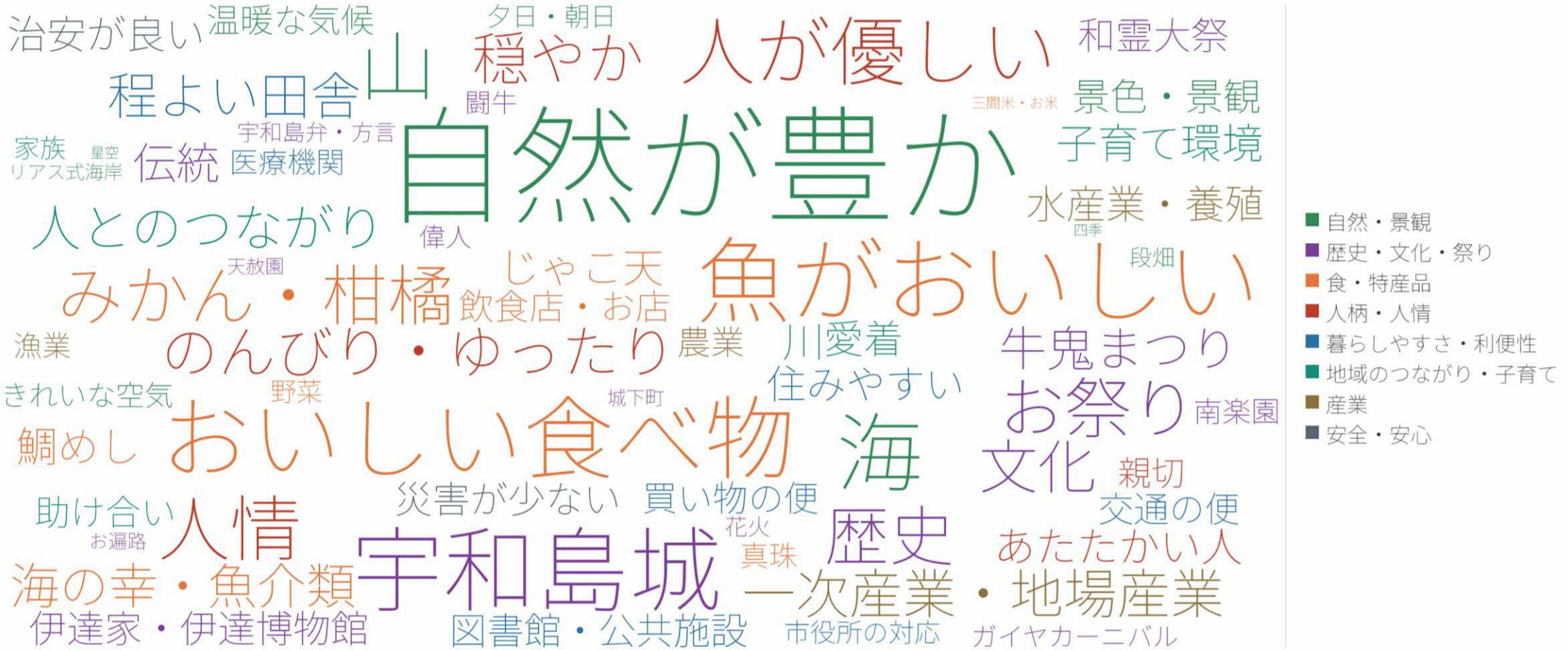
キーワードを集計し、Well-Being指標の因子と対応付け

設問	設問内容	分類軸	カテゴリ（色の単位）	因子群	キーワード	言及件数	言及率(%)
G1	G1：宇和島市の好きなところ・誇りに思うとこ	テーマ	食・特産品	—	鯛めし	11	2.4
G1	G1：宇和島市の好きなところ・誇りに思うとこ	テーマ	食・特産品	—	じゃこ天	11	2.4
G1	G1：宇和島市の好きなところ・誇りに思うとこ	テーマ	食・特産品	—	飲食店・お店	8	1.7
G1	G1：宇和島市の好きなところ・誇りに思うとこ	テーマ	食・特産品	—	真珠	5	1.1
G1	G1：宇和島市の好きなところ・誇りに思うとこ	テーマ	食・特産品	—	野菜	4	0.9
G1	G1：宇和島市の好きなところ・誇りに思うとこ	テーマ	食・特産品	—	三間米・お米	1	0.2
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	デジタル生活	都市環境	デジタル化への不安	9	1.7
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	事故・犯罪	都市環境	街灯が少なく暗い・防	26	5
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	事故・犯罪	都市環境	空き家の増加	10	1.9
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	人口・地域活力	その他：24因子外	人口減少・若者の流出	23	4.4
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	住宅環境	都市環境	家賃・土地が高い	11	2.1
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	住宅環境	都市環境	騒音・住環境の悩み	5	1
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	健康状態	自分らしい生き方	加齢・健康への不安	48	9.2
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	公共空間	都市環境	公園・歩道が歩きにく	23	4.4
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	初等・中等教育	都市環境	学校・教育環境	14	2.7
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	医療・福祉	都市環境	病院が少ない・遠い	80	15.4
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	医療・福祉	都市環境	専門診療科の不足	13	2.5
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	医療・福祉	都市環境	介護・福祉サービス	6	1.2
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	医療・福祉	都市環境	待ち時間が長い	6	1.2
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	地域とのつながり	地域の人間関係	自治会・近所づきあい	9	1.7
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	地域行政	都市環境	行政サービス・市役所	22	4.2
G2	G2：困っていること・不便に感じていること	Well-Being因子	多様性と寛容性	地域の人間関係	若者・女性が活躍しに	5	1

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

8.1 G1：好きなところ・誇りに思うところ

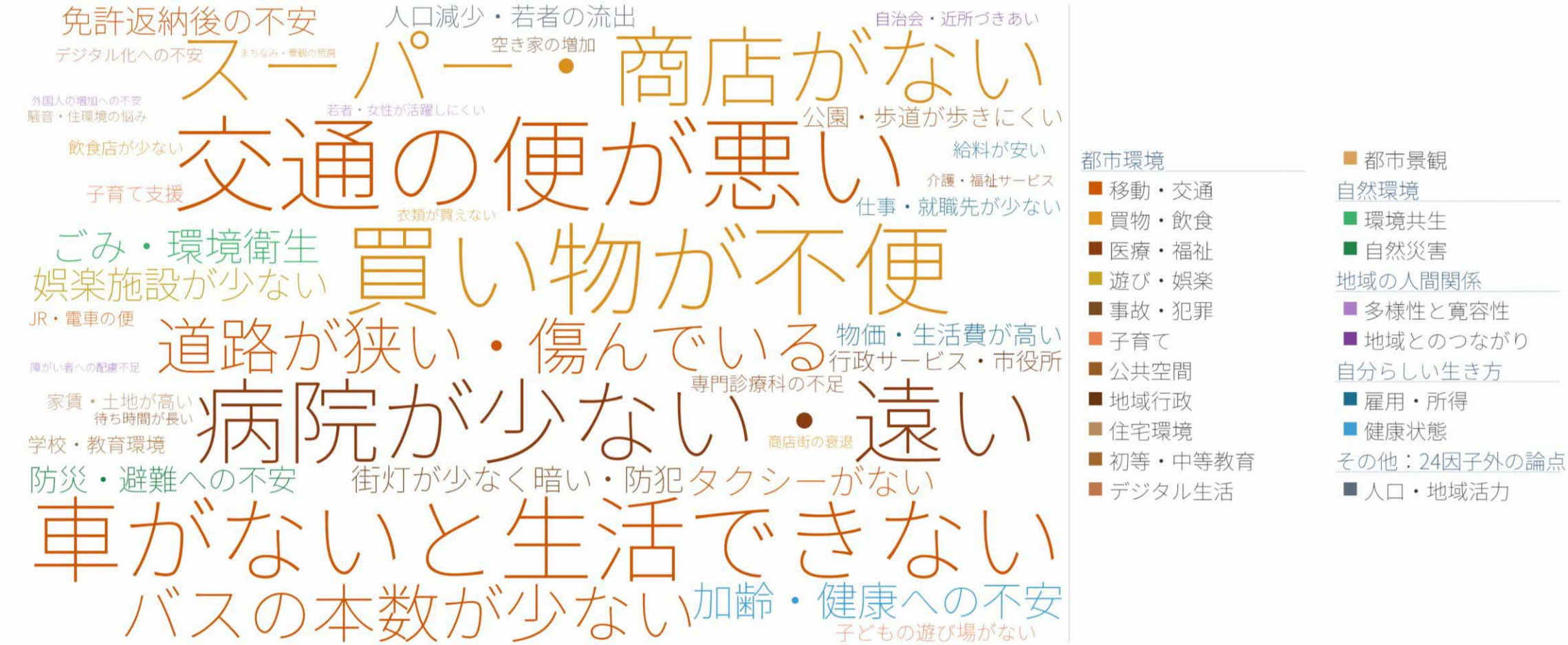
- 豊かな自然や食、宇和島城をはじめとする歴史・文化に加え、『人が優しい』や『人とのつながり』といった人の魅力も宇和島市の魅力として認識されていることが窺える。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

8.2 G2：困っていること・不便に感じていること

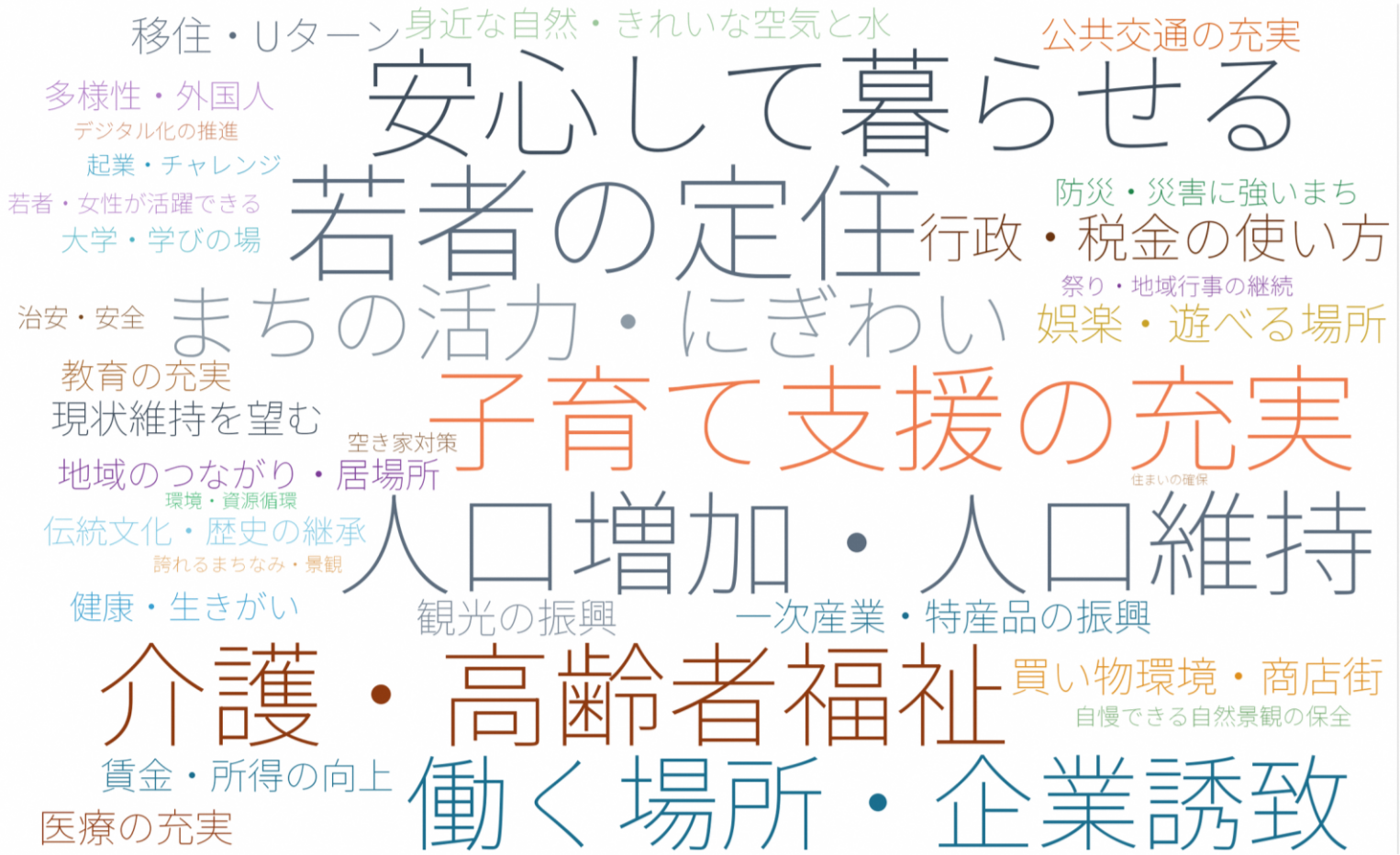
- 「移動・交通」「買い物・飲食」「医療・福祉」に関する困りごと・不便が多く言及されており、併せて免許返納後や加齢・健康状態の変化に伴う不安も言及されている。道路の狭さ・傷みに関する言及も一定見受けられる。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

8.3 G3：10年後の宇和島市がどうなっていてほしいか

- 『安心して暮らせる』『人口増加・人口維持』といったまちの安定した基盤に関する言及のほか、「医療・福祉」「子育て」「雇用・所得」などの言及が多く、幅広い世代にとって住みやすいまちが求められていることが窺える。



都市環境
- 医療・福祉
- 子育て
- 地域行政
- 遊び・娯楽
- 買物・飲食
- 移動・交通
- 初等・中等教育
- 事故・犯罪
- デジタル生活
- 都市景観
- 住宅環境

自然環境
- 自然の恵み
- 自然災害
- 自然景観
- 環境共生

地域の人間関係
- 地域とのつながり
- 多様性と寛容性

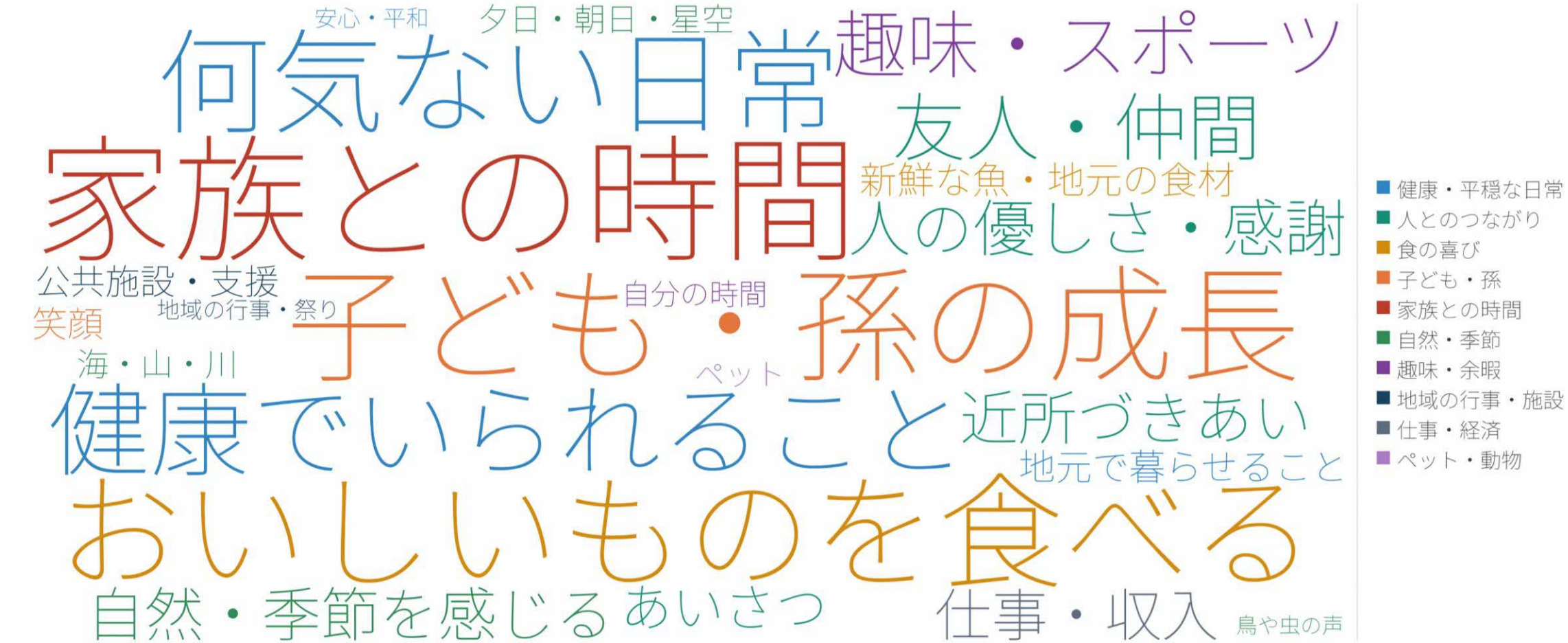
自分らしい生き方
- 雇用・所得
- 健康状態
- 文化・芸術
- 教育機会の豊かさ
- 事業創造

その他：24因子外の論点
- 人口・定住
- 安心・住みやすさ
- まちの活力
- 観光・交流

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

8.4 G4：『幸せだな』と感じる瞬間やエピソード

- 家族など大切な人とのふれあいの時間に関する言及が多く見受けられるほか、『おいしいものを食べる』『健康でいられること』なども含め、何気ない日常に幸せを感じている様子が窺える。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

8.5 G5：『もったいない』『もっと活かせるのに』と感じるモノ

- 歴史・文化・観光資源や公共施設、人材などまちの既存資源がもっと活かせるとの言及が多く見受けられる。『PR・情報発信』への言及も見受けられ、魅力の見せ方や届け方に改善の余地があると感じている様子が窺える。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

第9章：Well-Being因子分析

本章では、宇和島市の各分野の状況を全国の他自治体と比較して把握するため、偏差値を用いる。
偏差値とは、全国の自治体の平均値を50として、各自治体がその平均からどれだけ離れているかを数値化したものである。
また、偏差値の水準に応じて以降の章では、以下の通り表現する。

偏差値の水準	表現
60以上	高水準にある
50前後	中位にある
40未満	低水準にある
極端値（30以下/70以上）	最低水準にある／最高水準にある

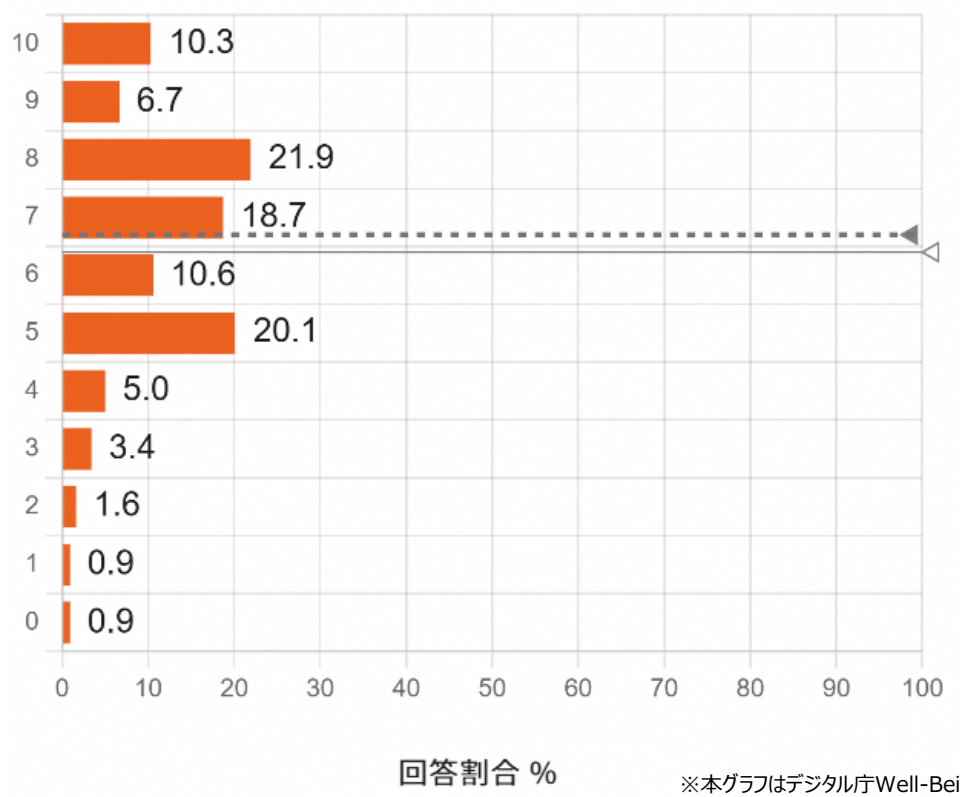
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.1 Well-Beingの現在地：幸福度・生活満足度

- 幸福度は平均6.7点と全国（6.4点）を0.3pt上回っており、8点が21.9%と最も多く、7点以上で57.6%を占める。
- 一方、生活満足度は平均5.7点と全国（6.6点）を0.9pt下回り、5点が23.5%と最も多く、5～7点に54.5%が集中する。
- 「自分自身は幸せだが、地域の暮らしにはやや満足しきれていない」という意識が表れている。

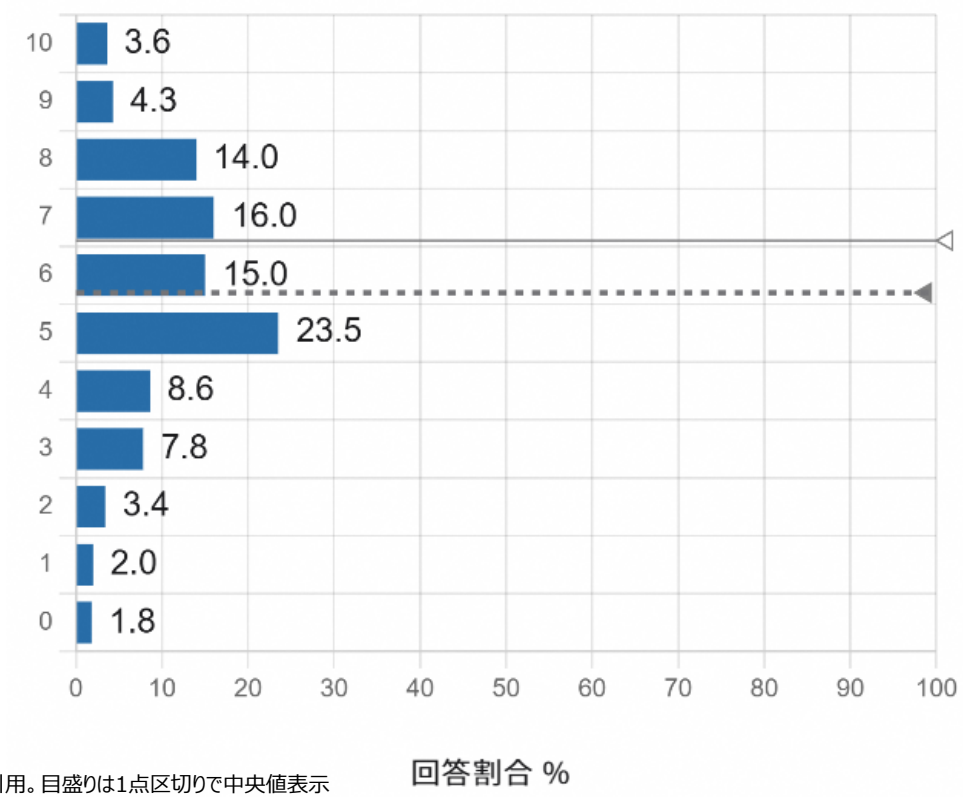
幸福度

宇和島市の平均値：**6.7**（点線）
全国の平均値：**6.4**（実線）



生活満足度

宇和島市の平均値：**5.7**（点線）
全国の平均値：**6.6**（実線）



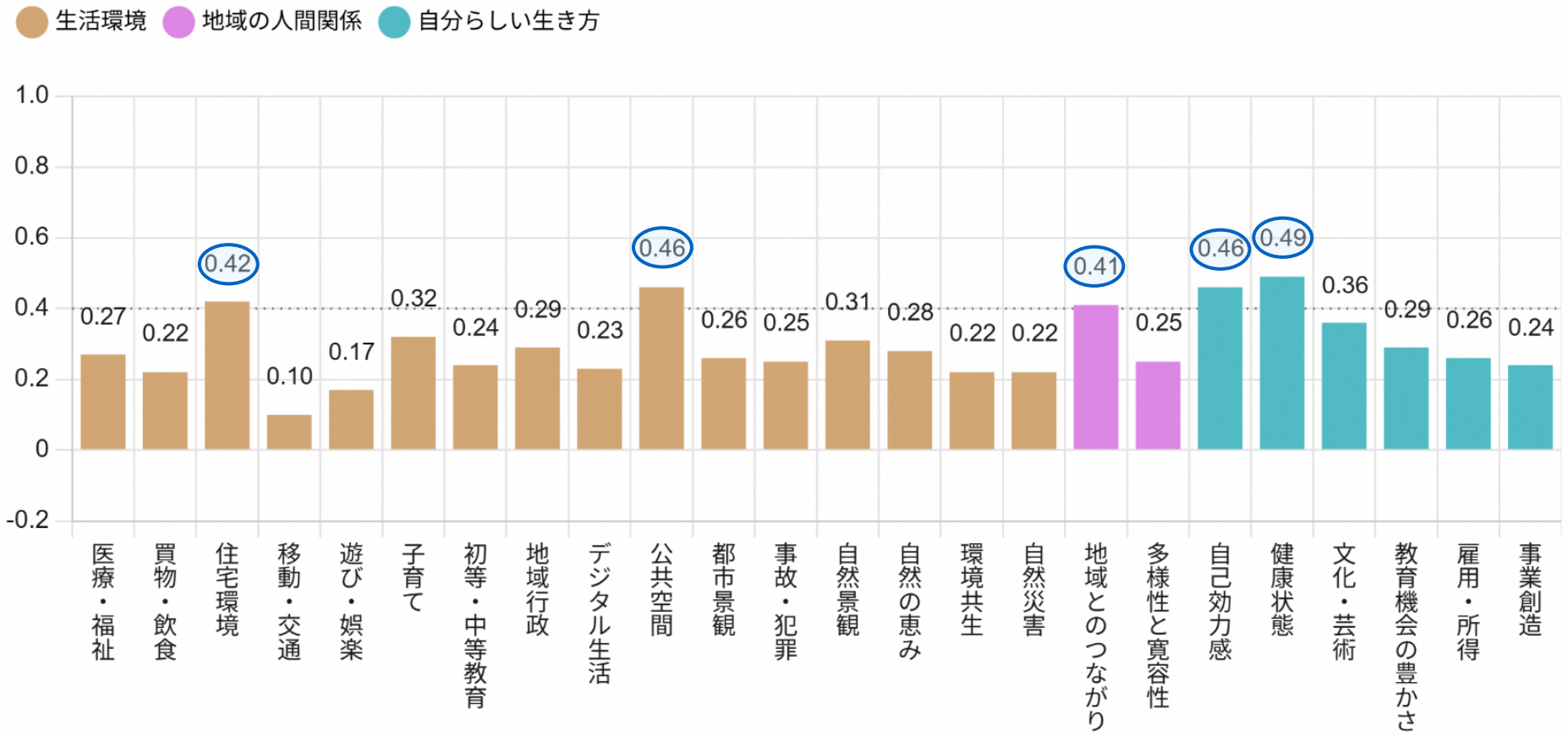
※本グラフはデジタル庁Well-Beingダッシュボードから引用。目盛りは1点区切りで中央値表示
（例：目盛「7」の位置＝7.0点。目盛「7」と「6」の区切り線の値は6.5点。）

出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.2 幸福度と各因子の相関

- 幸福度との相関は「健康状態」が0.49と最も高く、次いで「自己効力感」「公共空間」（ともに0.46）、「住宅環境」（0.42）、「地域とのつながり」（0.41）となっている。一方で「移動・交通」（0.10）や「遊び・娯楽」（0.17）との相関は低い。
- 幸福度は心身の健康と自己肯定感に、住まいや公共空間といった居場所の要素が重なって形づくられており、利便性の向上だけでは高まりにくい構造が窺える。

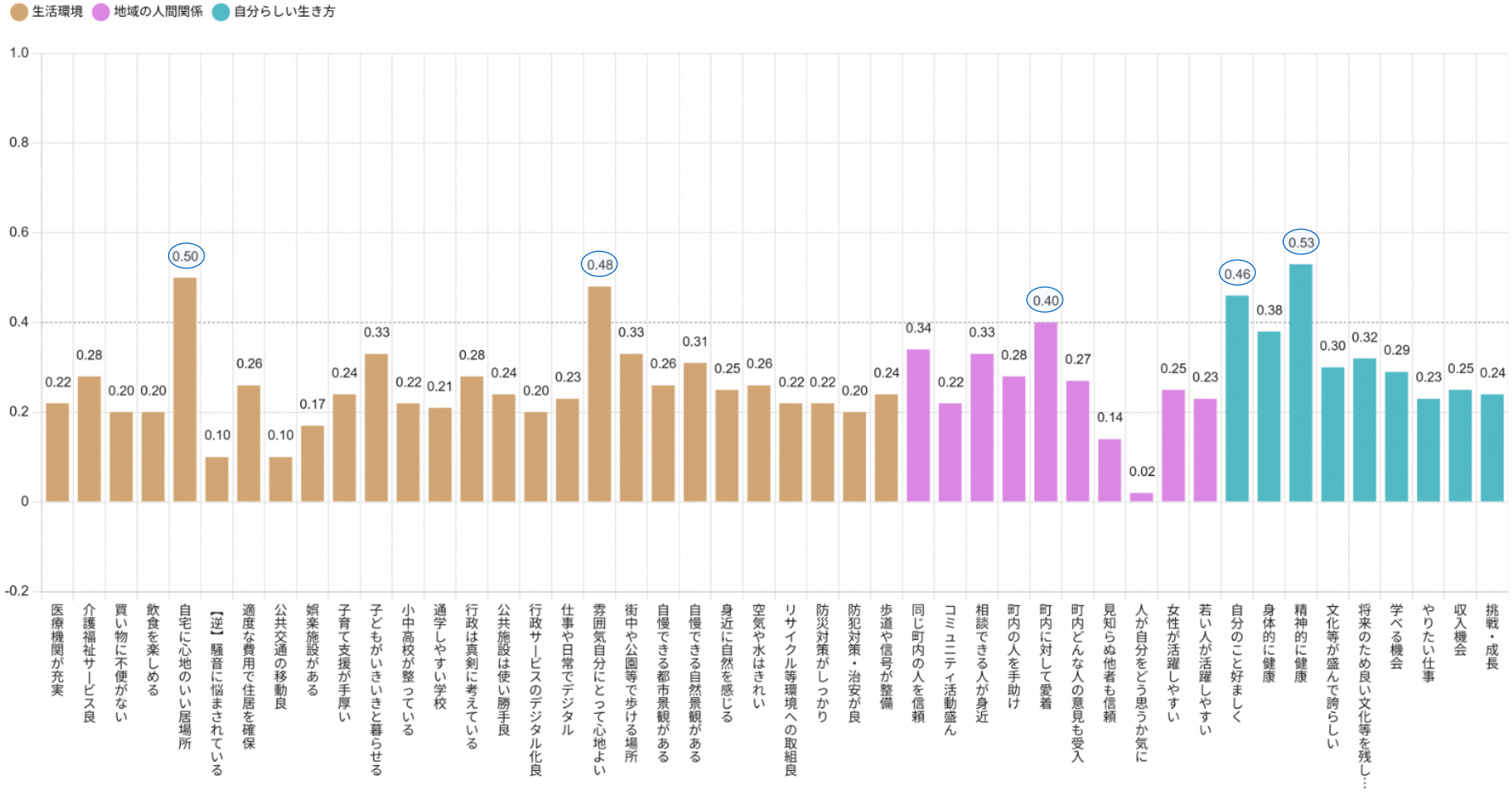


出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.3 幸福度と設問の相関

- 幸福度との相関は「精神的に健康」が0.53と最も高く、次いで「自宅に心地のいい居場所」(0.50)、「地域の雰囲気が自分にとって心地よい」(0.48)、「自分のことを好ましく感じる」(0.46)、「地域に対する愛着」(0.40)と続く。宇和島市民の幸福度は「心の安定」や「暮らしている環境（住宅、地域）の心地よさ」に強く依拠している。

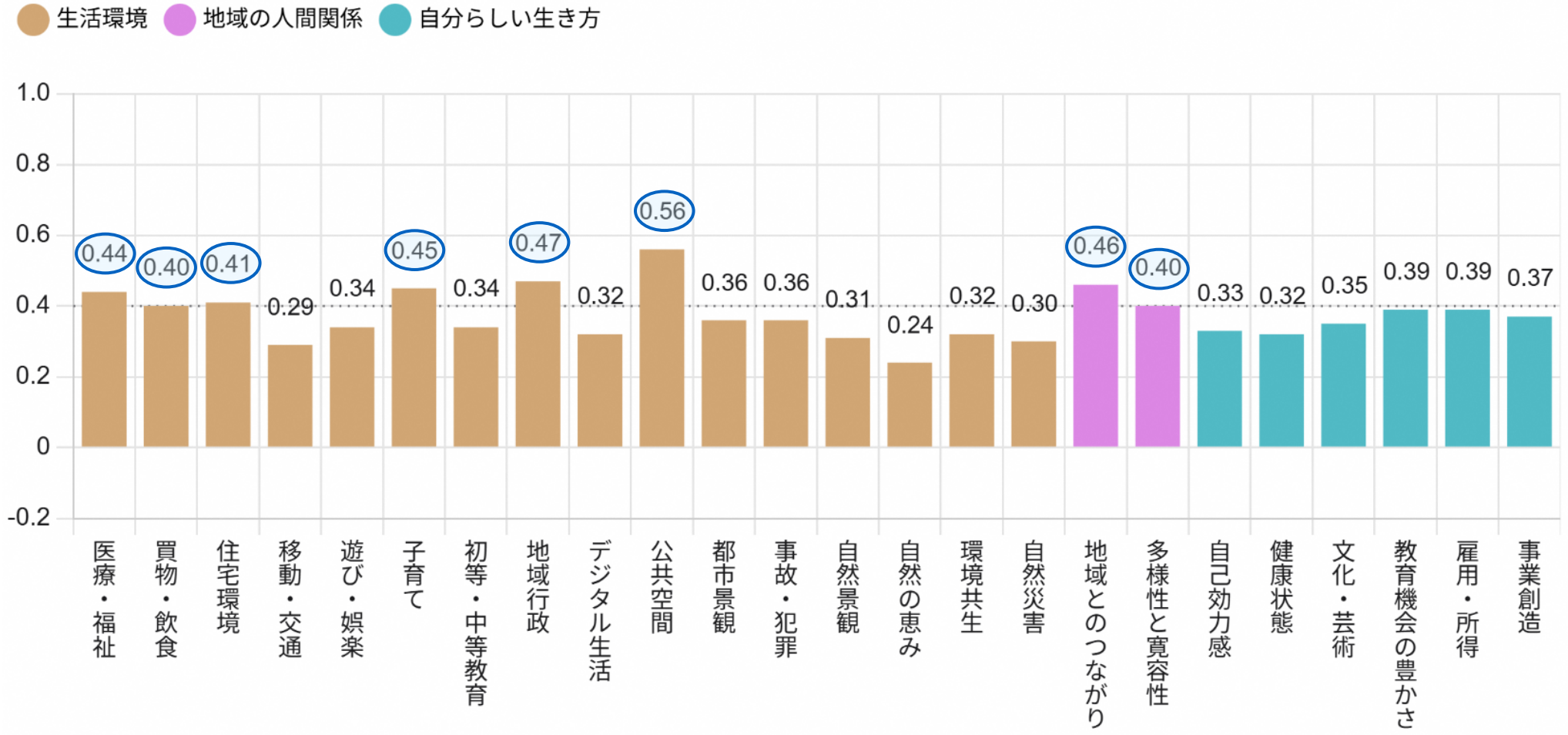


出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.4 生活満足度と各因子の相関

- 生活満足度との相関は「公共空間」が0.56と最も高く、次いで「地域行政」（0.47）、「地域とのつながり」（0.46）、「子育て」（0.45）、「医療・福祉」（0.44）と続く。
- 幸福度で上位であった「健康状態」（0.32）や「自己効力感」（0.33）は相対的に低い一方、幸福度では中～下位であった「多様性と寛容性」「買い物・飲食」（ともに0.40）が相対的に高く、幸福度とは異なる構造が見られる。

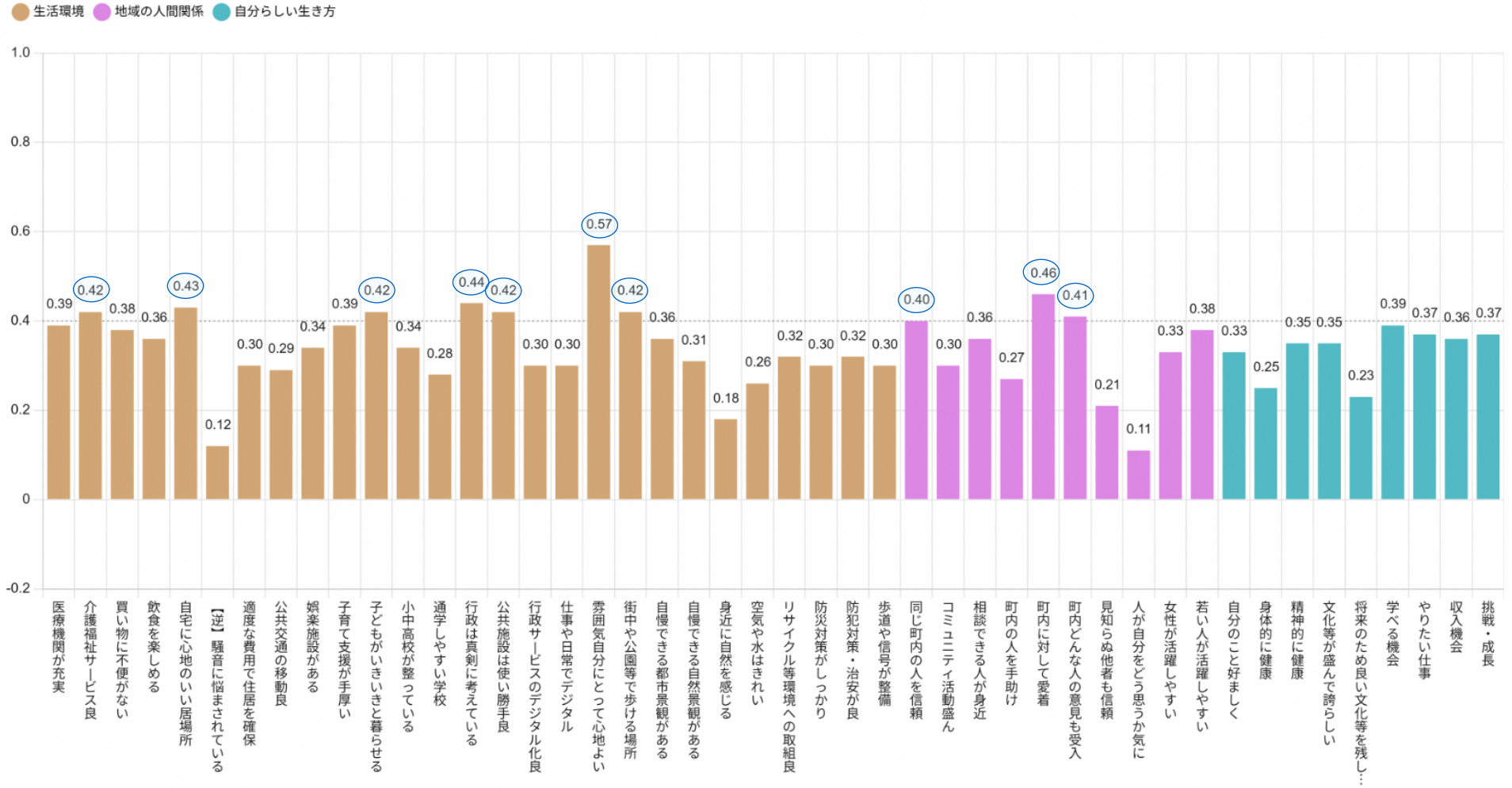


出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.5 生活満足度と設問の相関

- 生活満足度は「地域の雰囲気が自分にとって心地よい」(0.57)や「地域に対する愛着」(0.46)との相関が特に高く、居住空間と地域への帰属意識との強い関連が見られる。加えて、行政評価や地域の人への信頼、住宅環境などとの相関も高く、生活満足度は「居場所(自宅・地域)＋地域愛着＋行政評価」が組み合わさった複合的な構造で捉えられる。



出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

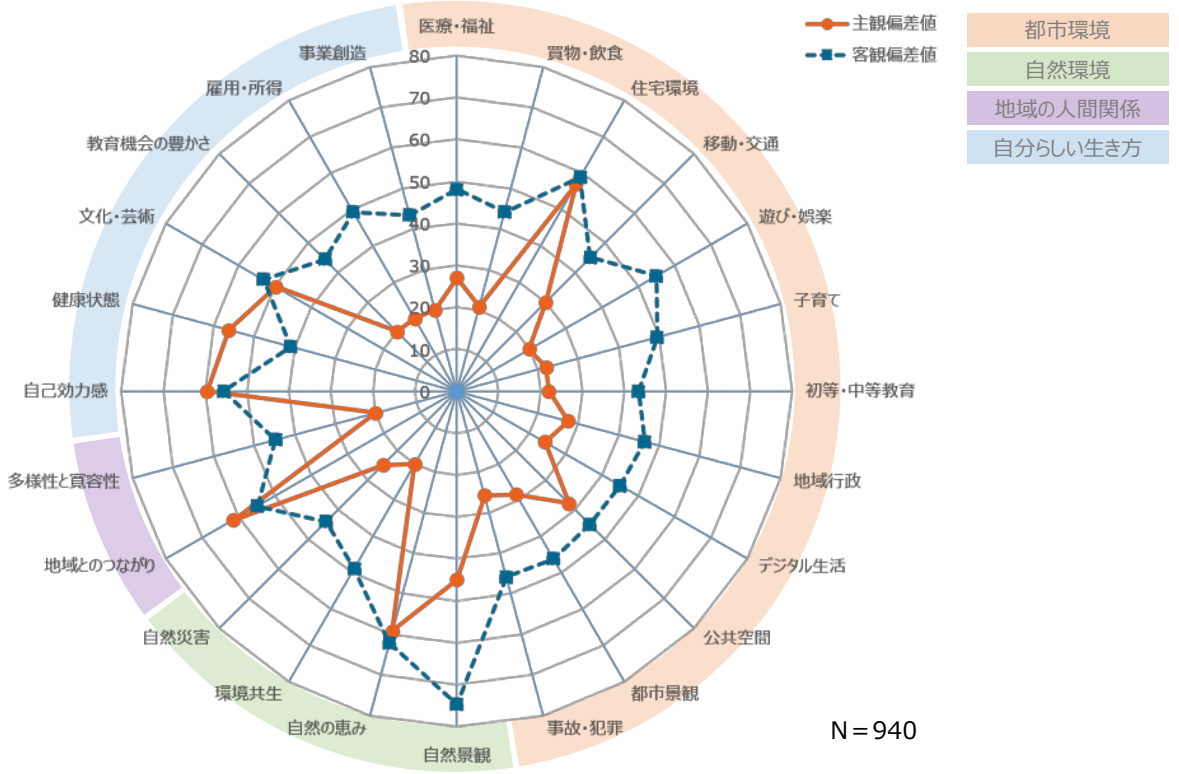
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.6 全体的な特徴の把握

- 主観が客観を上回るのは「健康状態」(＋15.3)、「地域とのつながり」(＋6.6)、「自己効力感」(＋3.9)の3因子にとどまり、「遊び・娯楽」(▲35.0)、「自然景観」(▲29.7)、「雇用・所得」(▲29.3)では特に乖離が大きい。
- 客観的な地域資源やサービス水準が住民の実感に必ずしも結び付いておらず、実態の改善に加えて既にある強みや取組を住民に伝える営みが重要と考えられる。

Well-Being因子群	Well-Being因子	主観偏差値		客観偏差値	主観ー客観
都市環境	医療・福祉	27.0	＜	48.1	▲ 21.1
都市環境	買物・飲食	20.8	＜	44.2	▲ 23.4
都市環境	住宅環境	56.9	＜	58.9	▲ 2.0
都市環境	移動・交通	30.0	＜	45.1	▲ 15.1
都市環境	遊び・娯楽	20.0	＜	55.0	▲ 35.0
都市環境	子育て	22.1	＜	49.5	▲ 27.4
都市環境	初等・中等教育	22.0	＜	43.4	▲ 21.4
都市環境	地域行政	27.5	＜	46.4	▲ 18.9
都市環境	デジタル生活	24.3	＜	45.0	▲ 20.7
都市環境	公共空間	37.9	＜	44.9	▲ 7.0
都市環境	都市景観	28.5	＜	46.1	▲ 17.6
都市環境	事故・犯罪	25.7	＜	45.9	▲ 20.2
自然環境	自然景観	44.9	＜	74.6	▲ 29.7
自然環境	自然の恵み	59.2	＜	62.1	▲ 2.9
自然環境	環境共生	20.0	＜	48.9	▲ 28.9
自然環境	自然災害	24.9	＜	44.0	▲ 19.1
地域の人間関係	地域とのつながり	61.5	＞	54.9	6.6
地域の人間関係	多様性と寛容性	20.0	＜	44.7	▲ 24.7
自分らしい生き方	自己効力感	59.5	＞	55.6	3.9
自分らしい生き方	健康状態	56.3	＞	41.0	15.3
自分らしい生き方	文化・芸術	49.8	＜	53.2	▲ 3.4
自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	20.0	＜	44.4	▲ 24.4
自分らしい生き方	雇用・所得	20.0	＜	49.3	▲ 29.3
自分らしい生き方	事業創造	20.0	＜	43.4	▲ 23.4

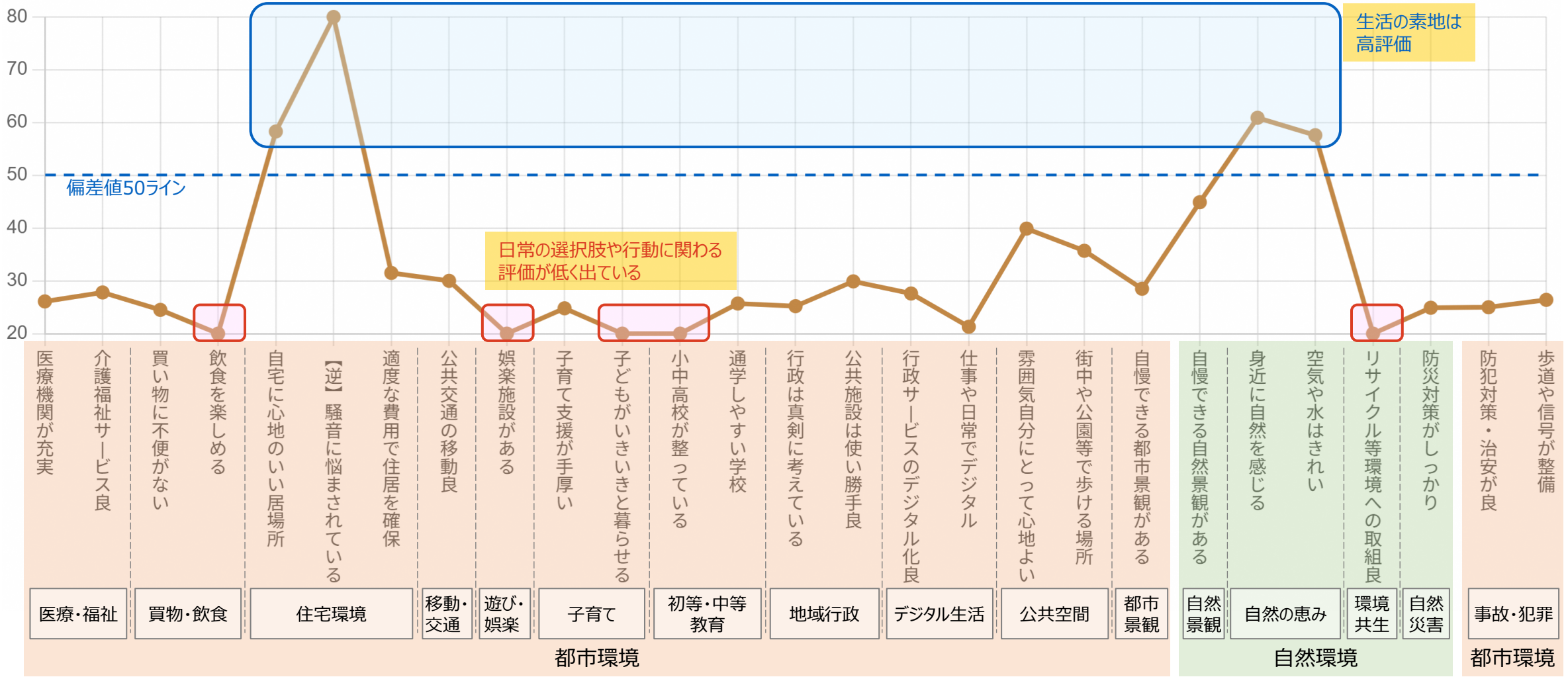
出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　　平均差分：▲ 16.2



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.7 主観評価：設問別偏差値（都市環境・自然環境）

- 都市環境では住宅環境の「自宅に心地のいい居場所」「騒音に悩まされていない」が突出して高く、住みやすい住宅環境に対する満足度の高さが見られる。自然環境で自然の恵みの2設問も高く、生活の素地が評価されている。
- 一方で、飲食・娯楽施設・環境配慮の取組などが最低値を示し、日常の選択肢や行動に関わる評価が低く出ている。

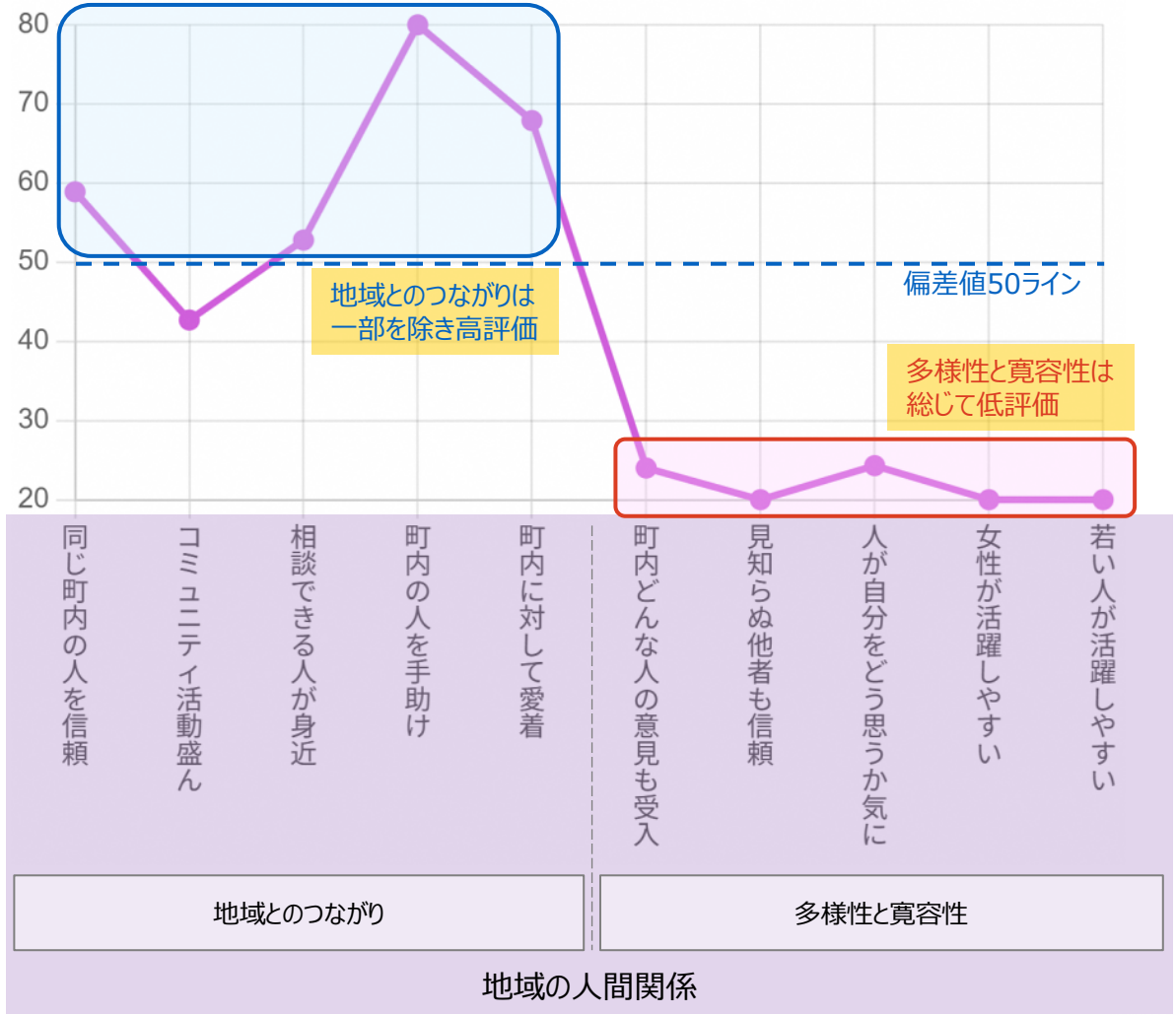


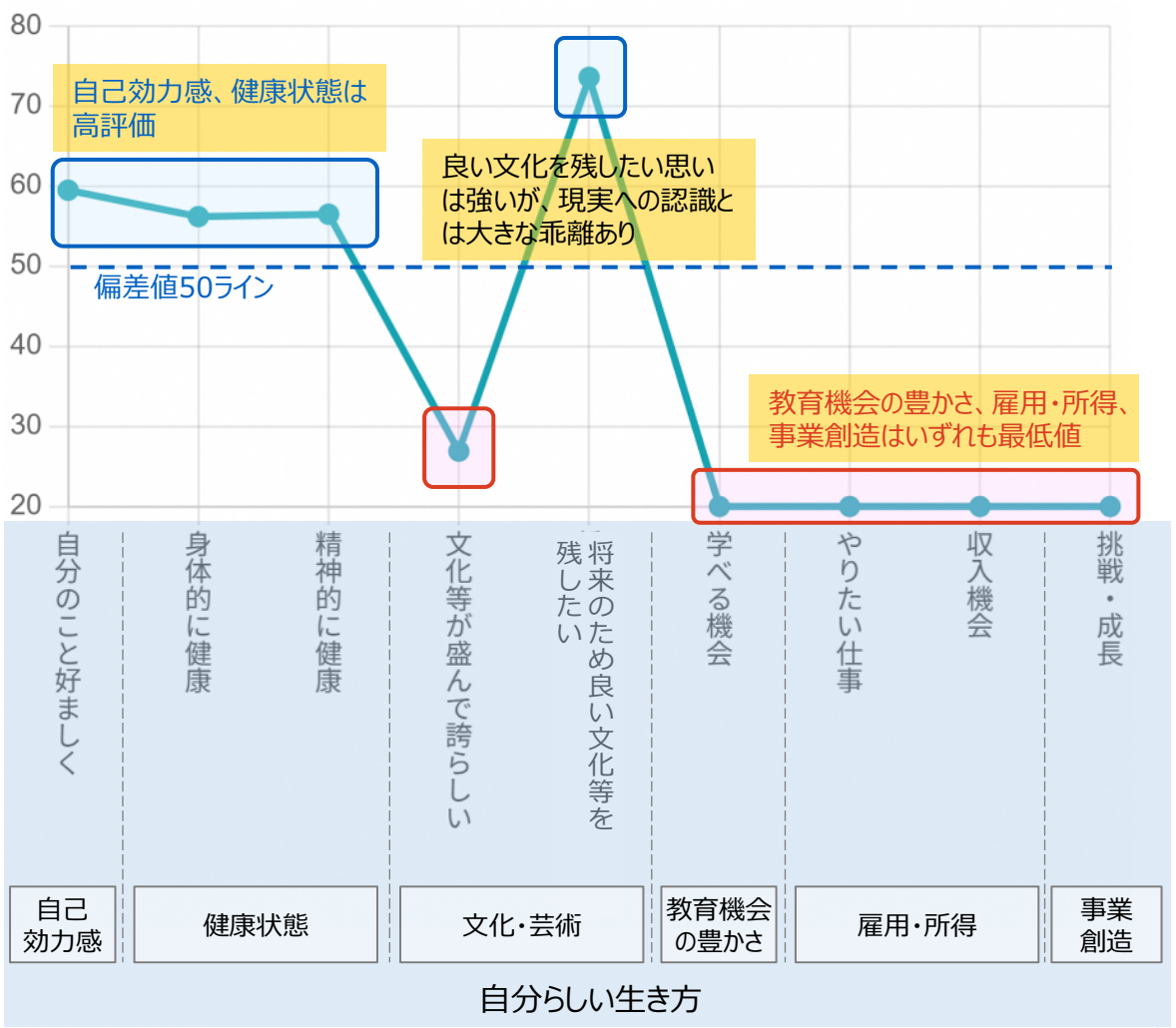
出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.8 主観評価：設問別偏差値（地域の人間関係・自分らしい生き方）

- 地域とのつながりは一部を除き高いが、多様性と寛容性は総じて低く、同じ人間関係カテゴリ内で明暗が分かれた。
- 自分らしい生き方では、自己効力感・健康状態が高評価である一方、「文化を残したい思い」と「文化が盛んで誇らしい」の間に大きな乖離があるほか、教育機会の豊かさ、雇用・所得、事業創造の設問はいずれも最低値を示している。



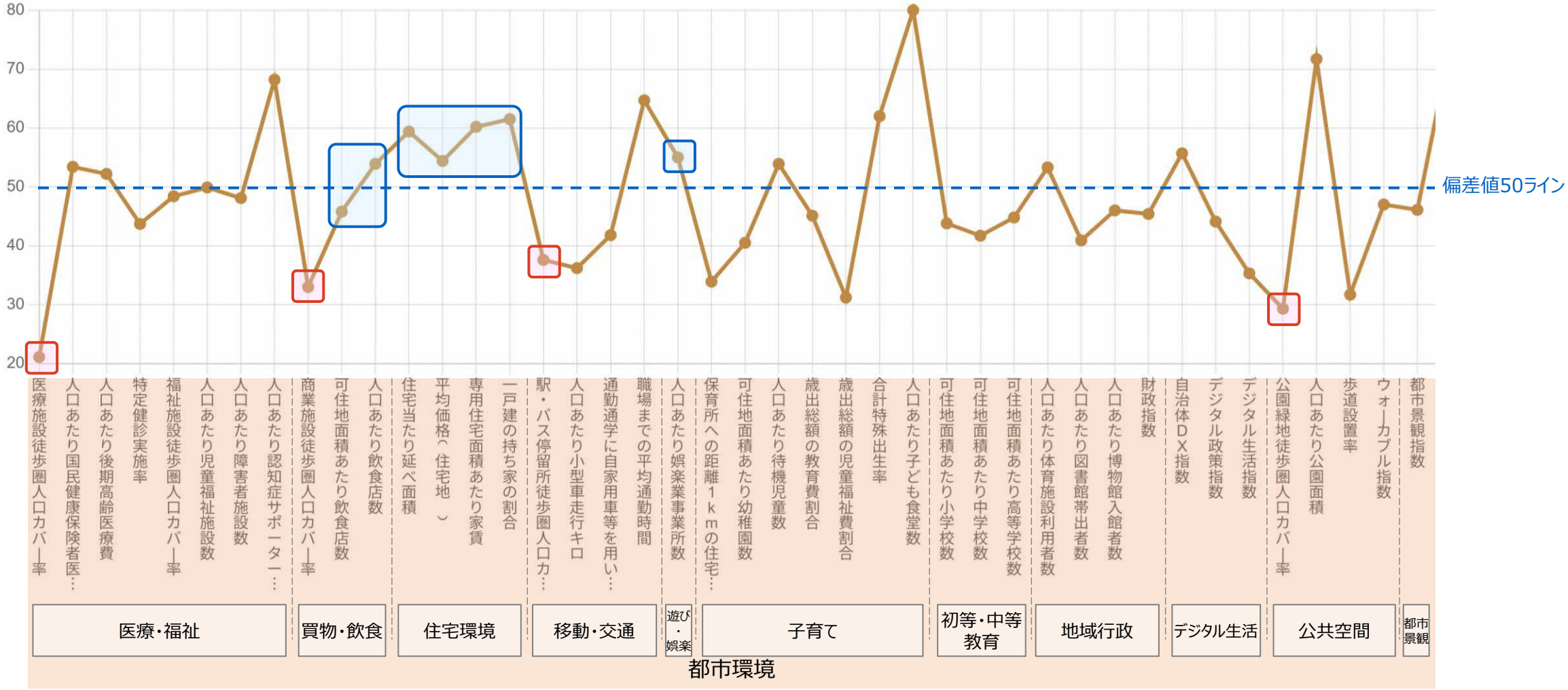


出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.9 客観評価：オープンデータ別偏差値（都市環境）

- 主観評価も高かった住宅環境はいずれの客観指標も50を上回っており、宇和島市の強みといえる。
- 主観評価では最低値を示していた飲食・娯楽施設は客観評価では高水準であり、実態と実感に大きな乖離がある。
- 徒歩圏人口カバー率をKPIとする客観指標が軒並み低い値を示し、徒歩アクセスの課題が見られる。

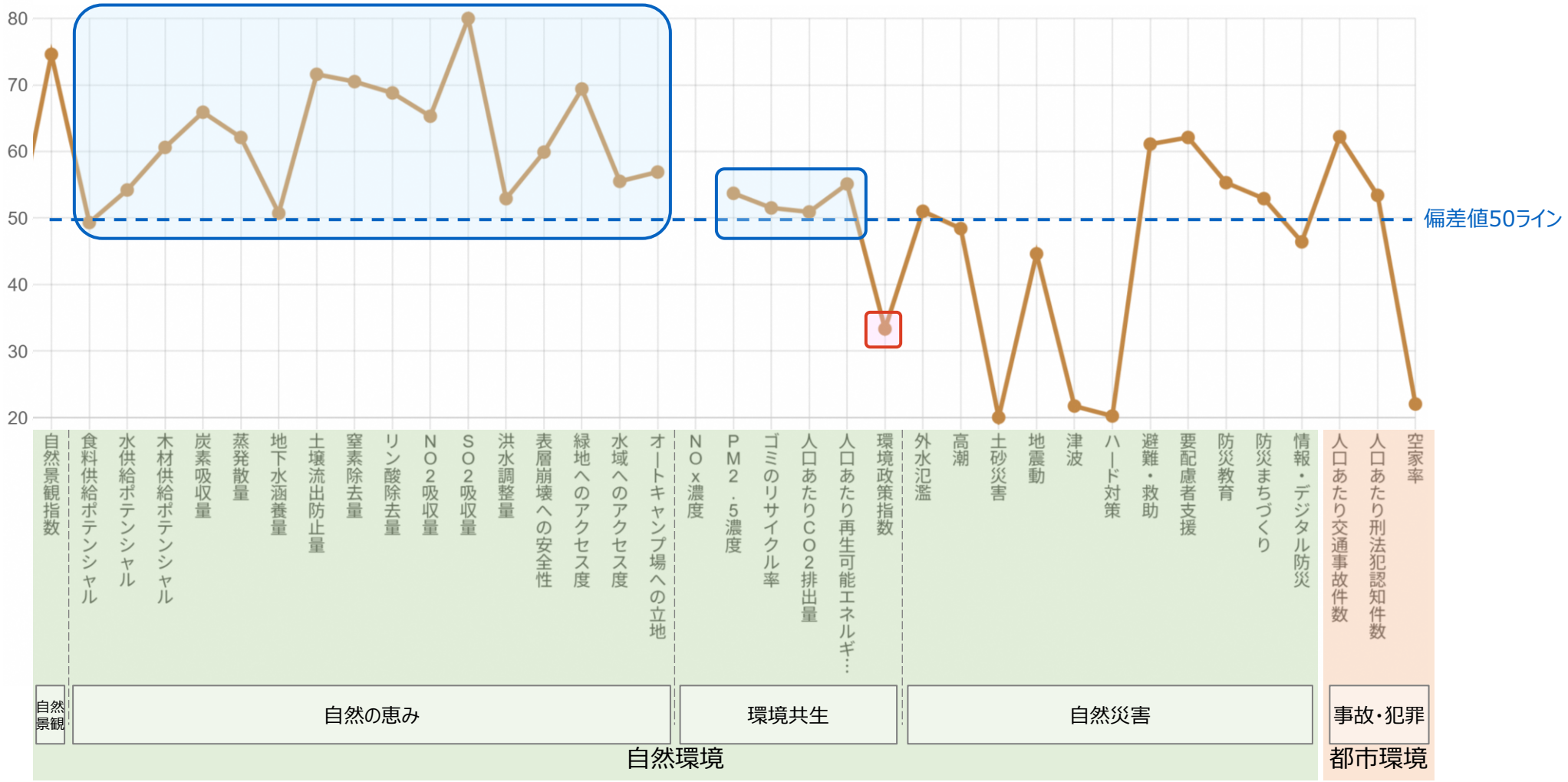


出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.10 客観評価：オープンデータ別偏差値（自然環境・都市環境）

- 主観評価も高かった自然の恵みは1指標を除き偏差値50を高水準で上回っており、宇和島市の強みといえる。
- 主観評価では最低値を示していた環境共生は客観評価では主要な指標が偏差値50を上回っており、実態と実感に大きな乖離がある。環境政策指数は環境政策の表明・参加に関する指標のため、住民浸透の課題との関連も窺える。

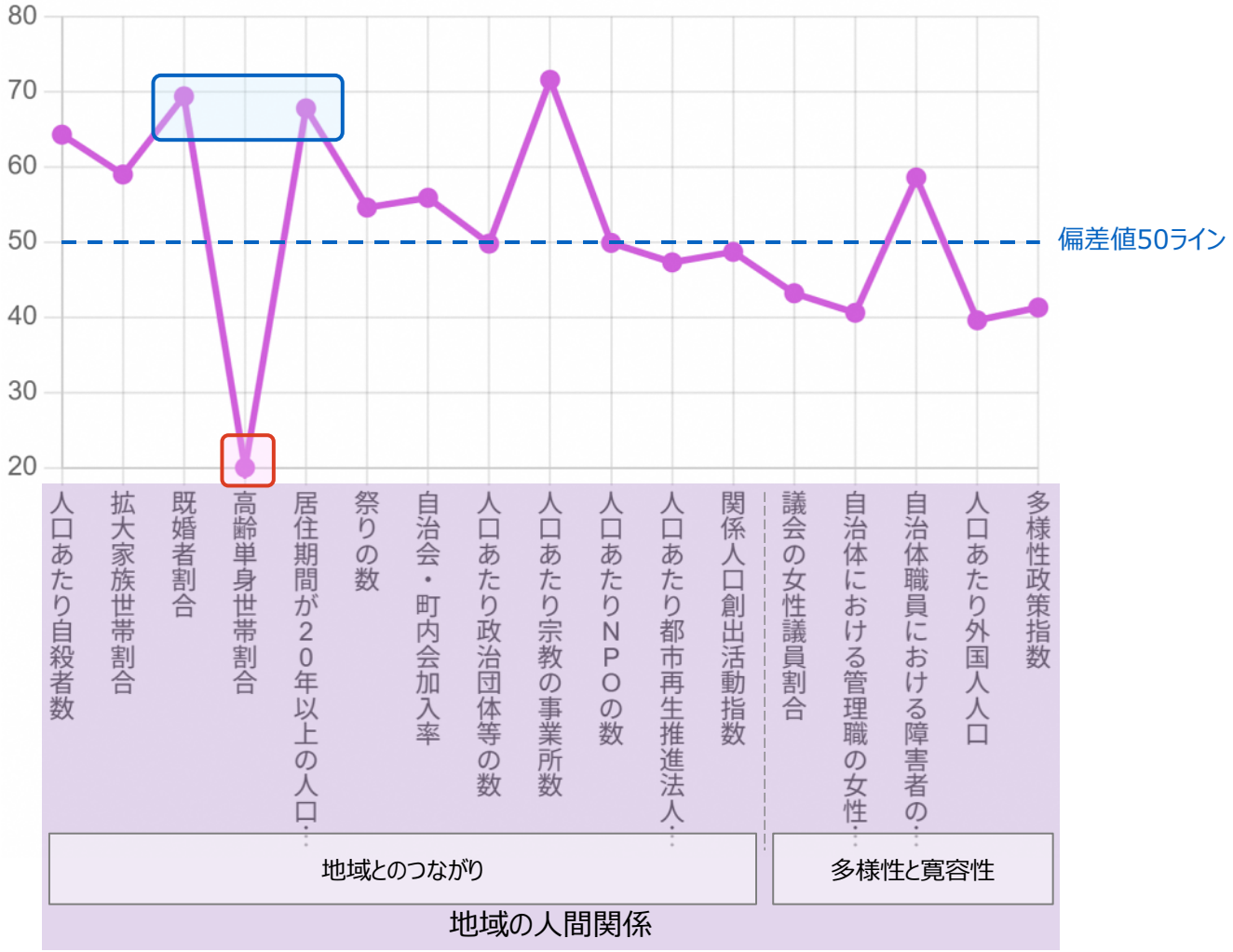


出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.11 客観評価：オープンデータ別偏差値（地域の人間関係）

- 「既婚者割合」や「居住期間20年以上人口」など、定住の安定した基盤が形成されていることが見て取れる。
- 一方、「高齢単身世帯割合」の偏差値は最低値を示している。ただし、地域とのつながりに関しては主観評価が客観評価を上回る数少ない因子であり、地域において必ずしも高齢単身者が孤立している状況ではないことが窺える。

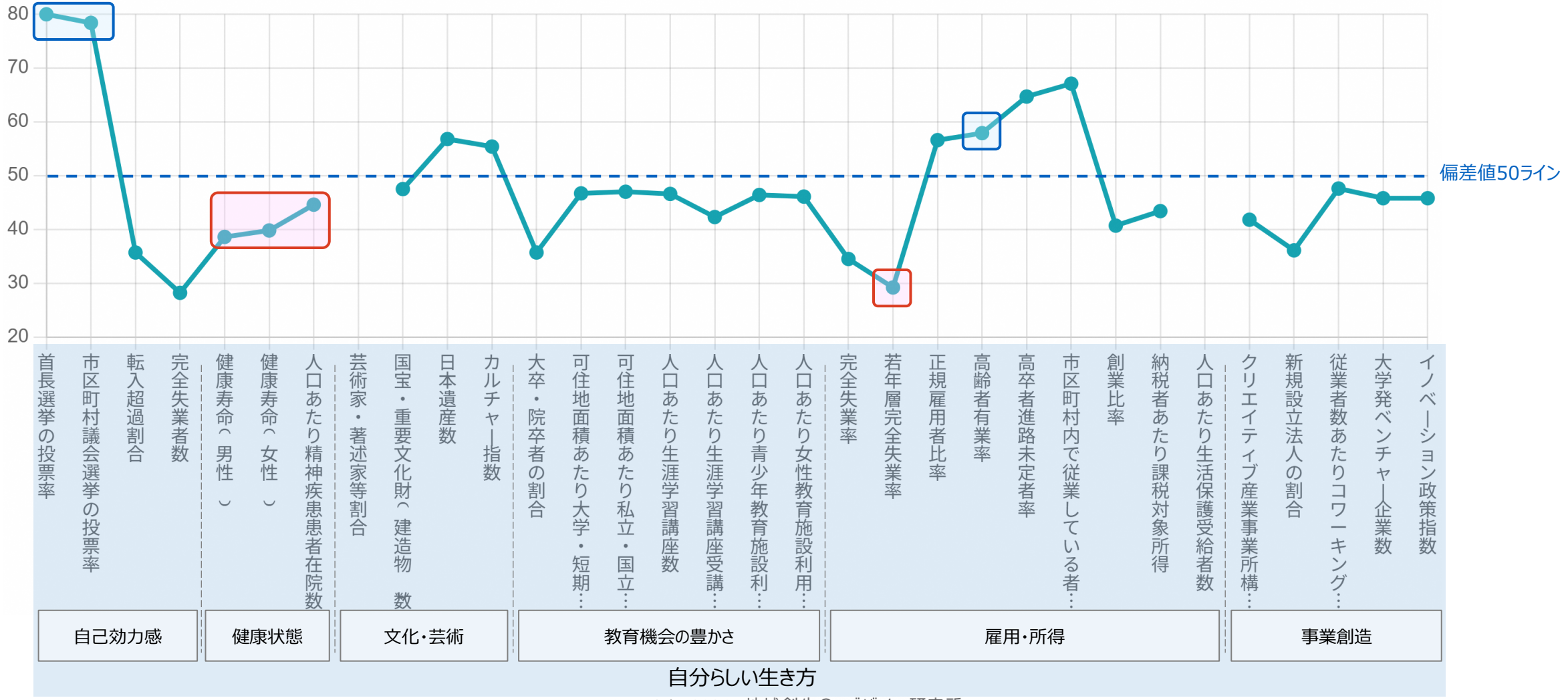


出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.12 客観評価：オープンデータ別偏差値（自分らしい生き方）

- 自己効力感は群を抜いた投票率関連の指標の高さに牽引されている。健康状態は3指標すべてが偏差値50を下回り、主観評価が客観評価を上回っている。純粋な健康状態とは別の要因が健康実感を押し上げている可能性が見受けられる。
- 雇用・所得は高齢者有業率が高い一方で若年層完全失業率の偏差値は低く、全世代が働ける環境づくりに伸びしろがある。



出典：https://well-being.digital.go.jp/dashboard/　＊弊社一部加工

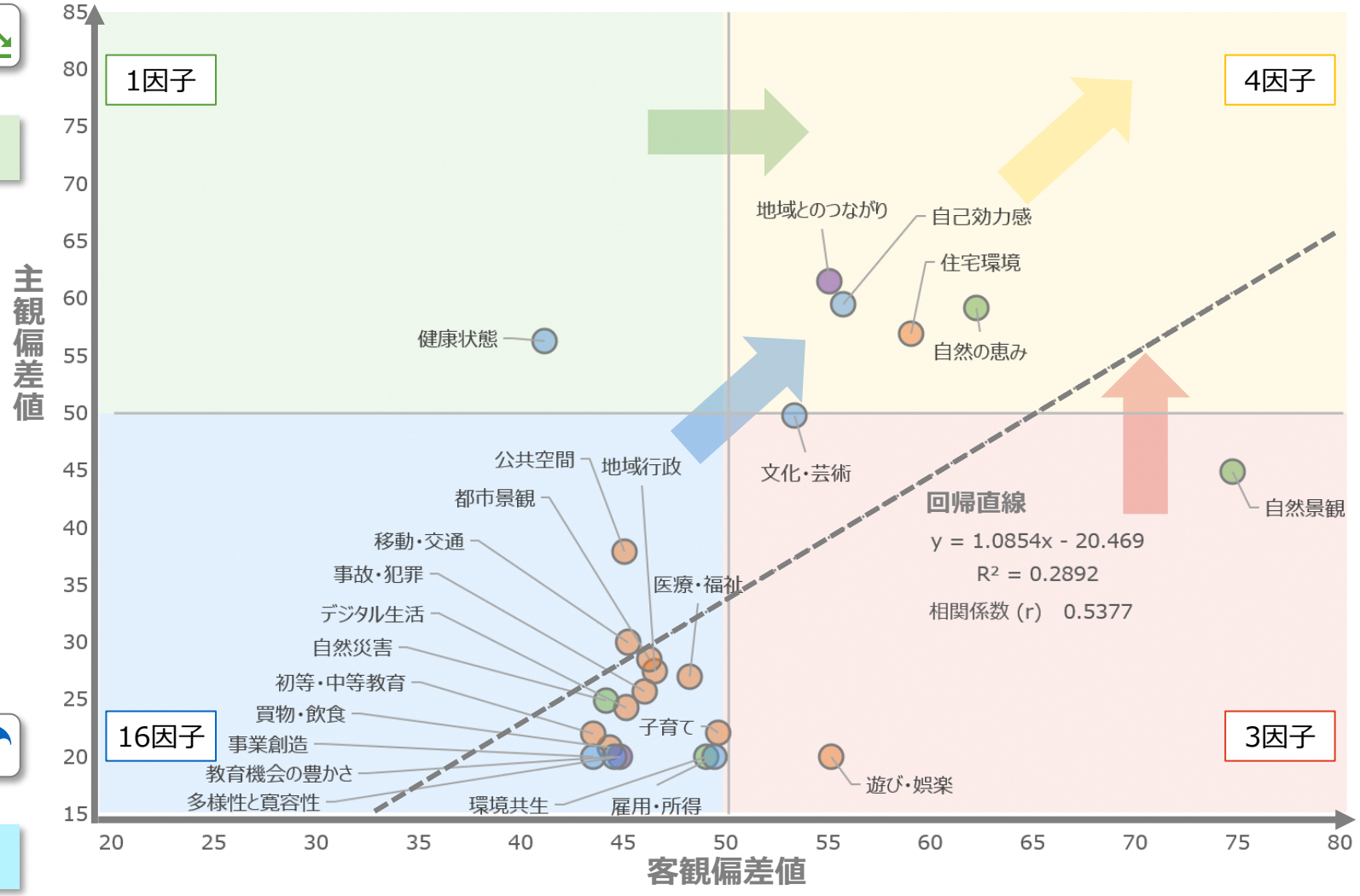
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

9.13 客観×主観の象限別分析

- 各Well-Being因子を主観偏差値と客観偏差値の偏差値50を区切りとなる基準値として4象限に分類。
- 各分野が位置する象限によって、政策に求められる戦略が異なる。

主観評価が高いが、**実態に気づき不満に変わるリスクあり**

政策注力戦略



大切に守り抜いていくべき分野、**まちのアイデンティティ**

アイデンティティ強化戦略

<戦略の方向性>

- まちのアイデンティティを守るために更に強化
- 主観の低下を招かないように政策に注力
- コミュニケーション戦略により認知変容を図る
- 顕在化している課題のため、積極的に新規政策を実施しつつ、住民向けにコミュニケーションも同時に図る

既に現状顕在化している課題であると想定される

新規政策・コミュニケーション両輪戦略

正しく認知されていないが、**周知次第で主観向上が見込める**

コミュニケーション戦略

Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

9.14 主観バイアス分析

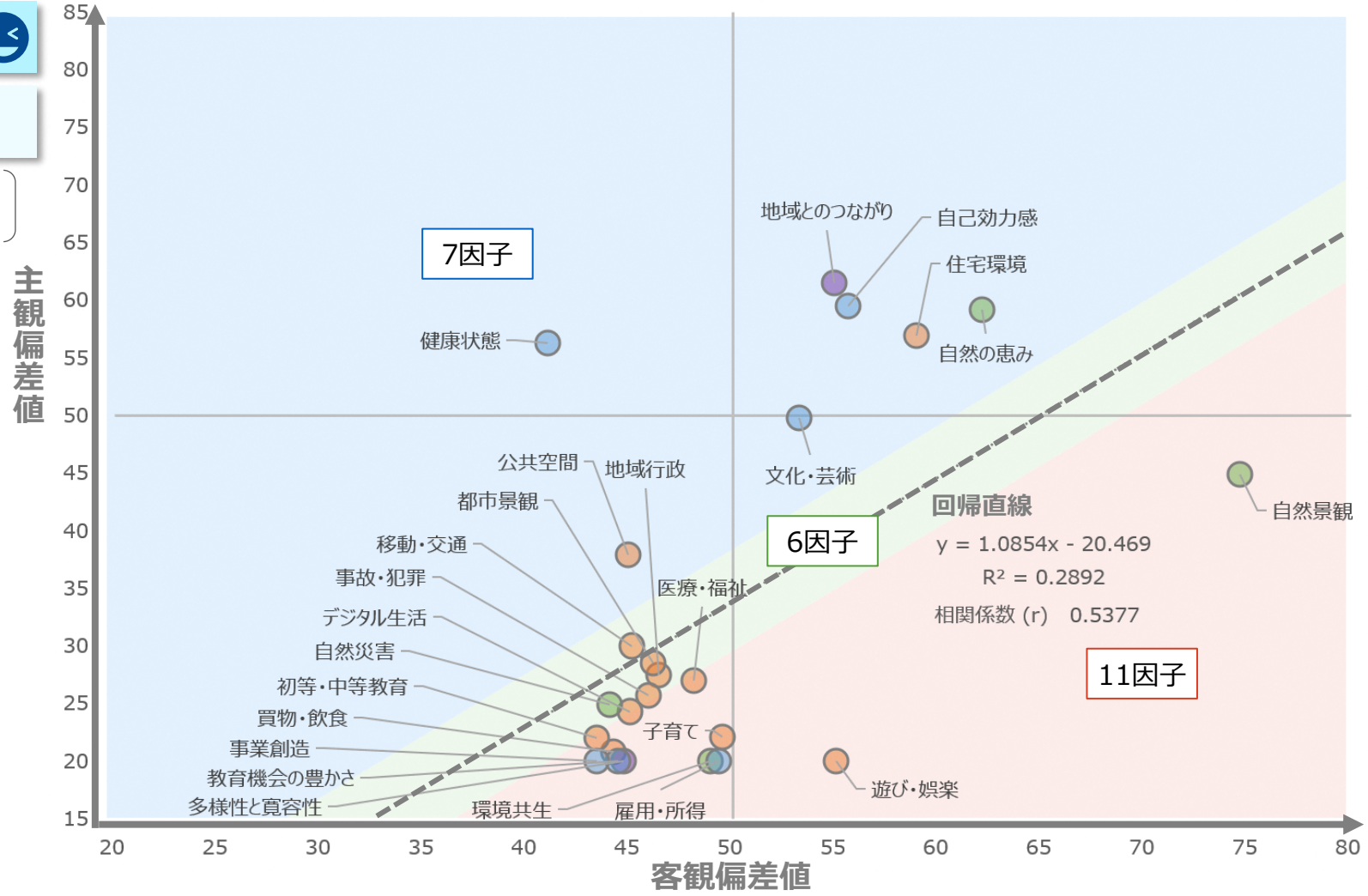
地域創生 Coデザイン 研究所

- 各Well-Being因子の回帰直線に対する位置により、政策の主観への反映のしやすさを可視化。バイアスの影響が小さい分野を優先的に取り組みながら他の分野との連動を意識すると政策効果を高めることができる。

ポジティブバイアス

何らかの要因により**ポジティブなバイアスが生じている**

回帰直線より上側にあり、回帰直線からの距離が3より大
＊距離が離れるほどバイアス大



ニュートラル

回帰直線付近に位置し、当該自治体における客観的実態と主観的実感の全体傾向から大きく乖離していない。客観と主観との相関が強いため、**政策による実態の変化が、住民の主観評価にも比較的反映されやすい可能性がある。**

回帰直線からの距離が上下に3以内

ネガティブバイアス

何らかの要因により**ネガティブなバイアスが生じている**

回帰直線より下側にあり、回帰直線からの距離が3より大
＊距離が離れるほどバイアス大

Copyright 2026 地域創生Coデザイン研究所

第10章：因子間相関

本章では、因子間の関係の強さ（因子間相関）を分析し、どの分野とどの分野の関係が強いかを明らかにする。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

10.0 因子間相関とは

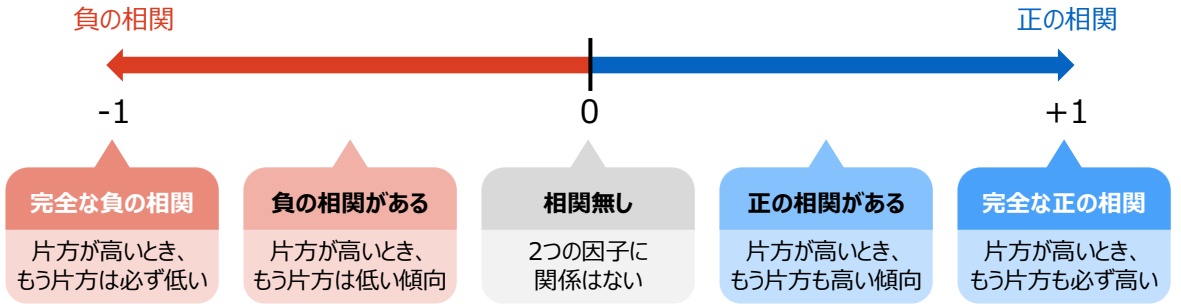
- 本章では、Well-Beingの各因子が互いにどのように関係しているか（因子間相関）を分析し、まちづくりの施策を考えるうえでのヒントを探る。
- 相関の強い因子同士は、片方が変化するともう片方も変化する傾向があることを示す。

相関とは

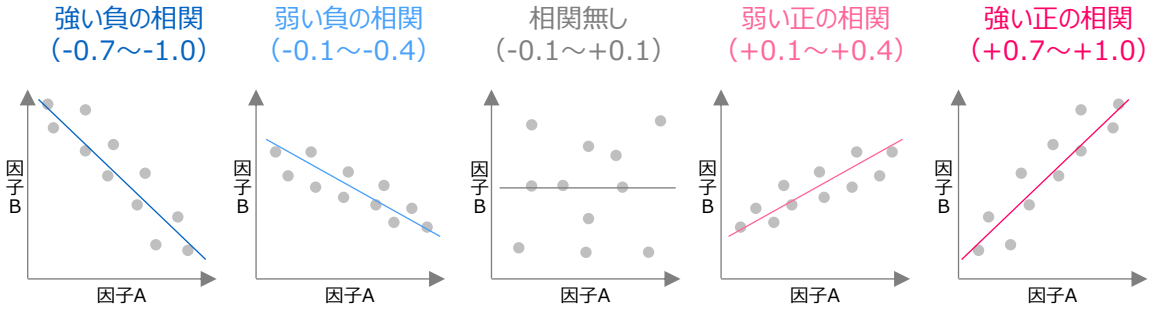
2つの変数について、片方が高いときにもう片方も高い（または低い）、あるいはその逆の関係が、どの程度強いかを数値で表したもの。
今回のアンケートにおいては、例えば「医療・福祉」の回答と「子育て」の回答がどの程度関係しているか、というように因子間の関係性を調べる。

相関係数とは

2つの変数の間の関係の強さと方向を数値で表したもの。



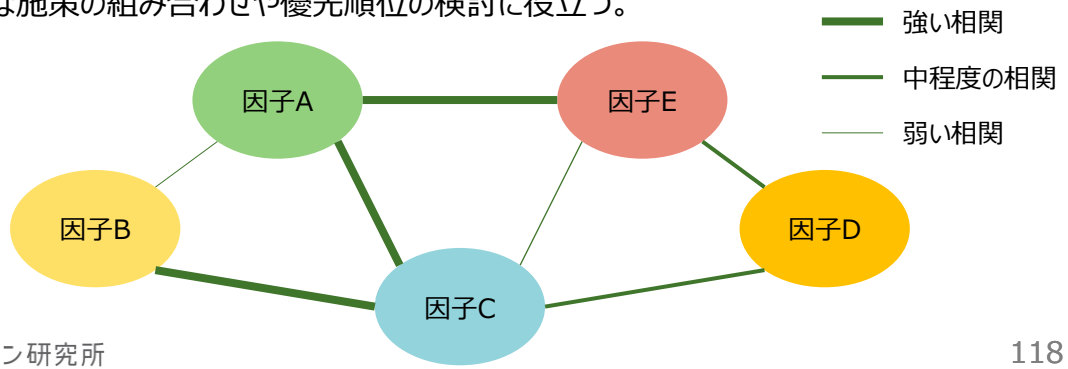
散布図で見る相関のイメージ（例）



強い負の相関 (-0.7～-1.0)	弱い負の相関 (-0.1～-0.4)	相関無し (-0.1～+0.1)	弱い正の相関 (+0.1～+0.4)	強い正の相関 (+0.7～+1.0)
因子Aが高いとき、因子Bは低い傾向がはっきりある	因子Aが高いとき、因子Bはやや低い傾向がある	因子Aと因子Bの間にはっきりした関係は見られない	因子Aが高いとき、因子Bもやや高い傾向がある	因子Aが高いとき、因子Bも高い傾向がはっきりある

まちづくりへの活用イメージ

相関の強い因子同士は、関連する施策を組み合わせることで、相乗効果が期待できる。どの因子とどの因子がつながっているかを知ることで、効果的な施策の組み合わせや優先順位の検討に役立つ。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

10.1 因子間相関係数（一覧）

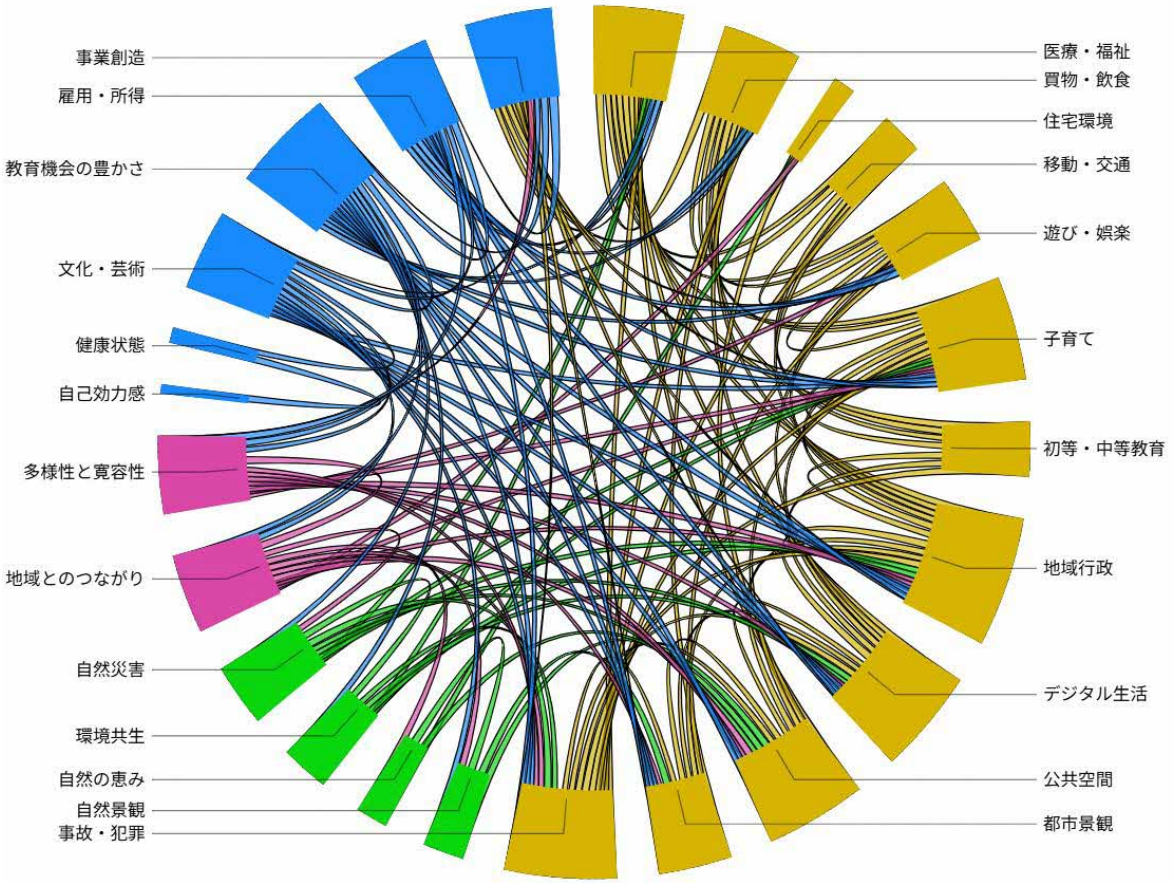
- 最も強い相関は雇用・所得と事業創造（0.75）である。次いで、医療・福祉と買物・飲食、地域行政とデジタル生活（ともに0.64）の相関が強い。地域行政は様々な因子との相関が高く（相関0.4以上の因子が18）、複数因子をつなぐハブ的な位置にある。
- 一方、主観評価の高かった自己効力感・健康状態・住宅環境・自然の恵みはいずれも他因子との相関が比較的低く、他分野の影響を受けにくい独立性の高い因子である。同じく主観評価の高かった地域とのつながりは他因子との一定の相関が見られ、強みを核とした取組の要点になる可能性がある。

因子	医療・福祉	買物・飲食	住宅環境	移動・交通	遊び・娯楽	子育て	初等・中等教育	地域行政	デジタル生活	公共空間	都市景観	事故・犯罪	自然景観	自然の恵み	環境共生	自然災害	地域とのつながり	多様性と寛容性	自己効力感	健康状態	文化・芸術	教育機会の豊かさ	雇用・所得	事業創造
01 医療・福祉		0.64	0.32	0.44	0.41	0.48	0.54	0.52	0.48	0.41	0.36	0.47	0.21	0.14	0.41	0.42	0.30	0.38	0.19	0.20	0.32	0.41	0.45	0.42
02 買物・飲食	0.64		0.26	0.54	0.46	0.41	0.57	0.48	0.47	0.37	0.41	0.47	0.22	0.09	0.35	0.32	0.20	0.29	0.20	0.23	0.34	0.42	0.45	0.43
03 住宅環境	0.32	0.26		0.17	0.20	0.39	0.31	0.39	0.33	0.53	0.28	0.32	0.39	0.43	0.30	0.31	0.46	0.31	0.36	0.32	0.32	0.36	0.33	0.34
04 移動・交通	0.44	0.54	0.17		0.55	0.34	0.45	0.45	0.37	0.25	0.35	0.43	0.16	0.00	0.27	0.32	0.17	0.30	0.08	0.06	0.21	0.34	0.39	0.34
05 遊び・娯楽	0.41	0.46	0.20	0.55		0.40	0.36	0.46	0.40	0.32	0.44	0.39	0.28	0.07	0.30	0.29	0.24	0.42	0.15	0.16	0.31	0.42	0.55	0.47
06 子育て	0.48	0.41	0.39	0.34	0.40		0.52	0.58	0.51	0.50	0.39	0.46	0.38	0.28	0.42	0.41	0.43	0.48	0.25	0.28	0.46	0.49	0.47	0.43
07 初等・中等教育	0.54	0.57	0.31	0.45	0.36	0.52		0.55	0.50	0.39	0.36	0.53	0.20	0.15	0.37	0.40	0.27	0.28	0.20	0.22	0.35	0.40	0.39	0.37
08 地域行政	0.52	0.48	0.39	0.45	0.46	0.58	0.55		0.64	0.51	0.46	0.58	0.39	0.28	0.51	0.54	0.46	0.55	0.23	0.22	0.44	0.55	0.54	0.51
09 デジタル生活	0.48	0.47	0.33	0.37	0.40	0.51	0.50	0.64		0.42	0.41	0.51	0.33	0.21	0.47	0.44	0.33	0.45	0.21	0.23	0.46	0.49	0.47	0.48
10 公共空間	0.41	0.37	0.53	0.25	0.32	0.50	0.39	0.51	0.42		0.50	0.47	0.56	0.53	0.38	0.43	0.62	0.46	0.37	0.37	0.48	0.44	0.37	0.38
11 都市景観	0.36	0.41	0.28	0.35	0.44	0.39	0.36	0.46	0.41	0.50		0.42	0.59	0.32	0.33	0.33	0.38	0.40	0.24	0.18	0.42	0.46	0.43	0.41
12 事故・犯罪	0.47	0.47	0.32	0.43	0.39	0.46	0.53	0.58	0.51	0.47	0.42		0.35	0.26	0.44	0.60	0.43	0.41	0.26	0.27	0.42	0.47	0.47	0.43
13 自然景観	0.21	0.22	0.39	0.16	0.28	0.38	0.20	0.39	0.33	0.56	0.59	0.35		0.62	0.34	0.31	0.51	0.39	0.29	0.30	0.45	0.36	0.31	0.33
14 自然の恵み	0.14	0.09	0.43	0.00	0.07	0.28	0.15	0.28	0.21	0.53	0.32	0.26	0.62		0.33	0.32	0.51	0.30	0.29	0.26	0.33	0.25	0.16	0.20
15 環境共生	0.41	0.35	0.30	0.27	0.30	0.42	0.37	0.51	0.47	0.38	0.33	0.44	0.34	0.33		0.54	0.35	0.37	0.21	0.23	0.34	0.42	0.35	0.35
16 自然災害	0.42	0.32	0.31	0.32	0.29	0.41	0.40	0.54	0.44	0.43	0.33	0.60	0.31	0.32	0.54		0.45	0.39	0.18	0.19	0.34	0.41	0.36	0.36
17 地域とのつながり	0.30	0.20	0.46	0.17	0.24	0.43	0.27	0.46	0.33	0.62	0.38	0.43	0.51	0.51	0.35	0.45		0.60	0.38	0.35	0.48	0.41	0.33	0.34
18 多様性と寛容性	0.38	0.29	0.31	0.30	0.42	0.48	0.28	0.55	0.45	0.46	0.40	0.41	0.39	0.30	0.37	0.39	0.60		0.25	0.18	0.45	0.50	0.54	0.53
19 自己効力感	0.19	0.20	0.36	0.08	0.15	0.25	0.20	0.23	0.21	0.37	0.24	0.26	0.29	0.29	0.21	0.18	0.38	0.25		0.54	0.35	0.25	0.24	0.23
20 健康状態	0.20	0.23	0.32	0.06	0.16	0.28	0.22	0.22	0.23	0.37	0.18	0.27	0.30	0.26	0.23	0.19	0.35	0.18	0.54		0.42	0.28	0.24	0.24
21 文化・芸術	0.32	0.34	0.32	0.21	0.31	0.46	0.35	0.44	0.46	0.48	0.42	0.42	0.45	0.33	0.34	0.34	0.48	0.45	0.35	0.42		0.57	0.41	0.41
22 教育機会の豊かさ	0.41	0.42	0.36	0.34	0.42	0.49	0.40	0.55	0.49	0.44	0.46	0.47	0.36	0.25	0.42	0.41	0.41	0.50	0.25	0.28	0.57		0.59	0.59
23 雇用・所得	0.45	0.45	0.33	0.39	0.55	0.47	0.39	0.54	0.47	0.37	0.43	0.47	0.31	0.16	0.35	0.36	0.33	0.54	0.24	0.24	0.41	0.59		0.75
24 事業創造	0.42	0.43	0.34	0.34	0.47	0.43	0.37	0.51	0.48	0.38	0.41	0.43	0.33	0.20	0.35	0.36	0.34	0.53	0.23	0.24	0.41	0.59	0.75	

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

10.2 因子間相関の弦グラフ

- 本図は、因子間のつながりを可視化したものである。線が多く太い因子ほど、他の多くの因子と連動していることを示す。
- 都市環境群の因子の中でも、地域行政、子育て、公共空間などが群の内外に多くの線を伸ばしており、宇和島市のWell-Beingにおける結節点となっている。他因子群でも自然災害、地域とのつながり、教育機会の豊かさなど接続数が多い因子が見られ、これらの分野への働きかけは他分野へ幅広く波及する可能性が高い。
- まちづくりにおいては結節点となる因子を起点に施策を組み立てることで、相乗効果が期待できる。



都市環境
自然環境
地域の人間関係
自分らしい生き方

※相関係数0.40以上のみを表示

出典：https://sci-japan.or.jp/LWCI/tool/bunseki_kobetsu_shikuchoson.html　＊弊社一部加工

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

第11章：まちづくりの論点

本章では、第1章から第10章までの分析結果を踏まえて、宇和島市のまちづくりにおける論点を整理する。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.1　まちづくりの論点化

- アンケート結果およびWell-Being因子分析の結果を踏まえ、宇和島市におけるまちづくりの論点を整理する。
- 「①宇和島市の強みとして維持・活用すべき因子」と「②生活満足度の低さに直結し、実態と実感の双方に課題がある因子」という2つの観点から論点を選定した。

	① 「地域とのつながり」を核に、生活満足度を高める 強みとして維持・活用すべきであり、他因子への波及が期待される因子	② 暮らしの利便性－実態の改善と「実感」への転換 生活満足度の低さに直結し、実態と実感の双方に課題がある因子
特筆すべき分析結果	地域とのつながりは主観偏差値61.5と24因子中最高。主観が客観を上回る3因子の一つ 該当スライド：9.6 生活満足度との相関は公共空間0.56が最高、地域とのつながり0.46が3位 該当スライド：9.4 地域とのつながりと最も強く結び付く因子は公共空間（相関係数0.62） 該当スライド：10.1 市への愛着・地区定住意向はともに公共空間・地域とのつながりと関連が強い 該当スライド：7.9.1／7.9.2	幸福度6.7は全国平均を0.3pt上回る一方、生活満足度5.7は0.9pt下回る 該当スライド：9.1 転出・転居検討理由の上位は「道路事情や交通の便が悪い」53.5%、「買い物が不便」47.8% 該当スライド：6.3 主観偏差値は移動・交通30.0、買物・飲食20.8、医療・福祉27.0と低水準 該当スライド：9.6／9.7 24因子中21因子で主観が客観を下回り、平均差は▲16.2 該当スライド：9.6
論点	地域とのつながりは主観61.5・客観54.9とともに50を上回る数少ない強みであり、象限では「アイデンティティ強化戦略」に該当する。 加えて、同じ象限の住宅環境・自然の恵み・自己効力感が他因子との相関の低い独立性の高い因子であるのに対し、本因子は他因子と一定の相関を持つ。 この強みを、生活満足度と最も強く結び付く公共空間と重ね、つながりの実感が弱い市街地・若年層・子育て層へどう広げるかが論点となる。	生活満足度の低さは、移動・買物・医療といった日常の利便性への低い評価と重なり、転出・転居の検討理由とも一致する。 一方で、これらを含む多くの因子で客観評価は必ずしも低くなく、実態が実感に届いていない。 限られた資源を前提に、実態の改善と、既にある資源の伝え方の見直しをどう両立させるかが論点となる。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.2.1　論点①：つながりを核に満足度を高める（1/4）

- 地域とのつながりは主観偏差値61.5と24因子中最も高く、客観偏差値54.9を上回る。主観が客観を上回るのは本因子を含む3因子のみであり、象限では「アイデンティティ強化戦略」に該当する。
- 同じ象限にある住宅環境・自然の恵み・自己効力感が他因子との相関が低い独立性の高い因子であるのに対し、地域とのつながりは他因子と一定の相関を持ち、強みを核とした取組の起点となり得る。

主観評価が高い因子と公共空間の位置づけ

Well-Being因子	主観偏差値	客観偏差値	主観ー客観	相関0.4以上の因子数
地域とのつながり	**61.5**	**54.9**	**+6.6**	**11**
自己効力感	59.5	55.6	+3.9	1
自然の恵み	59.2	62.1	▲2.9	4
住宅環境	56.9	58.9	▲2.0	3
（参考）公共空間	37.9	44.9	▲7.0	14

※「相関0.4以上の因子数」はスライド10.1（因子間相関係数一覧）の各因子行より集計

客観×主観の象限別分析結果

戦略の方向性	因子数	該当因子
アイデンティティ強化	**4**	**住宅環境／自然の恵み／地域とのつながり／自己効力感**
政策注力	1	健康状態
コミュニケーション	3	遊び・娯楽／自然景観／文化・芸術
新規政策・コミュニケーション両輪	16	公共空間／医療・福祉／移動・交通　ほか13因子

※主観偏差値・客観偏差値の50を基準に4象限へ分類（スライド9.13）

考察

- 主観が客観を上回るのは健康状態（＋15.3）、地域とのつながり（＋6.6）、自己効力感（＋3.9）の3因子にとどまる。24因子の平均差が▲16.2である中で、地域とのつながりは住民の実感が実態を上回って評価されている数少ない領域である。
- 同じく主観評価の高い住宅環境・自然の恵み・自己効力感は他因子との相関が比較的低く独立性が高い。一方、地域とのつながりは相関0.4以上の因子が11あり、他分野へ波及しやすい（スライド10.1）。自由記述G1でも「人が優しい」「人とのつながり」が宇和島市の魅力として挙げられており、定量・定性の双方から裏付けられる強みといえる（スライド8.1）。
- なお、生活満足度と最も強い相関で結び付く公共空間は主観37.9・客観44.9とともに50を下回り、「新規政策・コミュニケーション両輪戦略」の象限にある。その公共空間と最も強い相関を示すのが地域とのつながり（相関係数0.62）であり、宇和島市の強みである地域とのつながりを起点に公共空間へと効果を波及させ、延いては生活満足度向上にもつながり得る。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.2.2　論点①：つながりを核に満足度を高める（2/4）

- 生活満足度との相関は公共空間0.56が24因子中最も高く、地域行政0.47、地域とのつながり0.46が続く。幸福度で上位の健康状態0.32・自己効力感0.33は相対的に低い。
- 地域とのつながりと最も強く結び付く因子は公共空間0.62であり、市への愛着・地区定住意向もこれらの2因子と比較的強い関連を示す。

生活満足度との相関（上位5因子）

順位	Well-Being因子	相関係数
1	**公共空間**	**0.56**
2	地域行政	0.47
3	**地域とのつながり**	**0.46**
4	子育て	0.45
5	医療・福祉	0.44

該当スライド：9.4（生活満足度と各因子の相関）

地域とのつながりと相関の強い因子

順位	Well-Being因子	相関係数
1	**公共空間**	**0.62**
2	多様性と寛容性	0.60
3	自然景観	0.51
3	自然の恵み	0.51
5	文化・芸術	0.48

該当スライド：10.1（因子間相関係数一覧）

考察

- 宇和島市は幸福度が全国平均を上回りながら生活満足度が下回るという現状にある。生活満足度は公共空間・地域行政・地域とのつながりなどとの相関が見られる。
- 公共空間への評価は主観37.9・客観44.9とともに50を下回るものの、公共空間は地域とのつながりと相関係数0.62で結び付いており、両者は相互に高め合う関係にある。強みである地域とのつながりを活かしながら、人が集い交流できる場として公共空間を再定義し整えることが、生活満足度の向上へとつながる可能性がある。
- また、宇和島市への愛着は公共空間・地域とのつながり・文化・芸術と、地区定住意向は公共空間・地域とのつながりと、それぞれ比較的強い関連を示す（スライド7.9.1／7.9.2）。公共空間・地域とのつながりの2因子への働きかけは、生活満足度の向上と定住の双方に効果が期待できる。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.2.3　論点①：つながりを核に満足度を高める（3/4）

- 地域とのつながりの5設問（D1～D5）はいずれも三間地区が最も高く、宇和島地区が最も低い。市中心部を含む市街地性の高い宇和島地区で支え合いの実感が弱い傾向が見られる。
- 全体では「地域の人が困っていたら手助けをする」3.41に対し、「困ったときに相談できる人が身近にいる」は2.77と0.64pt低く、助ける意思はあっても頼れる実感が伴っていない。

地域とのつながり（D1～D5）の全体平均スコア

設問	設問内容	全体平均
D1	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22
D2	地域活動への市民参加が盛んである	2.85
D3	**困ったときに相談できる人が身近にいる**	**2.77**
D4	**地域の人が困っていたら手助けをする**	**3.41**
D5	住んでいる地域に対して愛着を持っている	3.34

※5段階評価（非常にあてはまる＝5～全くあてはまらない＝1）の全体平均スコア
N＝940（設問ごとの有効回答数は無回答により異なる）

つながりの実感が相対的に弱い層

対象	分析結果	該当スライド
宇和島地区	D1～D5の5設問すべてで4地区中最も低い	4.3.1
女性20～40代	地域の人間関係10設問のうち6設問で最低値を占める	3.2
男性30代	地域での生活満足度や相談相手の身近さで最低値	3.3
居住1～5年未満	D3および幸福度が最も低いのは居住5～10年未満層だが、転出意向が強まり始めるのは居住1～5年未満層であるため、施策の着目点は居住1～5年未満層とする	7.6.1／7.6.3 7.3
18歳未満の子がいる層	地域とのつながりに関する設問が全体的に低い	7.8.4

考察

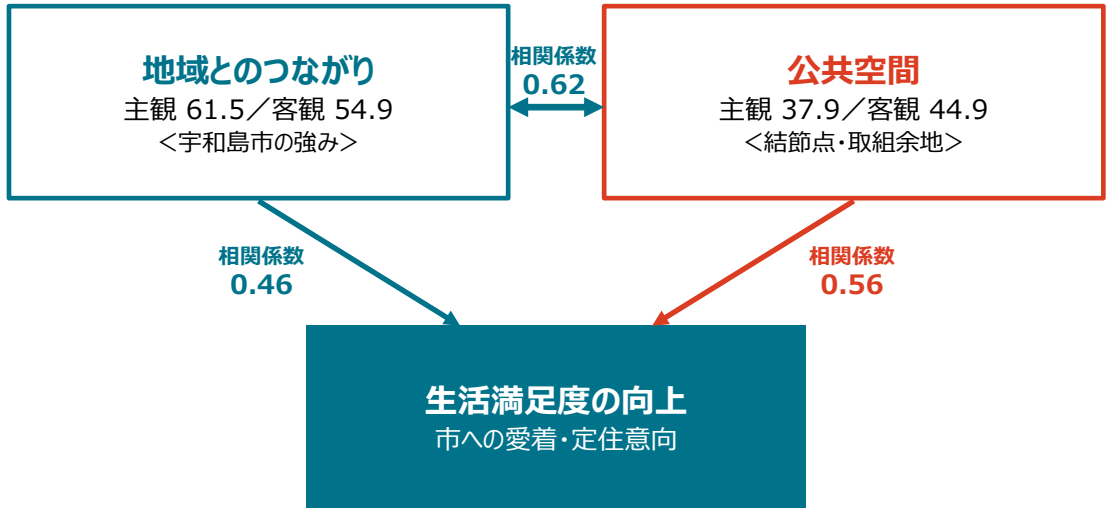
- つながりの実感が弱い層は、定住意向が相対的に低い層とも重なる。20代の積極的な地区定住意向は5割を下回り、18歳未満の子がいる層も55.5%と全層で最も低い（スライド7.1.1／7.5）。また、「どちらかといえば住みたくない」の選択は居住1年以上5年未満の層で最も高く、一歩踏み込んだ「住みたくない」の選択は居住5年以上10年未満の層で最も高い。居住1年以上5年未満のタイミングが定住施策の焦点となることが考えられる（スライド7.3）。
- 宇和島地区では、自ら手助けするかを問うD4に比べてD3（相談できる人が身近にいる）の低さがより大きく出ている。「支える意思」はあっても「頼れる実感」が伴っていない状態であり、この乖離はつながりを広げる余地とも捉えることができる（スライド5.1）。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.2.4　論点①：つながりを核に満足度を高める（4/4）

- 強みである「地域とのつながり」を起点に、生活満足度と最も強く結び付く「公共空間」の実態を底上げすることで、暮らしの満足度と定住意向の双方を押し上げる。
- 公共空間・地域とのつながりはいずれも市への愛着と定住意向に結び付いており、この2因子への投資は宇和島市のWell-Being向上に直接的につながる。

つながりを広げる対象
宇和島地区／女性20～40代・男性30代／子育て世帯／居住1～5年未満層



※数値は生活満足度との相関係数および因子間相関係数（スライド9.4／10.1）

■ 現状・課題認識

- 地域とのつながりは主観・客観ともに50を上回る強みである一方、生活満足度と最も強く結び付く公共空間は主観37.9・客観44.9と、実態・実感の双方に課題がある。
- つながりの実感は、宇和島地区／女性20～40代・男性30代／子育て世帯／居住5～10年未満層で弱く、これらは定住意向が低い層とも重なる。
  （ただし、転出意向が強まり始めるのは居住1～5年未満層であるため、施策の着目点は居住1～5年未満層とする）

■ 取組の方向性

- 【強みを守る】地域とのつながりは市のアイデンティティを形づくる強みであり、人口減少が進むなかでも、その水準を維持することが前提となる。
- 【実態を底上げする】人が集い交流できる場として公共空間を再定義し、まちなか・公園・川沿い等の居場所の質を高めることで実態を底上げする（論点②と一体で検討）。
  公共空間の充実は、地域とのつながりと相互に効果を発揮する可能性がある。
- 【つながりを広げる】市街地や子育て世帯、転入後間もない層に対しては、日常の延長で人と出会える場や相談できる先を増やすことが、「頼れる実感」の向上につながり得る。

■ Well-Beingの向上へ

- 公共空間は生活満足度との相関が24因子中最も高く、この因子への投資は暮らしの満足度を最も直接的に押し上げる打ち手といえる。
- つながりという強みに、公共空間という居場所の底上げを重ねることで、愛着から定住、そして幸福度・生活満足度の向上へとつなぐ。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.3.1　論点②：利便性の改善と実感への転換（1/3）

- 幸福度は6.7と全国平均6.4を0.3pt上回る一方、生活満足度は5.7と全国平均6.6を0.9pt下回り、「自分自身は幸せだが、地域の暮らしには満足しきれていない」という構造が表れている。
- 転出・転居を検討する理由の上位は「道路事情や交通の便が悪い」53.5%、「日常の買い物が不便」47.8%であり、主観偏差値でも移動・交通30.0、買物・飲食20.8と低水準にある。

転出・転居を検討する理由（上位5項目）

選択肢	割合
道路事情や交通の便が悪いから	**53.5%**
日常の買い物が不便だから	**47.8%**
適当な職場が少ないから	37.3%
自然災害に不安を感じるから	37.0%
保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから	29.2%

該当スライド：6.3（F2-a 移りたい／移ってもよい理由）N＝370、複数回答

住み続けたい理由（上位5項目）

選択肢	割合
生まれ育った地域だから	**58.3%**
家族・親族が近くにいるから	**52.0%**
自然環境が良いから	38.2%
食べ物がおいしいから	28.3%
日常の買い物に便利だから	26.3%

該当スライド：6.4（F2-b 住み続けたい理由）N＝552、複数回答

考察

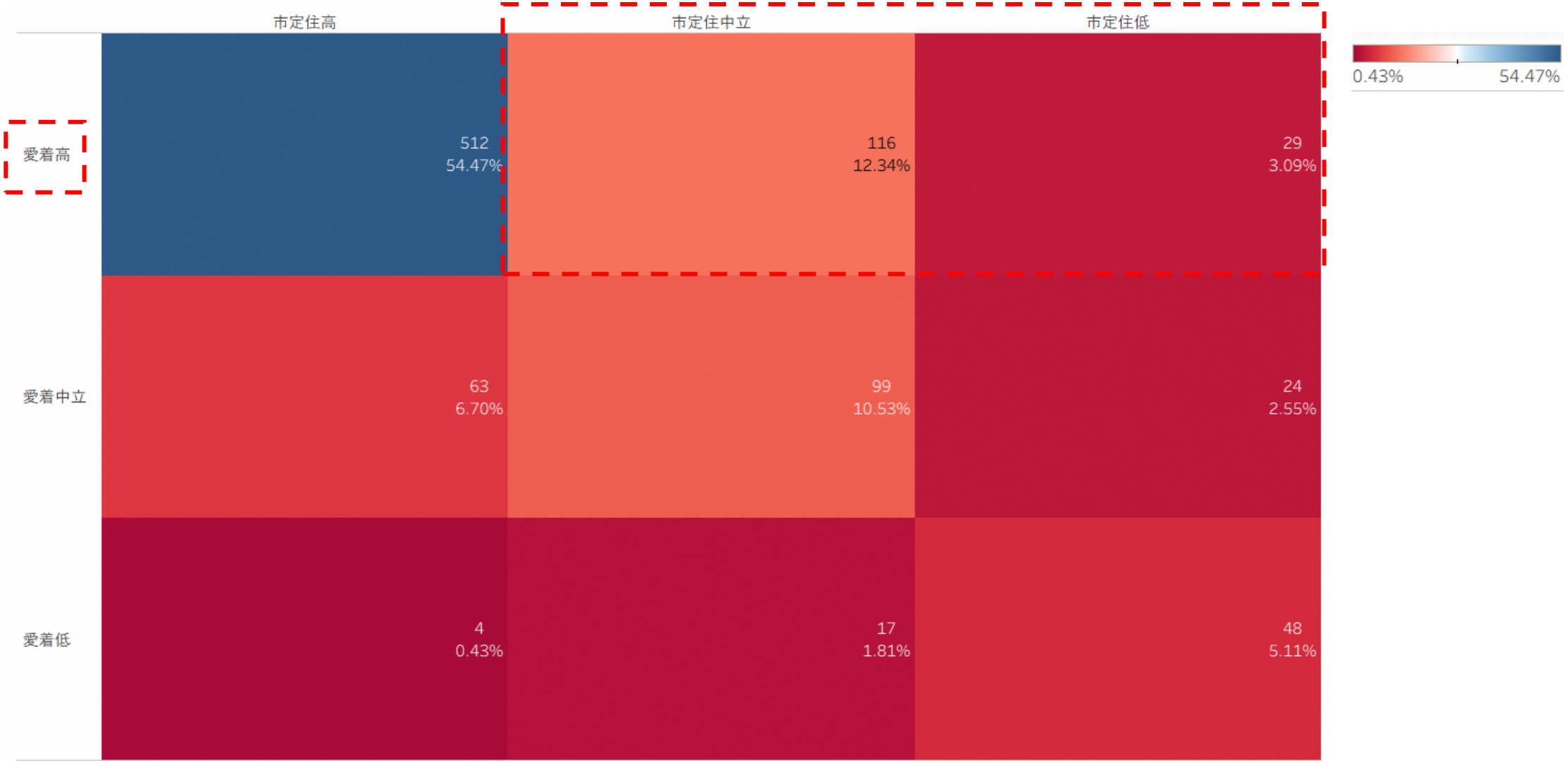
- 定住の理由は「生まれ育った地域だから」「家族・親族が近くにいるから」という出自と家族に集中する一方、転出・転居の検討理由は生活の利便性に集中している。利便性は定住を支える要因としてよりも、転出側の要因としてより強く表れている。
- 自由記述G2でも「移動・交通」「買物・飲食」「医療・福祉」に関する困りごとが多く挙げられ、免許返納後や加齢・健康状態の変化に伴う不安が併せて語られている（スライド8.2）。年代別では30・40代で「適当な職場が少ないから」が最上位となる（スライド7.1.2）。
- 生活満足度と相関の高い地域行政（相関係数0.47）は、相関0.4以上の因子が18と最も多く、複数因子をつなぐハブ的な位置にある。行政サービスのあり方への働きかけは、広い範囲へ波及し得る（スライド10.1）。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.3.1　論点②：利便性の改善と実感への転換（1/3－参考1）

地域創生
Coデザイン
研究所

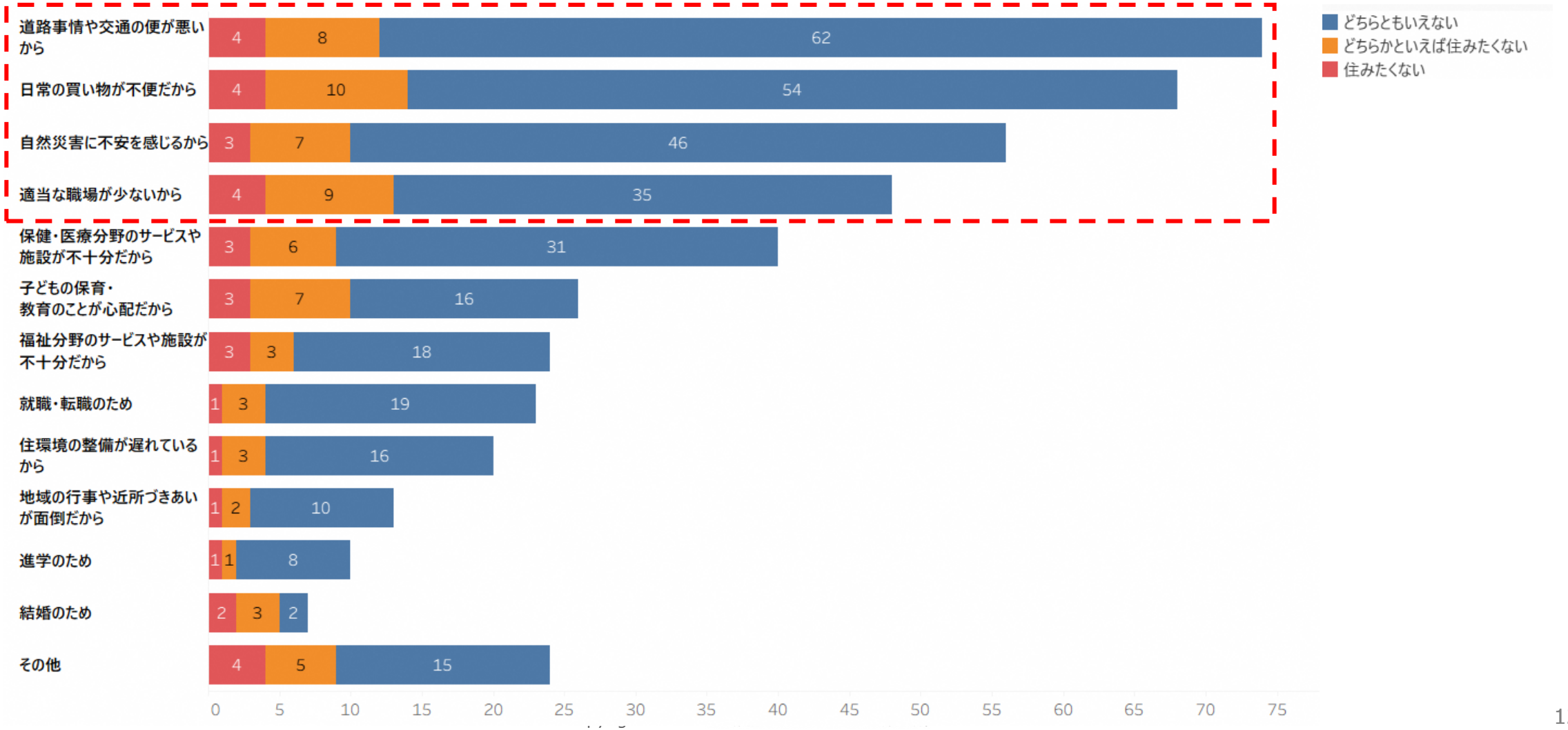
- 宇和島市への愛着と定住意向をクロス集計で見た際、愛着が高いにも関わらず定住意向が中立・低い層が一定数存在している。



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.3.1　論点②：利便性の改善と実感への転換（1/3－参考2）

- 当該層の転出・転居の検討理由として挙げられる項目は全体と概ね共通しており、交通・買い物・自然災害・雇用に関する事項が上位を占めている。
- 愛着度の高さにかかわらず、日常生活に関わる要因が転出・転居意向に影響していることが窺える。



11.3.1　論点②：利便性の改善と実感への転換（1/3－参考3）

- 宇和島市への愛着と受け入れやすい行政サービスの見直しをクロス集計で見た際、愛着が低い層ほど「どれも受け入れにくい」と回答する割合が高く、愛着と行政サービス見直しの受け入れには一定の関連がみられる。
- 行政サービスの見直しには市民の愛着の醸成が前提条件となり、市民を不在にせず、市民とともに考え・取り組むことが肝要と考えられる。

	利用者が少ない公共施設を統合し、機能を集約する	市の窓口の受付時間や対応方法を見直す	利用者負担（公共施設の使用料等）を見直す	行政サービスの一部を民間に委託する	どれも受け入れにくい
感じている	135 50.56%	96 35.96%	73 27.34%	50 18.73%	24 8.99%
どちらかといえば感じている	203 51.13%	124 31.23%	138 34.76%	96 24.18%	37 9.32%
どちらともいえない	82 43.39%	57 30.16%	50 26.46%	30 15.87%	27 14.29%
どちらかといえば感じていない	20 54.05%	9 24.32%	10 27.03%	6 16.22%	7 18.92%
感じていない	13 40.62%	8 25.00%	7 21.88%	5 15.62%	11 34.38%

8.99%　54.05%

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.3.2　論点②：利便性の改善と実感への転換（2/3）

- 24因子のうち21因子で主観偏差値が客観偏差値を下回り、平均差は▲16.2に達する。遊び・娯楽▲35.0、自然景観▲29.7、雇用・所得▲29.3など、実態が実感に届いていない因子が多い。
- 客観的な地域資源やサービス水準が住民の実感に結び付いておらず、実態の改善に加えて、既にある強みや取組を住民に伝える営みが重要となる。

主観と客観の乖離が大きい因子（上位5因子）

Well-Being因子	主観偏差値	客観偏差値	主観ー客観
遊び・娯楽	**20.0**	**55.0**	**▲35.0**
自然景観	**44.9**	**74.6**	**▲29.7**
雇用・所得	20.0	49.3	▲29.3
環境共生	20.0	48.9	▲28.9
子育て	22.1	49.5	▲27.4

該当スライド：9.6（全体的な特徴の把握）　※24因子の平均差は▲16.2

乖離が小さい／主観が客観を上回る因子

Well-Being因子	主観偏差値	客観偏差値	主観ー客観
健康状態	56.3	41.0	＋15.3
地域とのつながり	**61.5**	**54.9**	**＋6.6**
自己効力感	59.5	55.6	＋3.9
住宅環境	56.9	58.9	▲2.0
自然の恵み	59.2	62.1	▲2.9

該当スライド：9.6（全体的な特徴の把握）　※主観が客観を上回るのは上位3因子のみ

考察

- 象限別分析では、遊び・娯楽、自然景観、文化・芸術の3因子が「コミュニケーション戦略」に該当する。客観的な水準は高いにもかかわらず正しく認知されておらず、周知次第で主観の向上が見込める領域である（スライド9.13）。また、移動・交通や地域行政などは主観バイアス分析において回帰直線の付近に位置し、政策による実態の変化が住民の主観評価に比較的反映されやすい（スライド9.14）。
- 自由記述G5では、歴史・文化・観光資源や公共施設、人材について「もっと活かせる」との言及が多く、「PR・情報発信」への指摘も見られる。市民自身も客観との乖離を一定実感している様子が見られる（スライド8.5）。
- 行政サービスの見直しについては、「利用者が少ない公共施設を統合し、機能を集約する」が48.9%と最も受け入れられやすく、「どれも受け入れにくい」は11.4%にとどまる。住民に伝える営みを通じた主観の引き上げは大前提としつつ、市民の理解を得たうえで予算・取組の再編により新たな利便性改善の取組を模索することも必要と考えられる（スライド6.8）。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.3.3　論点②：利便性の改善と実感への転換（3/3）

- 移動・買物・医療という日常の不便に対しては、市民の理解に基づく予算・取組の再編も含めて実態の改善を図る。
- 併せて、客観的には高い水準にありながら実感に届いていない資源を市民に伝え・届けることで、同じ実態からより高い満足度を引き出す。

日常の不便に対応する	実感へ転換する	市民とともに取り組む
• 転出・転居の検討理由の上位は交通の便（53.5%）、日常の買い物（47.8%）、保健・医療（29.2%）であり、客観偏差値では中位でも、住民の転出意向に直結する不便と認識されている（スライド6.3）。 • とりわけ移動・交通は、政策による実態の変化が住民の実感に反映されやすいニュートラルな領域であり、実態改善に取り組む優先度が高い（スライド9.14）。 • 一方、医療・福祉と買物・飲食は客観偏差値が中位でありながら主観偏差値が大きく下回るネガティブバイアス因子であり、実態改善と並行して「実感への転換」が不可欠となる（スライド9.13／9.14）。	• 遊び・娯楽（客観55.0）、自然景観（客観74.6）は客観的に高い水準にありながら主観が大きく下回る。既にある資源が十分に魅力として伝えきれていない可能性がある（スライド9.6）。 • 自由記述G5でも、歴史・文化・観光資源や公共施設、人材が「もったいない」と語られ、「PR・情報発信」への指摘が見られる（スライド8.5）。 • 新たな整備ではなく、既にある資源の見せ方・届け方を見直すことが、費用を抑えつつ実感を高める打ち手となる領域も存在している。	• 市への愛着は70.6%が感じている一方で、まちづくりへの関与・貢献意欲は「そう思う」側が27.6%にとどまり、愛着が参画に結び付いていない（スライド6.5／6.6）。 • 新しい学びや知識・技術への意欲は41.2%が高く、男性20代のように市の伸びしろに相当する領域をポジティブに捉えている層も存在する（スライド6.7／3.1）。 • 市民との協働は市民に呼びかけ・引き込む（＝伝える）取組でもあることから、実感の向上と担い手の広がりの双方につながり得る。

考察

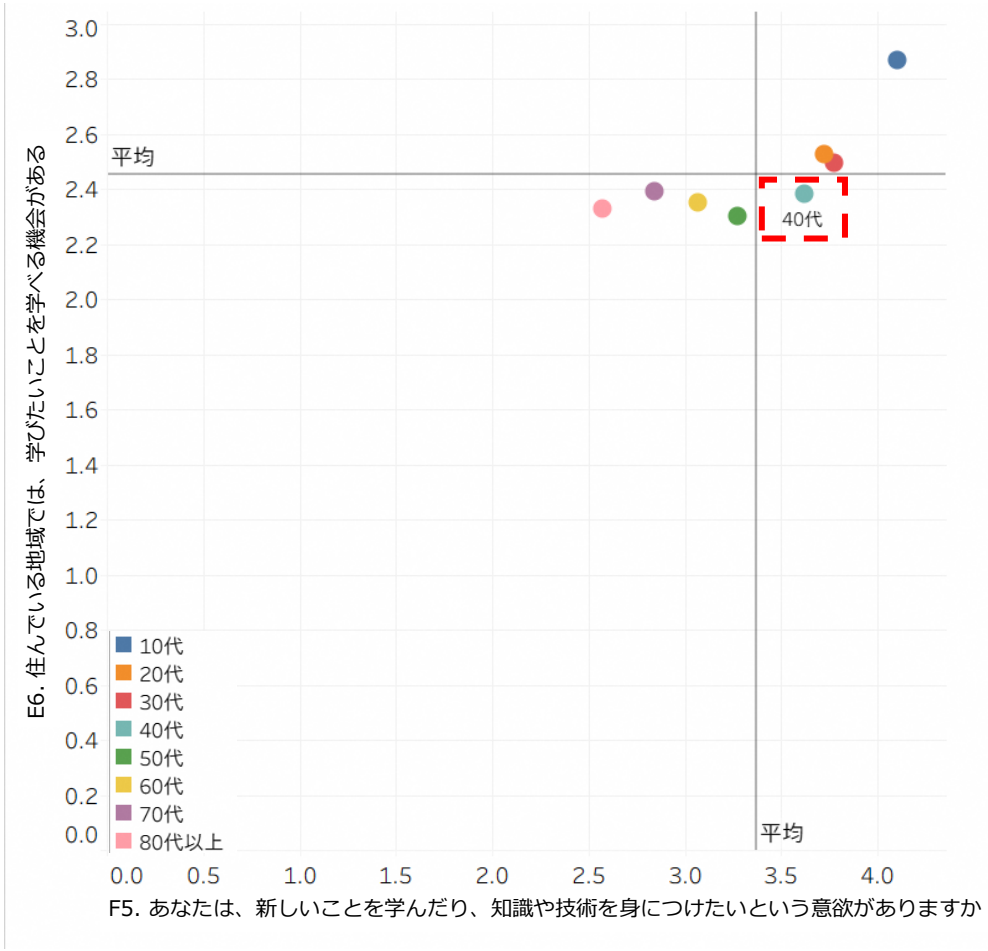
- 実態の改善と実感への転換は、いずれか一方では生活満足度の向上に結び付きにくい。限られた資源の中で両者を組み合わせ、市民とともに進めることが求められる。
- 論点①で示した「地域とのつながり」の強化と、論点②の「実態の改善・実感への転換」は、公共空間や地域行政といった因子を通じて相互に結び付いている。分野を横断して組み合わせることで、相乗効果が期待できる。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

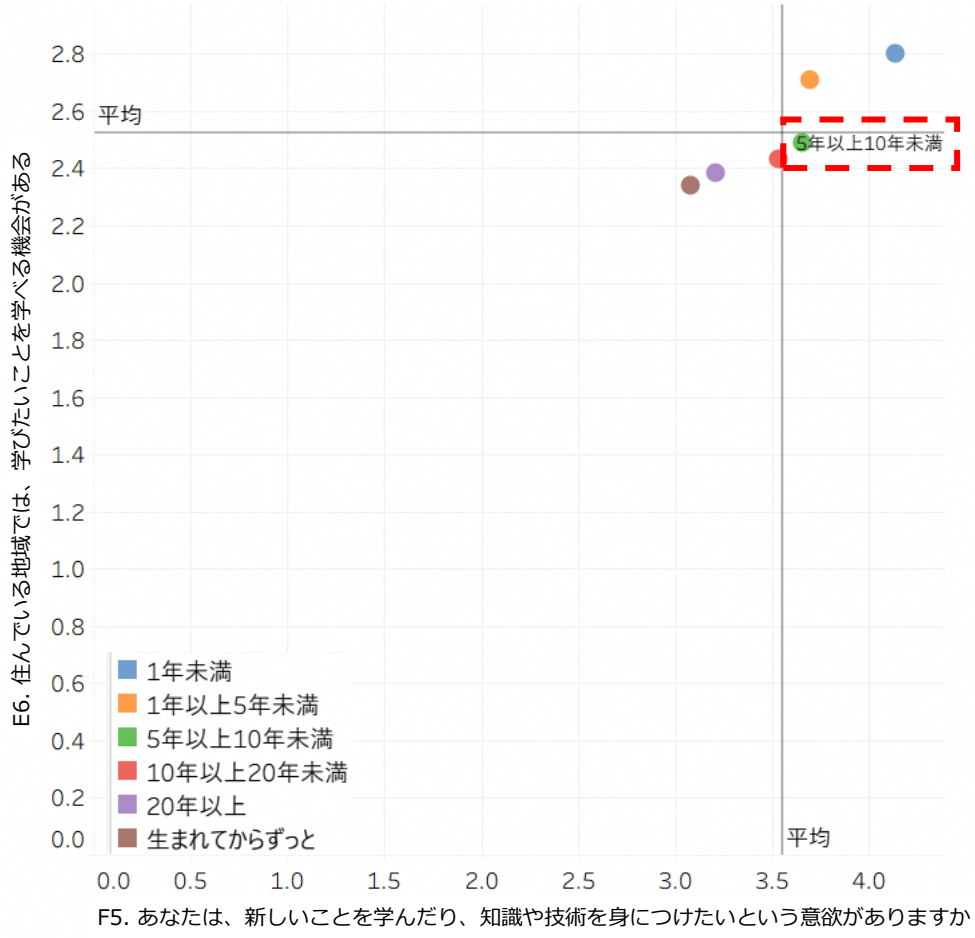
11.3.3　論点②：利便性の改善と実感への転換（3/3－参考1）

- 独自設問の新しい学びや知識・技術への意欲とWell-Being設問の教育機会をクロス集計で見た際、「意欲はあるが機会がない」層がスライド11.2.4で言及したつながりの実感の弱い層と重なることが確認できる。

《年代…40代》



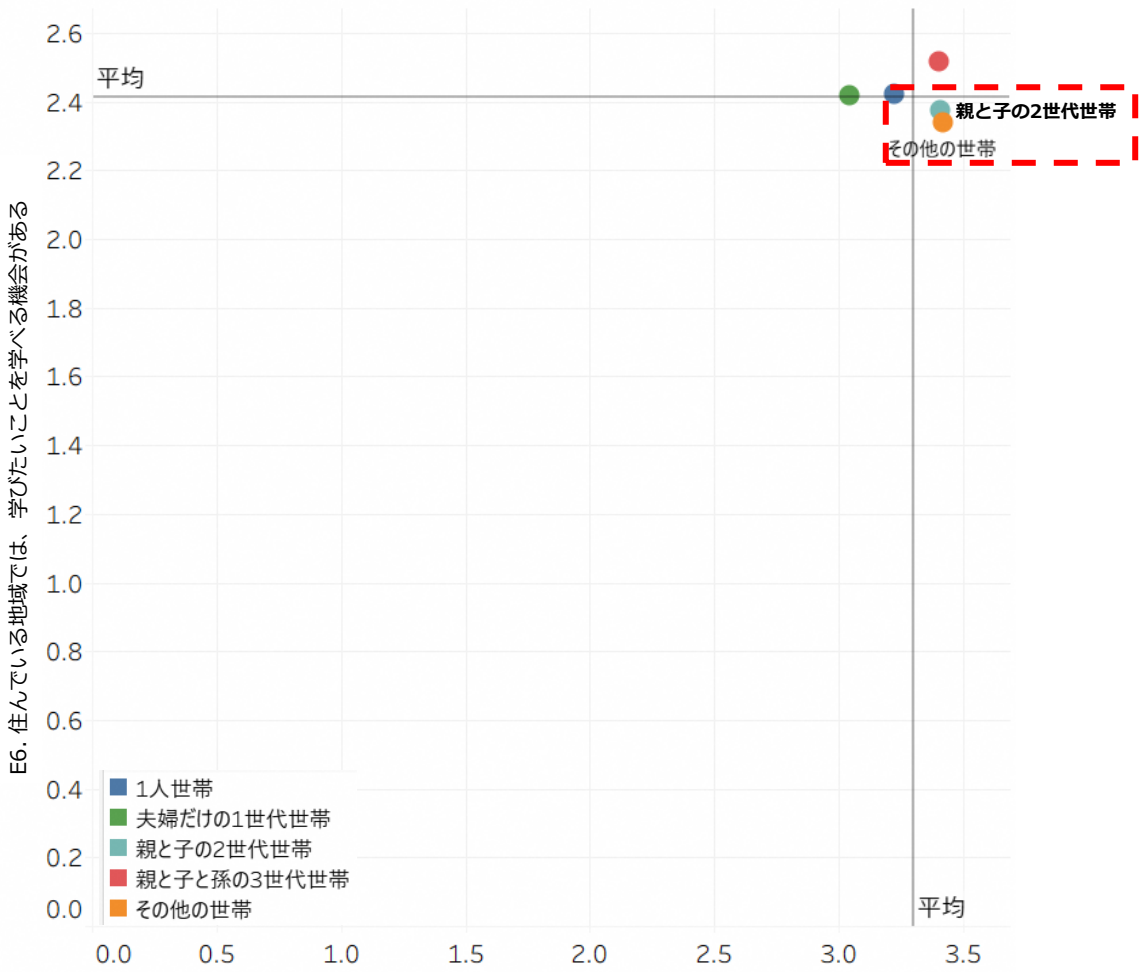
《居住年数…5年以上10年未満》



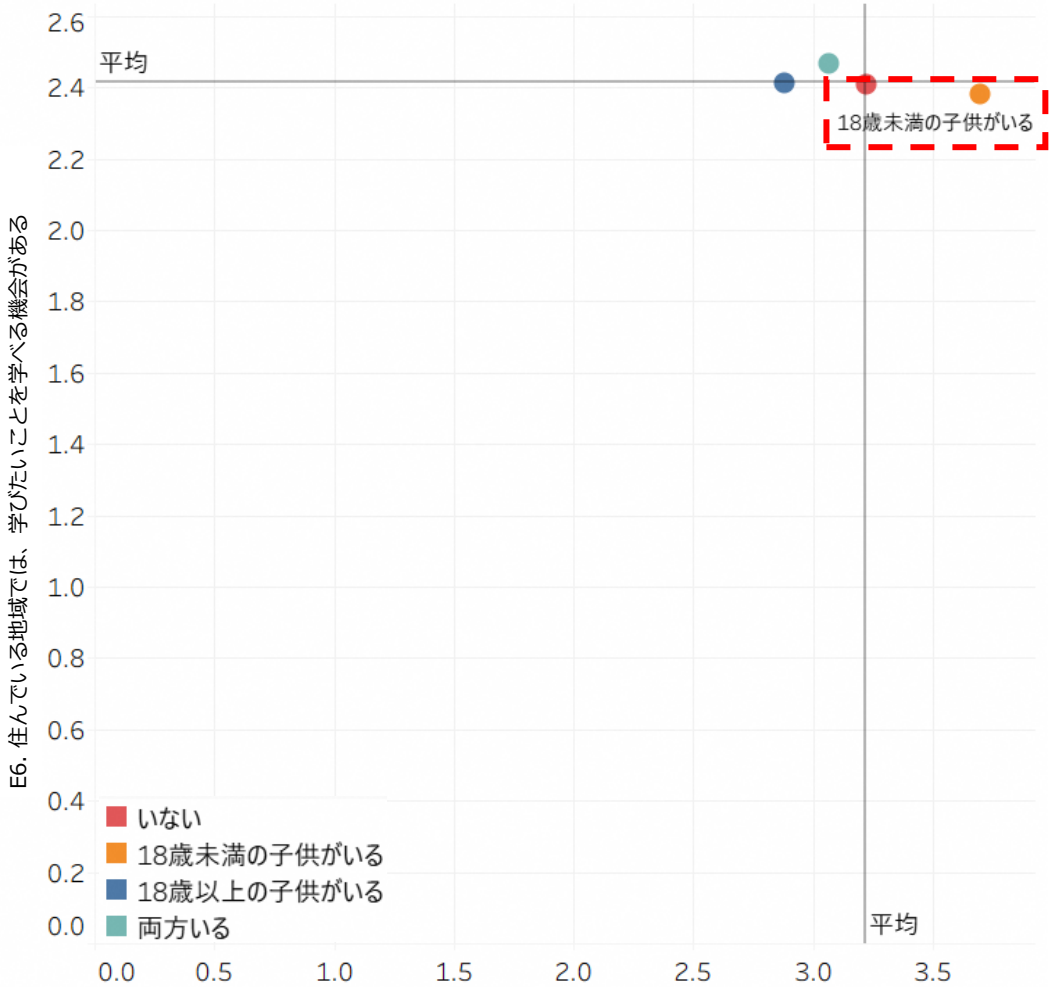
Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

11.3.3　論点②：利便性の改善と実感への転換（3/3－参考2）

《世帯構成…親と子の2世代世帯》



《子供の有無…18歳未満の子供がいる》



Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

おわりに

本章では、全ての分析結果を通して総括するとともに、今後に向けた提言をまとめる。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所

まとめと今後に向けて

- これまでの分析と論点を踏まえ、宇和島市のWell-Being向上に向けた今後の方向性を示す。
- 宇和島市は、地域とのつながりや自然の恵みという強みと、日常の利便性に関する構造的な課題を併せ持つ。強みを核に分野横断で取り組み、市民とともに継続的にWell-Beingを高めていくことが求められる。

■ 本調査から見えた宇和島市の姿

本調査を通じて、宇和島市は「地域とのつながり」「自然の恵み」「自己効力感」「住宅環境」など、暮らしの素地となる領域で高い水準の強みを有する一方、移動・交通や買物・飲食をはじめとする日常の利便性に課題を抱えることが明らかになった。幸福度は全国平均を0.3pt上回る6.7である一方、生活満足度は全国平均を0.9pt下回る5.7であり、「自分自身は幸せだが、地域の暮らしには満足しきれていない」という市民の意識が表れている。

■ まちづくりへの活かし方

本報告書で示した2つの論点は、いずれも単一の因子ではなく複数因子の相関構造を踏まえ、政策の縦割りを越えて分野横断的に取り組むことの重要性を示している。論点①は「地域とのつながり」という強みを公共空間と重ねて生活満足度と定住につなげること、論点②は日常の利便性について実態の改善と実感への転換を同時に進めることであり、いずれも第3次宇和島市総合計画の検討材料としての活用が期待される。なお、両論点は相関関係から効果が期待されるものであり、因果関係を直接示すものではない点に留意されたい。

■ 継続的な取組に向けて

Well-Beingの向上は、一度の調査や単発の施策で達成されるものではない。本調査はWell-Being指標を用いた調査であり、同一の指標で継続的に調査を実施することで、経年変化の把握が可能となる。変化を捉えながら、施策の効果を検証していくことが求められる。また、市民の70.6%が宇和島市に愛着を感じている一方で、まちづくりへの関与・貢献意欲は27.6%にとどまる。市民とともに課題や強みへの理解を深める対話の機会を重ねることが、実感の向上と担い手の広がりの双方につながると考えられる。

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所



地域創生Coデザイン研究所

Copyright 2026　地域創生Coデザイン研究所